医療安全全国共同行動（2008-10）の報告

いのちをまもるPARTNERS
医療安全全国共同行動

医療安全全国共同行動（2008-10）の報告

医療の質･安全学会、日本病院団体協議会、日本医師会、日本歯科医師会、日本看護協会、日本病院薬剤師会、日本臨床工学技士会の呼びかけで始まった医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”は、医療行為に関わる有害事象と有害事象に起因する入院中の死亡を低減するために、8 つの安全目標と推奨対策を、広くかつ早く全国の医療機関に広めることを目的とするキャンペーン事業で、2008 年 5 月にスタートしました。

従来、諸団体や学会が個別に進めていた医療安全の取り組みを、キャンペーン期間の優先目標を共有することでそれぞれの取り組みが効果的に連携し、職種や専門の壁を超えたチーム・アプローチを容易にし、シナジー効果を発揮することをめざしました。

2008 年 5 月 17 日に日本経団連会館で行われたキックオフ・フォーラムを皮切りに、近畿、北九州、東北で地域のキックオフ・フォーラムを開催し、共同行動の趣旨への賛同と参加を呼びかけるなど、主に参加団体と地域フォーラムを通じての呼びかけとホームページでキャンペーンの趣旨を伝えるよう努めました。このような医療界挙げての共同行動は日本では初めてのことで、また事業財源の制約もあり、文字通り手作り、手探りで進めてまいりましたが、幸い多数の団体、学会の協力をいただき、共同行動の存在がしだいに知られるようになってきました。地域推進拠点をお引き受けいただいた地域の機関・団体のご尽力により、各地で 27 回の地域フォーラムや支援セミナーを開催し、また、協賛いただいている企業にも 8 目標の実現を援ける研修会の開催や開催へのご支援をいただきました。

また、100 名を超える多職種の専門家の方々がボランティアで支援活動に従事していただいており、8 つの目標を実現するためのハウツーガイドや支援ツールの開発、メールやネット相談室を通じてのアドバイス、フォーラム分科会やセミナーの開催など、医療機関の取り組みへの支援にご尽力をいただいています。

参加団体・参加施設・協賛団体の協力、日薬連はじめ多くの企業にご支援をいただいたおかげで、2009 年から、定期報告に基づく進捗状況のグラフ化、標準化病院死亡比の測定、9 月からはウエブマガジンの発行も行えるようになり、参加施設のご協力により取組み事例、成功事例の紹介も増えてきました。　支援チームと協賛団体のご協力により、ビデオ教材の開発、提供も行っています。また、2010 年からインターネットの公開動画サイトから動画映像の提供も始まるなど、ようやく共同行動が軌道に乗ってきたところで 2 年目を迎えました。

これまでに参加協力団体として８２の医療団体・学会が、また地域推進委員会に 49 の地域団体がご参加いただき、613 の病院が参加登録して、8 つの目標の実現に取り組んでいます。　参加登録病院のアンケートでは、ほとんどの施設が参加してよかったと答え（97.5%）、その理由として、目標が明確になったことや、参考になる情報や知識が得られたことを挙げています。

定期進捗報告によると、推奨する対策 59 項目のうち、報告開始時に 50%以上の施設で対策が浸透済み（対象となる部署のすべてで実施されている）とされた項目は当初 12 項目でしたが、最新の報告では 29 項目に増えました。また、共同行動期間中に 40%以上の施設で進展が見られた項目が 29 項目に上るなど、各病院で安全対策が浸透しつつあることがわかりました。

共同行動では、改善効果を見る総合的な指標として欧米諸国で用いられている標準化病院死亡比

の HSMR 基準値の算出と共同行動参加登録病院における変化の分析を依頼しました。185 施設から提供された DPC データを基に、2008 年を基準値 100 として半年ごとの HSMR を算出し経年変化を分析した結果、共同行動参加登録病院 147 施設の HSMR は、98.5 から 90.7 に低下していることがわかり、医療安全への真摯な取り組みの成果がすでに現れつつあることが示唆されました。

これらのことから、共同行動の輪をさらに広げて所期の目的を実現するために、共同行動を継続することが決定されました。第 2 期共同行動では、8 つの目標に「安全な手術－WHO 指針の実践」を加え、患者取り違えや異物遺残・術創感染の防止など手術に伴う有害事象の低減をめざします。また、病院だけでなく診療所にも参加を呼びかけ、地域推進拠点の協力により、患者さんと医療者がともに安心して治療に専念できる環境づくりに向けて地域での経験交流と相互協力の推進をめざします。

◆ **参加登録施設・参加協力団体と活動実績**

- 参加登録病院　613 施設
- 参加協力団体　82 団体
- 地域推進拠点　6 団体・機関
- 地域推進委員会　1(加盟 49 団体)
- 全国フォーラム　6 回
- 地域フォーラム・セミナー　27 回
- 支援ツール提供　96 点
- ネット&メール相談室

◆ **参加登録病院アンケート**

・参加してよかった　98%

- 医療安全の取り組みの目標が明確になった　70%
- 取り組みの参考になる知識や情報が得られた　87%
- 他の病院の取り組み事例が参考になった　67%

◆ **推奨対策の実施度**（59 項目のうち）

・40%以上の施設で浸透が進んだ＝29 項目

・浸透済みの施設が

50%～75% ＝　8 項目➡　22 項目

75% 以上 ＝　4 項目➡　7 項目

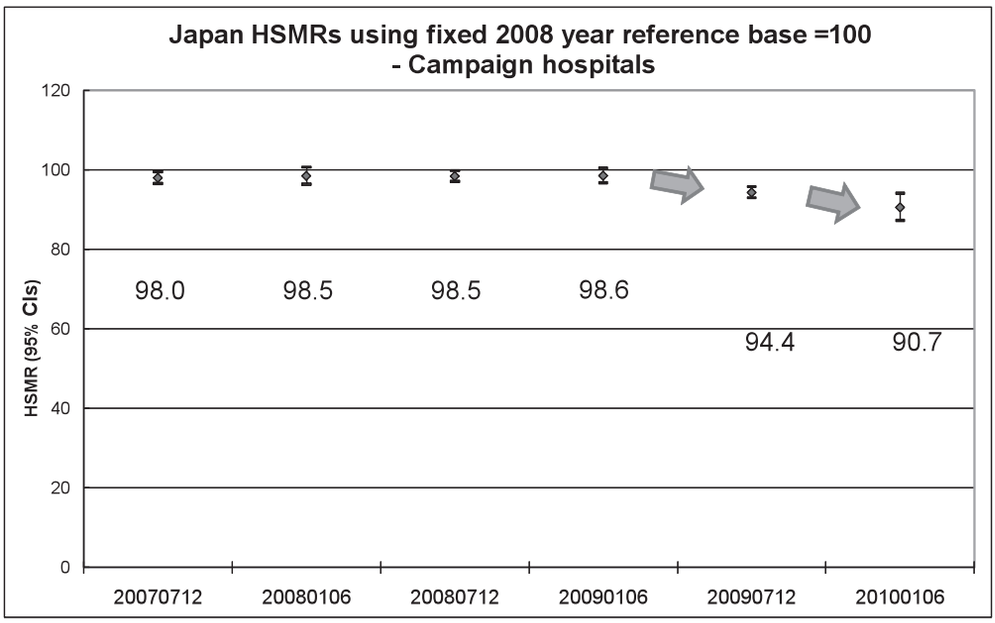
（＊ 定期進捗報告施設）

◆ **標準化病院死亡比 の推移**

（2008 年を基準値 100 とする HSMR）

➡　2009 年、2010 年とも低下

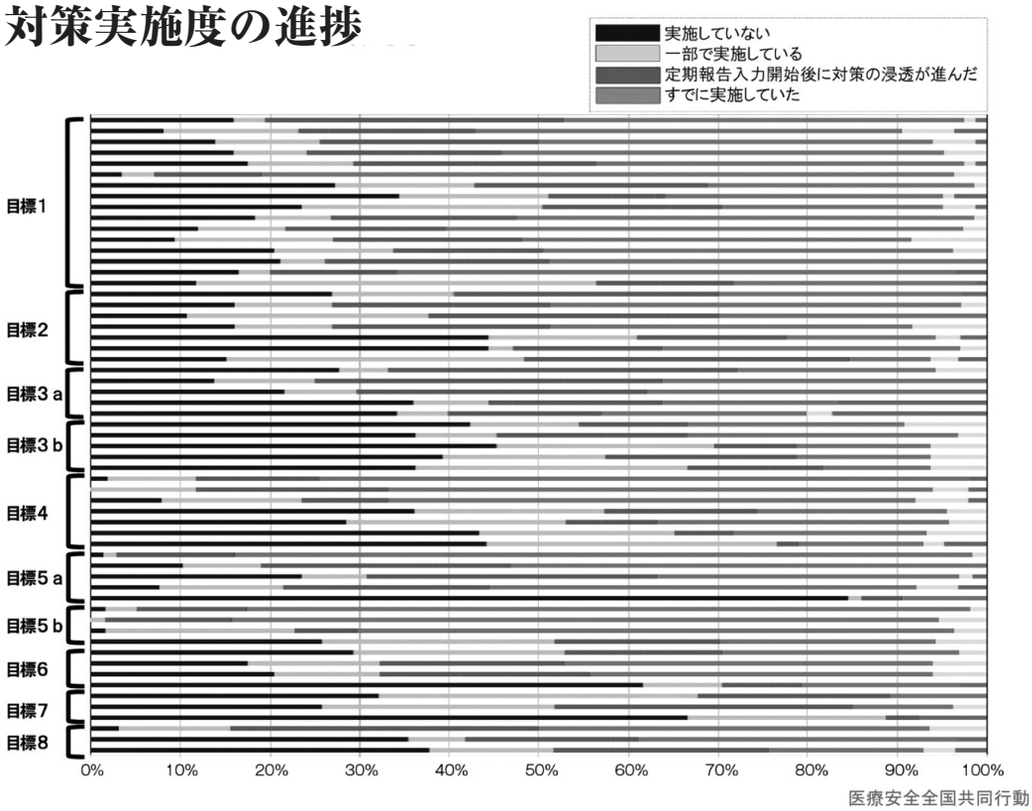
共同行動参加登録病院の標準化病院死亡比（HSMR）の推移（2008 年を基準値 100 とする）



©医療安全全国共同行動企画委員会
Sir Brian Jarman & アウトカム評価研究班

147 施設

対策実施度の進捗



共同行動キャンペーンポスター

医療安全全国共同行動の目的

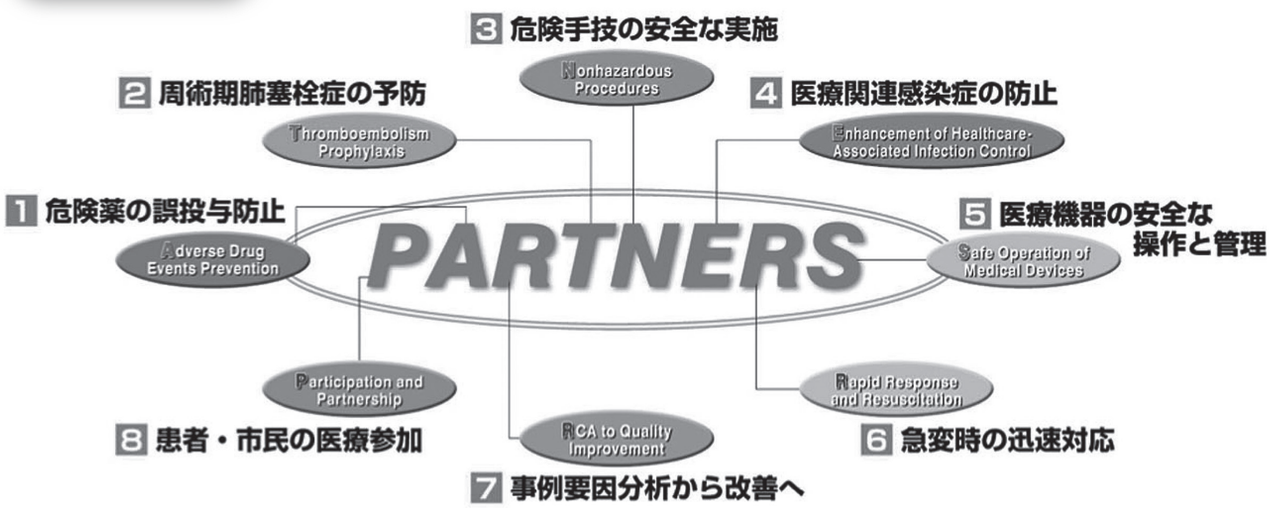
1．医療の質・安全の向上を目指す取り組みの普及
2．医療の質・安全向上の取り組み成果を可視化
3．医療に対する患者・市民の信頼の向上

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

2008年5月17日
医療安全全国共同行動キックオフ・フォーラム
（経団連ホール／東京）

2008年11月24日
医療安全全国フォーラム（東京ビッグサイト会議棟）

行動目標



医療安全全国フォーラムでの特別講演

W・A・コンウェイ氏（ヘンリーフォード病院診療部長兼質改善委員長）
2008年11月24日

ブライアン・ジャーマン氏（ロンドン大学名誉教授・前英国医師会長）
2009年5月30日

ギュンター・ヨーニッツ氏（ベルリン医師自治機構会長／ドイツ連邦医師会質保証委員） 2009年11月23日

李 啓充氏（コラムニスト、元ハーバード大学医学部助教授）
2010年11月27日

テレビ会議とネット中継

2010年5月15日 医療安全全国共同行動2周年記念フォーラム

2010年11月27日 医療安全全国フォーラム

行　動　の　活　動（2008～2010）

医療安全全国共同行動支援セミナー

実技講習会「経鼻栄養チューブの挿入留置」 2010年5月15日

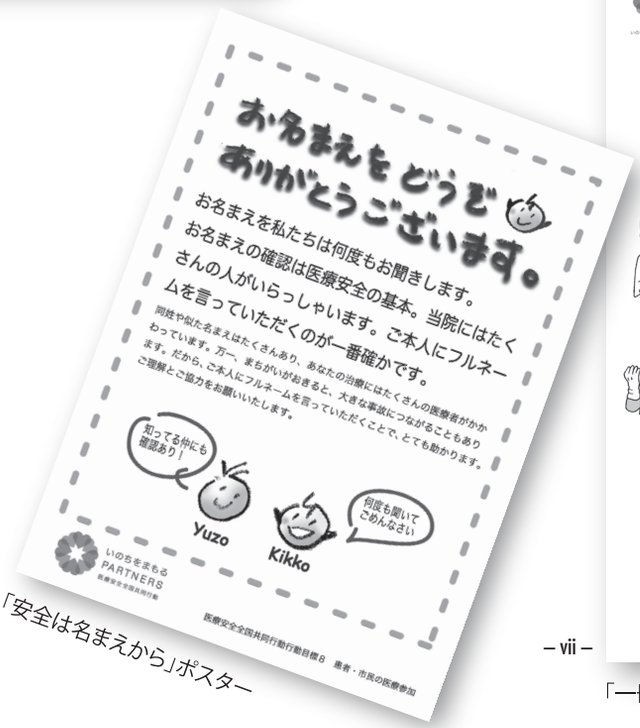
共同行動支援セミナー「急変時の迅速対応」 2009年5月31日

目標別ワークショップ

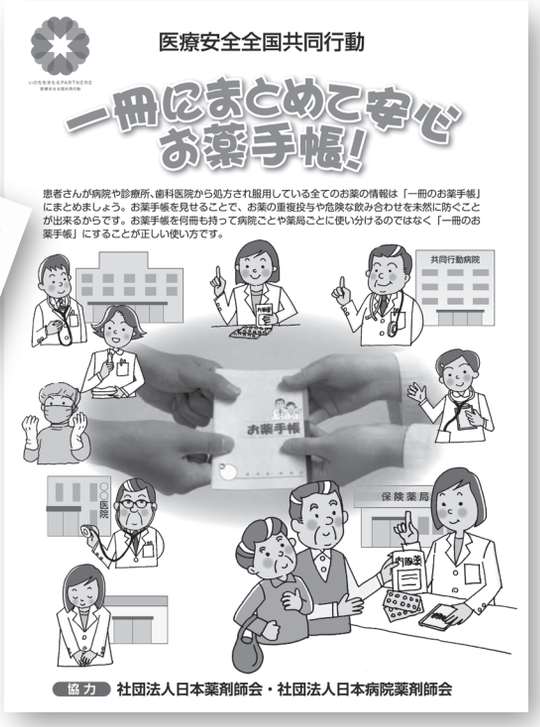
「患者さんは医療安全のパートナー」
2010年5月15日　医療安全全国共同行動2周年記念フォーラム

「事例分析から改善へ」 2009年11月23日　医療安全全国フォーラム

推進ポスター（行動目標8）

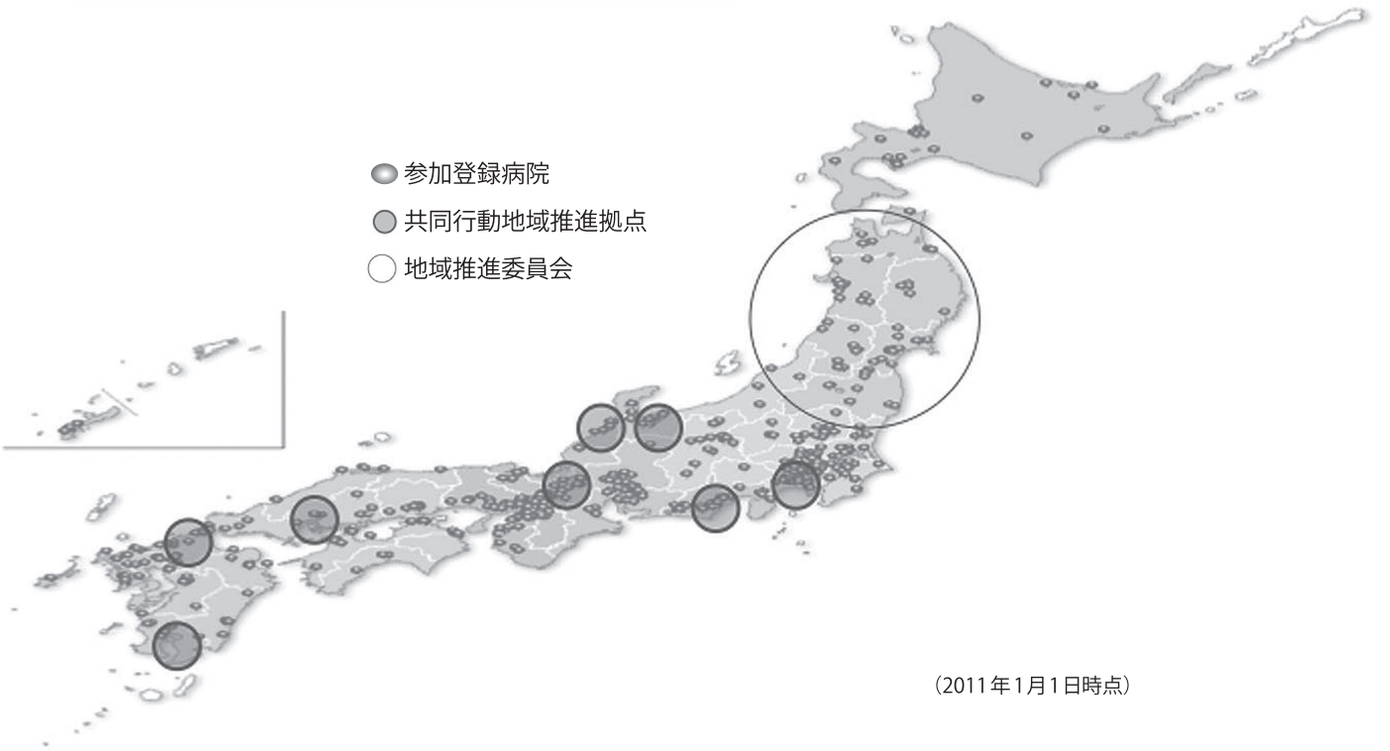


「安全は名まえから」ポスター



「一冊にまとめて安心お薬手帳」ポスター

共同行動地域推進拠点と地域推進委員会



（2011年1月1日時点）

医療安全全国共同行動（2008 ～ 2010）の記録

2008 年 5 月 17 日
医療安全全国共同行動キックオフ・フォーラム
（東京、経団連ホール）

2010 年 11 月 27 日
医療安全全国フォーラムのパネル討議
「共同行動の新たな展開への提案」
（千葉、幕張メッセ）

2009 年 5 月 30 日
医療安全全国フォーラムのエンディングで挨拶する支援チームの先生方
（東京、日本教育会館）

目次

挨拶　1
趣意文　5
医療安全の基本的な考え方と共同行動の意義　5
医療安全全国共同行動 8つの行動目標と推奨する対策　6
患者家族・市民からのメッセージ　7
応援メッセージと海外からのメッセージ　8
推進会議と企画委員会　13
共同行動のパートナーズ　15
共同行動年表（2008 ～ 2010 年）　22
フォーラムとセミナー　24
病院の活動　27
パートナーズのメッセージ　35
共同行動ホームページとウェブマガジン　40
支援ツールほか　45

挨　拶

（役職は寄稿当時）

医療安全全国共同行動に寄せて

医療の質・安全学会理事長
高久　史麿

医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”（日本版 100K キャンペーン）が本年の 5 月 17 日に東京で開催されるキックオフ・フォーラムを契機としてスタートすることとなった．この共同行動は、医療の質・安全学会、日本病院団体協議会、日本医師会、日本看護協会、日本臨床工学技士会が呼びかけ団体となり、3,000 以上の病院の登録、30 カ所以上の推進拠点、30 万件以上の有害事象件数の低減、1 万人以上の入院死亡者数の減少を目指すキャンペーン事業で、２年間の実施期間を予定している．この運動に実際に参加していただくのは勿論各病院であるが、その企画の中心となるのは医療の質・安全学会である．本年 5 月から 2 年間をキャンペーン期間として定めているが、このような運動は我が国において恒常的に行われるべきであり、このキャンペーンを契機として我が国の医療界挙げて今回のような全国的な医療安全に恒常的に取り組むようになることを期待している．また、医療の質・安全学会はこの運動の企画を学会の日常活動として今後続けるべきであると考えている．学会員の方々の積極的なご参加を強く期待している．

（2008 年）

「いのちをまもるパートナーズ・キャンペーン」に寄せて

日本病院団体協議会議長（2008 年度）
山本　修三

医療の質を高め、安全な医療を提供することは、医療を提供するものの使命である．しかし、一方で医療行為によって、患者に不幸な結果をもたらすことも少なくない．人間は年齢、性別、職業等を問わず、誰でもミスを犯すことがある．しかし、医療行為のミスは、ひとつのミスが一人の死につながる点で、他の職業的なミスとは本質的に異なる．だから各国の医療提供者たちは、わが国も含めてこの問題にこれまでも真摯に取り組んできた．

今回、医療の質・安全学会の呼びかけで、アメリカで成功したといわれる“10 万人の命を救え”キャンペーン活動（いわゆる“100 K”キャンペーン）を踏まえ、医療行為に伴う不幸な死を減らすための医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”キャンペーンを行うこととなった．日本病院団体協議会はこの趣旨に賛同し、全国の病院に働きかけこのキャンペーンに参加する．日本医学会、日本医師会、日本看護協会等医療提供者はもとより、国民、患者あるいは医療界以外の各界の理解と協力もいただきながら進めるこのキャンペーンは、医療の安全文化の醸成に新しい風を吹き込むことになろう．

この活動は、今検討されている医療関連死の死因究明と再発予防に係る新たな仕組みと共に、両輪の輪として国民、患者の安全を守るために、医療側が自らの責任を果たしてゆくという意思を行動で示すものであり、医療の信頼性をさらに高める行動といえよう．

（2008 年）

医療安全全国共同行動に寄せて

日本病院団体協議会議長（2009 年度）
小山　信彌

医療安全全国共同行動が、本格的に活動し始めてからすでに 1 年以上が経過した。当初は、この運動をさまざまな病院へ紹介するのに大変な労力を要した。なかなかこの運動が周知されるのに時間がかかり、ようやく今年になって 500 病院を超えてきたところである。目標は 3000 病院であるから、いかにこれからの努力が必要かはおのずと知れてくる。

今回のこの運動は、医療の質・安全学会の呼びかけで、アメリカで成功したといわれる“10 万人の命を救え”

キャンペーン活動（いわゆる“100 K”キャンペーン）を踏まえ、医療行為に伴う不幸な死を減らすための医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”キャンペーンを行うことになった。日本病院団体協議会はこの趣旨に賛同し、全国の病院に働きかけこのキャンペーンに参加する。特に私は大学病院に所属しているので、この1年間は、各病院団体を通じて、このキャンペーンへの参加を呼びかけるのであるが、特に大学病院の参加に力を注ぐつもりである。

この活動は、医療関連死の死因究明と再発予防に係る法案成立に向けて、話し合いが進められているが、新たな仕組みとともに、国民に安心して、安全に、高度な医療が受けられるように、医療側が自らの責任を果たしてゆくという意思を行動で示すことであると考える。

（2009年）

ご挨拶

社団法人 日本医師会会長（2008・2009年度）
唐沢　祥人

今日のわが国は、不幸にして医療事故による死亡が起こると、医師法21条による警察への届出義務に始る刑事訴追の誤った仕組みが出来上がっており、真剣に医療に励んでいる善意の医師が、安心して医療を行なえる環境ではなくなっています。そこで、現在死亡事故に対する刑事司法の関与は極めて限定した事例にする方向の取り組みが進んでいますが、これは医療安全の一環とはいえ、医療事故が起こった後の問題を解決するという視点であります。

しかし、これからは医師と国民との信頼関係を再び構築するためにも、医療事故が起こる前の課題として、医師も診療機関も自ら、医療事故による死亡を如何にして削減していくかの対策を強力に推し進めていく必要があります。この度、医療の質・安全学会（高久史麿理事長）の呼びかけにより、全国病院施設が一斉に医療事故による死亡削減のための『医療安全全国共同行動』を開始することになったことは、誠に時機を得た、極めて有意義なことと、心より敬意を表します。

日本医師会会員は、この医療安全全国共同活動に積極的に参加し、成功させて、医療事故削減の成果を得ることに、貢献したいと思います。

（2008年）

ご挨拶

社団法人 日本医師会会長（2010・2011年度）
原中　勝征

医療安全全国共同行動が開始されてからまもなく2年間が経ちますが、これまで数多くの方々が、日本全国のみならず海外でもご尽力され、地域交流の機会と態勢が出来てきたとうかがっております。医療者が職種や立場の壁を超え一致団結協力し、さらに患者・市民も一緒になって、医療安全という同じ方向を目指して活動してきたことは、極めて有意義なことと心より敬意を表します。また今後、更にエネルギーを注いでいくことが必要であるとも思っております。

日本医師会内の「医療安全対策委員会」では、この行動開始とほぼ同時期に、事故予防に焦点をあてた方策をたてることを試みました。そして、有床・無床診療所においても実行可能かつ、重点的に取り組むべきものとして9項目を整理し、平成22年3月に「医療事故削減戦略システム」という冊子にして、全会員へ配布致しました。今後はこの内容を周知徹底させ、会員一人ひとりが率先して、現場で実践していただくことを目標としています。

医療安全全国共同行動は、これから新たなステージを迎えますが、本会としましても、共同行動の輪が更に広がることを祈念し、引き続き呼びかけ団体としてこの活動に参画して参ります。

（2010年）

医療安全全国共同行動への参加にあたって

社団法人 日本歯科医師会会長
大久保　満男

医療安全対策は、国民の医療に対する信頼を確保するために非常に重要なことであり、われわれ医療従事者が担う役割や社会的責任は近年特に大きくなっています。

日本歯科医師会は、平成 18 年 10 月より「歯科診療所は、国民の視点にたって歯科医療の質の向上と安全確保をめざし、安全で安心、信頼される歯科医療サービスを提供できるように務めること」を理念として、歯科医療安全対策ネットワーク事業を実施し、歯科診療所での医療事故の発生予防、発生時対応、再発防止対策を講じるために、医療事故の事例について収集・集計分析等を行い、歯科医療安全の推進に取り組んでいます。

本会は共同行動の主旨である「医療に従事するすべての職種の人々、病院、病院団体、専門職能団体、学会他さまざまな医療団体が、安全な医療を実現するために職場や立場を超え一丸となって医療安全対策の実施と普及に取り組む」に賛同し、この度、呼びかけ団体として参加いたしました。

この共同行動が、安全・安心で良質な医療提供の一層の充実に資することを祈念し、本会は呼びかけ団体として務めてまいる所存です。

(2008 年)

医療安全全国共同行動開始に寄せて

社団法人 日本看護協会会長
久常　節子

平成 20 年 5 月 17 日、医療安全全国共同行動が開始されますことは提案者の一人として嬉しく存じます.

日本看護協会は、医療事故防止対策活動元年ともいえる 1999 年にリスクマネジメント委員会を立ち上げ、医療安全確保のために検討を開始しました. 同年 9 月には看護管理者に向けて、リスクマネジメントガイドラインを発行しました. また、翌年には医療安全管理者養成研修を開催し 2007 年までに約 3,000 名を輩出してまいりました. 本会は、医療安全対策活動初期より医療安全のためには組織的取り組みが必要と考え提唱してまいりましたが、当初、看護管理者や看護職医療安全管理者は孤軍奮闘しておりました. さらに、2003 年には医療安全対策室を設置し、厚生労働省が提唱した「患者の安全を守るための共同行動（PSA：Patient Safety Action)」の趣旨に賛同し、医療従事者のみならず市民に向けての啓発活動に努めてきました.

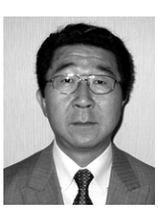
今回の医療安全全国共同行動が医療者の職種や立場を超え、医療を担う病院とそれを支えるさまざまな団体が協力して取り組まれることは大変意味深いことと存じます.

医療関係者が専門職としての英知を結集し、患者・国民とともに手を携え医療の安全と信頼回復のためのこのキャンペーンに多くの医療施設が参加することを期待しております.

（2008 年）

医療安全全国共同行動の発足にあたって

社団法人 日本臨床工学技師会会長
川崎　忠行



医療事故が社会問題化され、全ての国民の大きな関心事であることは周知のことであり、安全に安心して受けられる医療の確立は医療を受ける側のみならず医療を提供する側、双方の望みでもあります. この度、医療の質・安全学会より医療安全全国共同行動の提案を頂き、人工呼吸器等の医療機器の専門医療職の団体として提案趣旨に賛同して参画させて頂くこととなりました. 現代医療は各医療関係職種においてや同一職種においても専門分化が著しい一方で、それらの専門職間の適正な連携については、チーム医療という概念は構築されてはいるものの実践面においては充分とは言えません. この多様化・高度化する医療への対応の一つとして専門職から構成されるチーム医療が医療の質と安全確保につながるものと考えます. この観点から、各医療関係職種団体等が共同して安全キャンペーンを行うことは医療安全に大きく貢献するものと確信致します.

（2008 年）

“10 万人の命を救え” キャンペーンからのビデオメッセージ

米国医療質改善研究所 (IHI) CEO
D. Berwick 博士

ドナルド・バーウィックです。私は医療質改善研究所（IHI）の CEO を務めています。

ＩＨＩは世界の医療の質の向上を促す非営利組織です。また私はハーバード医学校で小児科学及び医療政策学の教授を務めています。ハーバード公衆衛生大学院の教授も兼務しています。

今回 医療安全全国共同行動キックオフ・フォーラムでごあいさつの機会をいただき、心から感謝申し上げます。私がとてもうれしく思うのはこの活動の目的に大いに賛同できるからです。皆さんの熱意で仲間が増えつつあるようですね。キャンペーンを運営する関係者の皆さんに対し、この場を借りて感謝と祝辞を申し上げます。医療の質・安全学会理事長の高久史麿先生、日本病院団体協議会議長の山本修三先生、日本医師会会長の唐澤祥人先生、日本看護協会の久常節子会長、日本臨床工学技士会の川崎忠行会長にお礼を申し上げます。また 本キャンペーンの私の同僚であり、古くからの友人である上原鳴夫先生にも感謝の言葉を申し上げます。

2004 年にＩＨＩは、安全な医療の技術や知識を広めようと考えました。全米を対象とした規模です。2004 年の 12 月に米国初となる患者の安全のためのキャンペーンを展開しました。“10 万人の命を救え ” キャンペーンです。過去の経験を存分に生かし、具体的な 6 つの行動目標を全米に提案したのです。例えば、もし すべての病院がこのキャンペーンに真剣に取り組んだとしますと、防げるだろうと思われる死亡の数はおそらく 18 か月間で 10 万人にまで上るはずです。そこで全国に呼びかけたのです。

“10 万人の命を救え ” 作戦を始めてみると全米各地で大きな反響があり、大変 驚きました。インターネットや電話を使い、資料も提供しました。そして目標の 18 か月後には 3100 余りの病院が参加していました。無償の活動に これだけの数の病院が参加してくれたのです。病院での成果は上々でした。米国における死亡率は年々減少傾向にありますが、キャンペーン中はとくに低い数字になりました。これがキャンペーンの成果だと断言はできませんが、参加した人々の熱意はたいへんなものでした。また、たくさんの病院の協力が得られたのです。

この勢いをそのままに、2006 年 12 月からは “500 万人の命 ” 作戦というキャンペーンを始めています。今回は患者さんの死亡だけではなく医療に伴う傷害を避けることも目的としました。２年間で 500 万人の患者さんを傷害から守ることが目標です。２年目に入っているこのキャンペーンでは新たに 6 つの行動目標を加えています。

米国でのキャンペーンを通して人々の情熱と知恵が医療分野に注がれています。患者さんやその家族からは数多くの感謝の声が届いています。驚いたことに米国の患者さんからはこの活動に対する懸念や怒りはありません。“ 患者は危険なのか ” という怒りの声ではなく、お礼の言葉が届いています。人々の努力によって米国の医療が新たなレベルに達しているのを感じています。医療安全全国共同行動が日本で行われることは非常に心強く喜ばしいことです。私たちへの大きな励ましとなるでしょう。皆さんの活動が成功することを見守っていますし、協力は惜しみません。改めてお祝いの言葉と感謝を申し上げ、今後リーダーシップを発揮されることを期待します。今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

（http://kyodokodo.jp/080517forum_video.html　2008 年 5 月 17 日）

2008 年 5 月 17 日、医療安全全国共同行動キックオフ・フォーラムにて記者会見が開かれ、共同行動の趣旨が説明されました（東京、経団連ホール）

2008 年 11 月 24 日、医療安全全国フォーラムにて共同行動ロゴマーク入りＴシャツのアピールが行われました（東京ビッグサイト会議棟）

趣　意　文

あい次ぐ医療事故によって、いま医療に対する信頼が大きく揺らいでいます。

医療従事者は医療の安全確保に日々努力を重ねています。しかし、欧米の調査によると入院患者の 3%～ 16%において医療行為に伴う何らかの傷害（有害事象）が生じており、米国医学研究所は、そのうち半数強は回避可能なものでこれらの傷害が関与して死亡したと推定される死亡の数は年間 44,000 人から 98,000 人に上ると報告し、医療システムの質と安全を早急に改善する必要があることを指摘しました。日本の調査では、入院患者の 6.8% で有害事象が生じていることが報告されており、これはカナダでの発生頻度とほぼ同じであることを示します。

医療過程で生じる有害事象には本来回避可能なものと不可避のものがありますが、これほど多くの有害事象が多発する現実を直視すれば、これら多発する有害事象を可能な限り低減させ、かつ有害事象から患者さんの生命を守るために全力を尽くすことは医療に関わるすべての人々の責務であります。

米国では医療質改善研究所とその呼びかけに応じた多数の団体の協力により、“10 万人の命を救え ” キャンペーン (100K Lives Campaign) が展開され、全米で約 5500 ある病院のうち 3100 の病院（急性期病床数の 78%に相当）が自主的に参加して改善に取り組みました。その結果、18 か月間のキャンペーン期間中に入院中の死亡数を大幅に減らすことに成功したと報告しています。

いまこそ医療者は、職種や立場の壁を超え、医療を担う病院と医療を支えるさまざまな団体・学会・行政・地域社会が一致協力して医療事故の防止に総力をあげて取り組むべきと考えますことから、医療安全全国共同行動（“いのちをまもるパートナーズ” キャンペーン／日本版 100K Lives Campaign）の実施を提案いたします。

同プロジェクトは、全国の病院が自主的に参加登録を行い、地域の病院が互いに協力しながら医療の質・安全の確保と向上をめざす 8 つの目標について組織的な活動を実施し、参加団体は活動の効果的な実施に必要な支援を提供します。

全国の病院はもとより、医療に関わるすべての人々と、それぞれの立場から医療の質・安全の向上をめざすさまざまな団体にこのプロジェクトにご参加いただき、ともに力を合わせて医療事故の防止と信頼される医療の確立を実現することを呼びかけます。

医療の質・安全学会理事長　高久　史麿
日本医師会会長　原中　勝征
日本看護協会会長　久常　節子
日本病院団体協議会議長　邉見　公雄
日本歯科医師会会長　大久保満男
日本臨床工学技士会会長　川崎　忠行
日本病院薬剤師会会長　堀内　龍也

医療安全の基本的な考えと共同行動の意義

自治医科大学医学部　メディカルシミュレーションセンター
センター長　医療安全学教授　河野　龍太郎

医療システムはリクスが高く、システム全体から見ると効率の悪いところが多いという特徴があります。例えば、新人ナースを教育する場合、病院の教育担当者は一生懸命に、時には残業をしながら教材を作っていますが、どの病院も同じような教材を作り、同じような教育を行っているように見えます。もともと医療システムは、人、資金、時間といったリソースが全く不十分であるために、病院の担当者は大変苦労している様子がうかがえます。そこで、結果的に同じようなものができるのなら、共同して教材を作成すれば大幅な労力の削減につながるはずです。

そこで私は「合理的手抜き」をお勧めします。新たに教育資料を作成するのではなく、すでに作られているものをできるだけ利用するということです。私は医療安全全国共同行動の行動目標 5 a「輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作と管理」を担当しています。ポンプ教育に関する基本的な部分は DVD に入れてあります。今後はチェックリストや知識確認テストなども改良してアップしていきます。皆さんの手元にもっといい資料があるならば、ぜひ、ご提供ください。

みんなの英知を集めて「合理的作業の省略」を行えば、医療従事者のエラーを低減し安全性を高め、さらに効率と品質を上げることができる、と確信しています。

医療安全全国共同行動　８つの行動目標と推奨する対策

◆　**行動目標 1: 危険薬の誤投与防止**　【目標】危険薬の誤投与に起因する死亡を防止する

【推奨する対策】 1. 危険薬の啓発と危険薬リストの作成・周知　2. 高濃度カリウム塩注射剤、高張塩化ナトリウム注射剤の病棟保管の廃止　3. 類似薬の警告と区分保管　4. 注射指示の標準化　5.「危険薬の誤投与防止ベストプラクティス１６(NDP)」の実施（チャレンジ）

◆　**行動目標 2：周術期肺塞栓症の予防**　【目標】周術期肺塞栓症による死亡を防ぐ

【推奨する対策】 1. 適正予防策選択のための総合的評価の実施　2. 予防策の確実な実施と安全管理　3. 肺塞栓予防の重要性に関する職員教育の徹底　4. 患者への説明と患者参加の促進　5. ハイリスク患者へのスクリーニング検査の実施（チャレンジ）　6. 肺塞栓症の早期診断・治療マニュアルの作成（チャレンジ）

◆　**行動目標 3a：危険手技の安全な実施－経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認の徹底**

【目標】経鼻栄養チューブの挿入留置手技に伴う有害事象とこれに起因する死亡を防ぐ

【推奨する対策】 1. 経鼻栄養チューブ誤挿入のハイリスク患者の識別　2. 聴診法を位置確認の確定判断基準にしない
3. 経鼻栄養チューブの挿入と位置確認のためのマニュアルの策定及び順守
4. ｐＨ測定をすべての経鼻栄養チューブ挿入時位置確認の基準に採用する（チャレンジ）

◆　**行動目標 3b：危険手技の安全な実施－中心静脈カテーテル穿刺挿入手技に関する安全指針の策定と順守**

【目標】中心静脈カテーテルの穿刺挿入手技に伴う有害事象とこれに起因する死亡を防ぐ

【推奨する対策】 1. TPN と CVC 留置適応の厳格化　2. 安全な穿刺手技等の標準化　3. 安全手技の教育体制の構築　（チャレンジ）

◆　**行動目標４：医療関連感染症の防止**　【目標】 MRSA 感染が関与する死亡を防ぐ

【推奨する対策】 1. 手指衛生の徹底　2. 標準予防策・接触感染予防策の強化　3. 環境と器具の清浄化

◆　**行動目標 5a. 医療機器の安全な操作と管理－輸液ポンプ・シリンジポンプの安全管理**

【目標】 輸液ポンプ・シリンジポンプが関わる有害事象とこれに起因する死亡を防ぐ

【推奨する対策】 1.　輸液ポンプ・シリンジポンプの保守点検の確実な実施　2.　操作者マニュアルの作成と教育の徹底
3.　操作者用チェックリストの作成と適正な運用

◆　**行動目標 5b. 医療機器の安全な操作と管理－人工呼吸器の安全管理**

【目標】 人工呼吸器が関わる有害事象とこれに起因する死亡を防ぐ

【推奨する対策】 1. 人工呼吸器の保守点検の確実な実施　2. 人工呼吸器動作確認チェック表の作成と運用
3. 生体情報モニタを必ず装着する

◆　**行動目標 6. 急変時の迅速対応**　【目標】 医療行為が関係する院内急変事例の死亡を防ぐ

【推奨する対策】 1. 有害事象に対する緊急対応手技の浸透　2. 心肺蘇生法の職員教育の徹底　3. 院内救急計画の策定と体制づくり　4. 容態変化への早期対応態勢（ＲＲＳ）の確立 (チャレンジ)

◆　**行動目標 7：事例要因分析から改善へ**　【目標】 有害事象や死亡事例の要因分析に基づくシステムの改善

【推奨する対策】 1. 事例要因分析の手法の周知と職場での実施　2. 事例要因分析で明らかになった課題に関する改善活動の実施　3. M&M カンファレンス (Morbidity & Mortality Conference) のプログラム化 (チャレンジ)

◆　**行動目標 8：患者・市民の医療参加**

【目標】 患者・市民と医療者のパートナーシップを通じてケアの質・安全と相互信頼を向上させる

【活動】 1. 患者さんや地域の市民が参加・参画して医療の質・安全を向上させる活動を新規に実施する　2. 活動の成功体験や教訓を共同行動ホームページから紹介する　※支援ツールを用意している参考モデル　(a)「安全は名まえから」（患者と医療者の協同によるフルネーム確認）　(b)「からだと病気を知るために」（院内患者図書室の設立）　(c)「転ばぬ先に」（患者参加の転倒転落防止）　※その他どのような活動でも結構です。 参加病院からご提案いただくことで、さまざまな活動が広がることを期待しています。

患者家族・市民からのメッセージ

「医療安全教育」は国を挙げて

医療の良心を守る市民の会　代表　**永井　裕之**

「医療に安全文化を！」と訴えながら「医療安全」という言葉を発すると、「それってなんですか？」と尋ねる人がいる。「交通安全」は 50 年以上国を挙げて取り組み、法令・システム改定と幼児からの教育などにより、毎年死亡者数が減少し続けている。「製品安全」を各メーカーは 40 年以上もたゆまぬ努力してきたが、今でも大きな事故が報道されている。「食の安全」は当然なものと受け止めていたが、10 年前の BSE から食肉偽造、毒入り餃子事件など「食の安全」が改めて喚起されている。そのような状況から考えてみると「医療安全」はまだまだ医療界だけの取り組みになっており、国民（患者・市民）のものになっていない。「医療安全全国共同行動」の行動目標 8 に「患者・市民の医療参加」を取り組んではいるが、「医療安全教育」は国を挙げて幼児教育から取り組むべき時期が来ている、と説明をすると、「医療安全」の意義とその必要性を理解していただける。

共同行動へのメッセージ

『克彦の青春を返して』著者　**稲垣　克巳**

医療安全全国共同行動の 8 つの目標の 1 つに「急変時の迅速対応」がある。

私の長男は大学 4 年の夏休みに、良性のリンパ管腫の手術をし、5 時間 50 分を要した。手術後、静脈性出血が持続し、かつ増量したのに、止血処置はされなかった。手術後 30 時間余り経過時には頬まではれてきて、脈拍が 3 時間半の間に 70 から 112 に急上昇した。本人が息苦しいと訴えても咽喉部の診断はされず、気道確保の処置はされなかった。浮腫がだんだんと大きくなり、その 50 分後に呼吸停止、心停止をした。気管切開手術をして気道を確保するのに 45 分も要し、低酸素性脳障害で意識不明になった。頸部の長時間手術後は浮腫、血腫で気道閉塞をする恐れがあるので、厳重な管理を要すると文献にもある。急変というよりは、危険な兆候がいくつもあったのにすべて見逃したための事故である。医師・看護師ともに患者の病状をまったくつかんでいなかった。

再びこのような事故があってはならない。

患者会も共同行動の仲間として取り組みたい

肺塞栓症・深部静脈血栓症友の会　**江原　幸一**

2009 年に「医療安全全国共同行動」の活動を知り、2010 年から共同行動の講演会に参加しております。講演会やフォーラムを通して医療従事者の真摯な取り組みとその成果を拝見し感銘を受けました。

私の妻が 2002 年に長女を出産したときに周術期の肺塞栓症を発症し、帰らぬ人になりました。そのときから肺塞栓症の予防を訴える活動に携わっております。メディアへの働きかけ、厚生労働省・自治体・政治家への訴え、患者会の活動を行っていくうちに医療の問題点が見えるようになってきました。

少子化・高齢化の社会で「患者のための医療」を実現するには医療従事者・行政・製薬会社・マスメディア・患者が連携して医療改革に取り組み、持続可能な医療を構築しなければならないと思っております。患者会も共同行動の仲間として取り組みたいと思います。

応援メッセージと海外からのメッセージ

［応援メッセージ］

http://kyodokodo.jp/ouen_message.php

各界で活躍する方々から、医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”へ応援メッセージをいただきました。ありがとうございました。

C.W. ニコル（作家）

CARING FOR THE CARE-GIVERS（医療者にもケアを）

３人の子を持つ若い医師の知り合いがいました。阪神大震災の後に彼は張り詰めた状態で長い間働き続けたために、とうとう亡くなってしまいました。私自身はこれまで 40 年間余り、日本の医療システムからいつも行き届いた治療と思いやりのあるアドバイスを受けてきました。けれども、日本の高齢化や環境悪化をはじめ、現代社会特有のさまざまな問題が立ち現れるにつれて、医療に過剰な負担やストレス、過労の問題が降りかかってくるのではないかと恐れています。社会全体が、医療を担う人たちのことをもっと考えてみる必要があるのではないでしょうか。教育機会や支援、ケアが必要なのは患者たちだけではありません。医療者にも求められています。ここ長野県黒姫のアファンの森財団では、プロジェクトの一環として、障がいのある子どもたちとサポート役の大人たちを招いています。他者のケアに献身を惜しまないこのすばらしい人々にとっても、私たちのプロジェクトは同じように有益であることがわかってきました。疲れ、ストレスを抱え、落ち込んだ時、あるいは一人ぼっちになった時には、人はミスを犯しやすくなるものです。病院や診療所や療養所が、楽しくのびのびと学び、働ける場所になれば、誰もがその恩恵を受けることになるだろうと私は固く信じます。医療者にとって適切な環境を創り出せるよう、私たちみんなが働きかけなければなりません。すなわち、ケアする側の医療者は、みんなでケアしないといけないのです。

リュ・シウォン（俳優 / 歌手）

努力している人を信じること。
その信頼がちからになって、
人は　昨日よりも　もっと頑張れること。
今日　自分が生きていることが、
顔は見えなくても
きっと誰かのささえになっていると信じること。
そんな気持ちを大切にすることが、
同じ時代を生きている僕たちみんなを
結びつけるパワーになっているはずです。
ひとりひとりに出来ることは小さくても、
みんなが同じ目的に向かって気持ちを合わせるならば、
きっと不可能も可能にする　大きな光になるでしょう。
“いのちをまもるパートナーズ”の活動が日本中に広がり、
大切な家族や友達それに愛する人の、
ひとつしかない大切ないのちをまもる力となることを信じています。

林家木久扇（落語家）

医療ミス、医療事故、悲しく驚くべき四文字です。大きな病気をして、二度の外科手術をした私は、健康になり仕事に戻れ、只今は元気にすごすことが出来てつくづく幸せをかみしめてます。

一口に外科手術と言っても、主治医をいただく数十名のチームによる治療で、救急に病院にかつぎ込まれても、病院側は人を集めねばならず　すぐに手術という訳にはまいりません。昨今の医者不足、看護師不足に重なって患者の命は翻弄されます。私の場合運よく間に合いました。

医師の過労による過失、看護師が間に合わない事故等は決して起こってはいけないこと。患者が元気に社会復帰が出来るような、医療者、患者、市民の皆さんによる共同行動が今こそ重要です。

さァ　御一緒に前へ進みましょう！

小林　幸子（歌手・女優）

私は一年中、全国各地をコンサートで廻っていますので、体調管理にはとても気を使っています。いつも万全の状態でステージに臨めるよう、自己管理は勿論、少しでも気になることがあると、すぐに病院で診ていただいています。

舞台の幕が開くまでには、たくさんの準備と時間がかかりますが、全ては体調ひとつで左右されてしまいます。私にとって医療は、「唄」と同じくらい大切で身近なものです。

その大事な医療現場では、今、年間１万人以上の方が医療ミスにより亡くなっているという実態に触れ、とても胸を痛めています。

「治りたい」「治してあげたい」という双方の強い願いは同じなだけに悲しいことです。どんなに医療技術が発展しても、人を治すのは人の手です。

しかし、その温かな人の手だからこそ、心から癒されるのだと思います。

試練は多くとも、人間の知恵と協力があれば、乗り越えられないことはないと信じています。

これから不幸な事故が１件でもなくなるように、新たな医療体制づくりの輪が全国に広がり、そして根付くことを心から願っています。

山田　洋次（映画監督）

いったい日本の医療はどうなってしまったのだ、このままでいいのか――という悲鳴のような声が、今あらゆる医療関係者や患者から聞こえてくるような気がしてなりません。ぼくたちの国が、安心して病院に通えることができ、安心して老いることが出来る豊かな福祉の国でありたい、そのためにも　いのちをまもるパートナーズ　の運動よおこれ、と願わずにはいられません。

クレモンティーヌ（歌手）

私はどんなに忙しくても毎日パリの病院に行きます。

長期入院をしている母の世話をするためです。

病院で看護師さんとドクターといろんな話をします。

フランスの病院には、「話す時間」「触れ合う時間」がたくさんあります。

患者さんの中には、軽くお酒を飲んだり、音楽を楽しんだり…… 女性はおしゃれをして、パジャマなんか着ていません。

忙しいが口癖の、ヴァカンスがほとんどない日本社会。

医療関係者の皆さんは忙しすぎて休む暇もないと聞いています。

医療関係者の方々が、「いのちをまもるパートナーズ」の共同行動で、少しでも余裕のある人間らしい関係を、患者さんと築いて行って欲しいと願っています。 世界一安全で、人に優しい日本なのですから……

大竹しのぶ（女優）

私自身、幸いなことに長期に入院した経験はありませんが、20 歳の時に父を、30 歳の時に夫を看護する立場にありました。ともに癌でした。

患者にとって、昨日までそこにいたはずの、窓の向こうの世界は、遠く眩しく映ります。

なんとか又、あそこへ戻れるよう、治療を頑張ろうと決意します。

そんなときの医師は、患者にとっては勿論、家族にとっても絶対的な存在であり、看護婦さんの何気ないやり取りに、心和み、また励まされもします。

先生の行う治療がベストであると信じ、間違いはないと思うものです。

そんな一人一人の患者と向き合う事、一つ一つの命を預かるというのは本当に大変なお仕事だとつくづく思います。

だからこそ、それを喜びとし、目的として毎日働いていらっしゃるお医者様や、看護婦さん達が、人間らしく働ける職場でなければならないと強く思います。

それが私たち患者の命につながることなのですから……

アグネス・チャン（歌手・エッセイスト・教育学博士）

医療現場における事故やミスをできるだけなくそうという活動が日本でも始まったという、とてもよいニュースをうかがいました。いろいろな立場の方が力を出し合って、一人でも多くの人を医療事故から救おうという取り組みは本当に素晴らしいことです。

私も 2007 年に乳がんの手術を経験し、今も闘病中です。私がお世話になっている病院も“いのちをまもるパートナーズ”に参加していますが、そのおかげで安心して通院することができています。それだけでなく、自分も患者として頑張らなくてはいけない、そういう気持ちがわいてきます。生きる勇気と力をもらえているのです。

医療関係者の方たちは、本当に過酷な条件の中で一生懸命に頑張っていると感じています。

だからこそ、私たち患者、あるいは国、あるいは“システム”がそれを支えてゆかねばいけないと思います。

ミスをしたい、事故を起こしたいと思っている人はひとりもいません。

厳しい環境をみんなの力でもうすこしやさしい状況にしてゆくこと、それがすべての命にやさしく、すべての命を守ろうというパートナーシップの力だと思います。

まだ、日本にたくさんある病院のすべてがこのパートナーズに参加できていません。

ぜひ、ひとつでも多くの病院に参加していただき、地域の皆さんのボランティアによってそれを支えていっていただきたいと思います。

私も患者として一生懸命応援したいと思っています。

［応援コンサート］

http://kyodokodo.jp/shiryou_concert.html

医療者や病院関係者を応援するために、医療安全全国共同行動の趣旨に賛同するプロのミュージシャンが、全国フォーラムの中で音楽の贈り物をしてくださいました。また、参加登録病院の希望に応えて病院での応援コンサートもボランティアで開いてくださいました。ジュ スカ・グランペール様、川江美奈子様、まことにありがとうございました。

［海外からのメッセージ］

http://kyodokodo.jp/shiryou_kaigai.html（ビデオ）

Martin Fletcher（英国［イングランド］）

イングランドとウェールズ医療安全庁（National Patient Safety Agency）の最高責任者を務めるマーティン・フレッチャーです。

私たちが最も伝えたいことは、何かの間違いが起きた時、個人を非難することはやめ、システムやプロセスをよく見つめ、それらを改善し強化することで医療をより安全なものにしなければならない、ということです。医療の安全性を向上させることは、いま世界中の医療システムが等しく直面している課題だからです。ですから、こうして日本の友人たちにメッセージを送る機会をいただけてとても嬉しく思います。患者安全（patient safety）は世界中のあらゆる医療機関にとってすべてに優先するもっとも重要な活動なのだということを、あなたたちとともに確認したいと思います。

Gunther Jonitz（ドイツ）

外科医のギュンター・ヨーニッツです。ベルリン医師会の会長ならびにドイツ医師会の質保証委員会の代表を務めています。

日本のすべての医師と看護師の方々に患者安全（patient safety）への行動を起こしてくださいと呼びかけたいと思います。これは大いなる挑戦です。医療はめざましい発展を遂げましたが、同時に非常に複雑になってきています。患者さんもずいぶん変わりました。非常に高齢な方も、たいへん幼い赤ちゃんも、一度にたくさんの病気を持つ患者さんも、治療するようになりました。そのかたわら、私たちの労働条件は低下する一方ですから、これらの問題に対処することがさらに難しくなっています。そんな状況のもとで、患者のリスクがますます増大していますが、これは日本やドイツに限ったことではなく、世界中が直面している問題なのです。

しかし私たちには問題ばかりではなく解決策もあります。正しい対策を行うことで、患者さんを傷害や危険からまもることができます。ぜひ患者安全のために行動を起こしてください。医師とさまざまな職種の医療者が協働して進めるこの国際的な取り組みに加わってください。それは医療者であるあなたにとっても、また、あなたの患者さんにとっても、すばらしい結果をもたらすことでしょう。

Vibeke Rischel（デンマーク）

デンマークの患者安全キャンペーンには国中のすべての病院が参加しています。2001 年にできた法律によって医療スタッフはみんな有害事象を報告するようになりました。患者安全はいまたいへん関心の高いテーマとなっていて、誰もが安全を実現したいと願っています。

現在のキャンペーンは 2007 年に始まり、すべての県で病院のスタッフはみんなこのキャンペーンに従事してきました。おかげで医療は前よりも安全になりました。これまでに 1500 人の命が救われ、病院の文化も変わりました。リソースや成果を共有するようになり、職種や専門の壁を超え一緒になって患者さんをみるようになりました。日本の皆さんに、急変対応チームがとても成果を上げたことをお伝えしたいと思います。2 年前にキャンペーンを始めた時は、急変対応チームを持つ病院はひとつもありませんでしたが、今では全体の 1/3 の病院で活動しています。キャンペーンには医師や看護師の団体をはじめいろいろな組織が参加し、政府も支援しています。

日本の方々もぜひ患者安全のために頑張ってください。患者安全のことがわかってくると、きっとやる気が出て、もっとよくしたいと思うようになるでしょう。あなた達のロゴマークがハートを象徴しているのが素敵です。私たちはなぜこの仕事についているか――それは患者さんのためになりたいから、ですものね。

Dag Strom（スウェーデン）

スウェーデンの患者安全全国運動の事業部長を務めています、ダッグ・ストロームです。全国の医療機関やさまざまな団体を取りまとめて、患者安全の向上を目指しています。医療関連感染症やエラー対策など６つの課題に取り組んでいます。患者安全はいま世界全体で取り組んでいるテーマなので、お互いに学びあえることをうれしく思います。日本の成功を楽しみにしています。

Pat O'Connor（英国［スコットランド］）

スコットランド政府で患者安全を担当しているパット・オコーナーです。スコットランドでは現在 37 の病院が、43 項目に及ぶ対策と、リーダーシップ、外科治療、投薬治療、ICU 治療、救命治療の 5 つのワークチームに基づきながら、協力して患者安全に取り組んでいます。患者安全の取り組みを始めてから、有害事象は 63％も減少しており、4 か月間、有害事象ゼロを記録した病院も 3 つ出てきています。また、2 年以上も中心静脈カテーテル感染症が発生していない病院もあるのです。一人でも多くの命を救うために、患者安全に投資しましょう。日本の方々もぜひ頑張ってください。

John Mac Anon（米国）

IHI（医療質改善研究所）のジョン・マキャノンです。100 Kキャンペーンと 5 Mキャンペーンの運営責任者です。このような取り組みを進めていくと、あるところまで来た時にふと気力が途切れたり困難に直面する場合があります。その時こそ、みんなが一緒になって互いに助けあい、学びあい、シンプルで実際的なステップを確実に前に進めることが大切です。医療がいま重要な岐路にあるとき、日本の皆さんが患者安全をめざす共同活動に加わられたことを感謝しています。私たちは皆さんの活動から多くのことを学ぶでしょう。日本のキャンペーンの成功を心からお祈りしています。

Pedro Delgado（英国［北アイルランド］）

日本の皆さんこんにちは。北アイルランドで患者安全運動を進めていますペドロです。皆さんの患者安全に対する取り組みは素晴らしいと思います。きっと私達が学ぶべきことがたくさんあると思います。こちらでは、北アイルランドだけでなく、イングランド、スコットランド、ウェールズでも患者安全の運動は広がっています。政府が国民と連携し、組織同士も協力し合って患者安全の考え方が浸透してきています。" yes, we can!" をモットーに頑張りましょう。

Camila Philbert（ブラジル）

ブラジルで医師をしていますカミーラです。ブラジルで呼びかけている患者安全の活動に、現在 77 の病院が参加しています。全国に 7000 ある病院の数から比べればまだ少ないですが、今は将来のために種を蒔く時です。患者安全の活動はやるべきことがいっぱいあって大変ですが、私たちは必ずこれを成し遂げると信じています。ブラジルでは、何か困難に直面した時に「私はブラジル人だから絶対にあきらめない」と言います。ですから日本の皆さんに、「Yes, we can. 一緒にやり遂げましょう！」というメッセージをお送りします。「がんばろう　日本！」日本の共同行動の成功をお祈りしています。

（以上 2008 年）

推進会議と企画委員会

[医療安全全国共同行動推進会議委員（2008 ～ 2010 年）]

高久　史麿　医療の質・安全学会理事長／共同行動推進会議議長　**上原　鳴夫**　医療の質・安全学会副理事長／共同行動企画委員長　**山本　修三**　日本病院団体協議会議長（2008 年度）　**小山　信彌**　日本病院団体協議会議長（2009 年度）　**邉見　公雄**　日本病院団体協議会議長（2010 年度）　**木下　勝之**　日本医師会常任理事　**高杉　敬久**　日本医師会常任理事　**高木　幹正**　日本歯科医師会常務理事　**中尾　薫**　日本歯科医師会常務理事　**楠本万里子**　日本看護協会常任理事　**永池　京子**　日本看護協会常任理事　**福井トシ子**　日本看護協会常任理事　**佐藤　秀昭**　日本病院薬剤師会副会長　**本間　崇**　日本臨床工学技士会常務理事　**大井　利夫**　日病協医療安全全国共同行動に係る検討委員会世話役　**高橋　正彦**　日病協医療安全全国共同行動に係る検討委員会世話役

[医療安全全国共同行動企画委員会委員・アドバイザー・協力者（2008 ～ 2010 年）]

上原　鳴夫　東北大学大学院医学系研究科国際保健学分野教授　**永井　良三**　東京大学大学院医学系研究科循環器内科学教授　**小泉　俊三**　佐賀大学医学部附属病院総合診療部部長　**鮎澤　純子**　九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座准教授　**嶋森　好子**　東京都看護協会会長　**武田　裕**　大阪大学大学院医学系研究科医療情報学講座教授　**大井　利夫**　上都賀総合病院名誉院長　**児玉　安司**　三宅坂総合法律事務所弁護士　**米本　昌平**　東京大学先端科学技術研究センター特任教授　**小嶋　照郎**　日本専門医制評価・認定機構　**河野　龍太郎**　自治医科大学医学部メディカルシミュレーションセンターセンター長・医療安全学教授　**清水　利夫**　独立行政法人国立国際医療研究センター戸山病院副院長　**原田　賢治**　東京大学大学院医学系研究科医療安全管理学講座特任助教　**藤盛　啓成**　東北大学病院医療安全推進室副室長・准教授　**山崎　美智子**　金沢医科大学病院医療技術部臨床検査部門臨床検査技師副技師長　**早田　雅美**　株式会社電通第３CD 局プロデューサー　**徳田　安春**　筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床医学系教授　**長尾　能雅**　京都大学医学部附属病院医療安全管理室室長講師　**埴岡　健一**　日本医療政策機構理事　**後　信**　財団法人日本医療機能評価機構医療事故防止事業部部長　**長谷川　剛**　自治医科大学附属病院医療安全対策部教授　**小林　美亜**　東京大学医学部附属病院国立大学病院データベースセンター特任助教　**宮田　裕章**　東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座准教授　**森本　剛**　京都大学大学院医学研究科医学教育推進センター講師　**千原　泉**　自治医科大学公衆衛生学助教　**池田　俊也**　国際医療福祉大学大学院薬科学研究科医療・生命薬科学専攻教授　**伏見　清秀**　東京医科歯科大学医療情報システム学分野・医療情報部教授　**松井　邦彦**　熊本大学医学部附属病院総合臨床研修センター講師　**松嶋　大**　藤沢町国保藤沢町民病院内科長　**関根　沙耶花**　自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門医師（大学院博士課程 1 年）　**松嶋恵理子**　岩手県国保藤沢町民病院医師　**安井はるみ**　医療法人社団あんしん会四谷メディカルキューブ看護部看護部長　**相馬　孝博**　東京医科大学医療安全管理学主任教授　**我妻　恭行**　東北大学病院薬剤部副薬剤部長　**高橋　英夫**　名古屋大学大学院医学系研究科准教授　**中村　浩規**　東北大学病院医療安全推進室医療安全推進副室長／副薬剤部長　**矢野　真**　武蔵野赤十字病院呼吸器外科部長　**齋藤　泰紀**　仙台医療センター呼吸器外科統括診療部長　**新岡　丈典**　弘前大学医学部附属病院薬剤部薬剤部主任　**跡部　治**　諏訪赤十字病院薬剤部薬剤部長　**脇田　久**　成田赤十字病院内科副院長兼検査部長　**菅野　隆彦**　小清水赤十字病院循環器内科部長　**土屋　文人**　東京医科歯科大学歯学部附属病院薬剤部部長　**古川　裕之**　金沢大学医学部附属病院臨床試験管理センター准教授　**瀬尾　憲正**　美術館北通り診療所院長　**中村　真潮**　三重大学大学院循環器内科学講師　**佐久間　聖仁**　国立循環器病センター心臓血管内科医長　**木下　佳子**　NTT 東日本関東病院副看護部長　**山田　典一**　三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻病態制御医学講座循環器内科学講師　**保田　知生**　近畿大学医学部安全管理部　**小林　隆夫**　県西部浜松医療センター院長　**左近　賢人**　西宮市立中央病院外科院長　**冨士　武史**　大阪厚生年金病院副院長　**山元　惠子**　学校法人浦山学園富山福祉短期大学看護学科小児看護学准教授　**坂口　美佐**　金沢大学付属病院麻酔科蘇生科特任准教授　**杉本こずえ**　新葛飾病院医療安全対策室セーフティーマネージャー　**風間　敏子**　台東区立台東病院　**須田　喜代美**　財団法人竹田綜合病院医療安全管理室課長　**寺見　雅子**　医療法人五星会　新横浜リハビリテーション病院摂食・嚥下障害看護認定看護師　**芳賀　克夫**　国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長　**松田　千恵子**　東北大学病院医療安全推進室医療安全推進副室長／看護師長　**宮田　剛**　東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座先進外科学分野講師　**渡部　修**　佐久総合病院救命救急センター医長　**三木　保**　東京医科大学医学部脳神経外科学教室教授　**徳嶺　譲芳**　JFE 健康保険組合川鉄千葉病院麻酔科部長　**井上　善文**　川崎病院外科総括部長　**竹山　廣光**　名古屋市立大学医学部消化器外科学分野教授　**米井　昭智**　（財）倉敷中央病院麻酔科主任部長・医療安全管理室担当　**満田　年宏**　公立大学法人横浜市立大学附属病院感染制御部部長・准教授　**金光　敬二**　福島県立医科大学感染制御・臨床検査医学講座教

授　**櫻井　滋**　岩手医科大学附属病院医療安全管理部感染症対策室長　**森澤　雄司**　自治医科大学／自治医科大学附属病院感染免疫学／感染制御部長准教授　**森兼　啓太**　山形大学医学部附属病院検査部副部長・准教授　**大曲　貴夫**　静岡県立静岡がんセンター感染症科部長　**一山　智**　京都大学医学部附属病院副病院長（医療安全担当）　**大久保　憲**　東京医療保健大学大学院感染制御学教授　**賀来　満夫**　東北大学大学院医学系研究科感染制御・検査診断学分野教授　**青木　洋介**　佐賀大学医学部附属病院感染制御部部長　**荒川　宜親**　国立感染症研究所細菌第二部部長　**本間　崇**　社団法人日本臨床工学技士会常務理事　**杉山　良子**　武蔵野赤十字病院医療安全推進室専従リスクマネジャー看護師長　**高木　政雄**　社団法人日本臨床工学技士会“日本臨床工学技士会医療機器管理指針策定委員会”　**佐藤　景二**　社団法人日本臨床工学技士会常務理事　**田口　彰一**　社団法人日本臨床工学技士会“日本臨床工学技士会医療機器管理指針策定委員会”　**岡元　和文**　信州大学医学部救急治療医学講座教授　**多治見　公高**　秋田大学医学部医学科総合医学講座救急・集中治療医学分野教授　**佐藤　二郎**　東京女子医科大学八千代医療センター麻酔科教授　**坂本　哲也**　帝京大学医学部救命救急センター教授　**池上　敬一**　獨協医科大学越谷病院救急医療科・救命救急センター教授・センター長　**川嶋　隆久**　神戸大学大学院医学研究科災害救急医学分野准教授　**藤谷　茂樹**　聖マリアンナ医科大学救急医学講師　**児玉　貴光**　聖マリアンナ医科大学救急医学助教　**中　敏夫**　和歌山県立医科大学救急集中治療部准教授　**江原　一雅**　滋慶医療経営管理研究センター主席研究員　**小井土　雄一**　独立行政法人国立病院機構災害医療センター臨床研究部部長　**山畑　佳篤**　京都府立医科大学救急医療学教室講師　**太田　祥一**　東京医科大学病院救急医学講座教授　**野々木　宏**　国立循環器病研究センター病院心臓血管内科部長　**内野　滋彦**　東京慈恵会医科大学集中治療部診療医長　**種田　憲一郎**　国立保健医療科学院政策科学部安全科学室長　**安藤　廣美**　株式会社麻生飯塚病院副院長　**井上　則雄**　株式会社竹中工務店大阪本店品質管理部管理グループ課長代理管理担当大阪本店 TQM 推進委員会事務局長　**山内　桂子**　東京海上日動メディカルサービス株式会社メディカルリスクマネジメント室主席研究員　**山口　直比古**　東邦大学医学メディアセンター司書次長　**山室　眞知子**　全国患者図書サービス連絡会役員　**飯島　久子**　静岡県立静岡がんセンター RM・QC 室非常勤薬剤師　**高橋　知子**　東京海上日動メディカルサービス（株）メディカルリスクマネジメント室主任研究員　**渡邊　和子**　栗原市立栗原中央病院総看護師長　**黒木　洋美**　飯塚病院リハビリテーション科医師　**丸木　一成**　国際医療福祉大学医療福祉学部医療経営管理学科教授　**伊澤　敏**　佐久総合病院院長　**村上　紀美子**　医学ジャーナリスト協会　**池上　英隆**　いいなステーション　**石川　ひろの**　東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野准教授

［医療安全全国共同行動（2008 ～ 2010）にご協力をいただいた方々］

友原琢也、塚本哲也（株式会社リワインド）、Professor Sir Brian Jarman（Emeritus Professor, Imperial College, London,）、斎藤祐一、松良基弘（株式会社損保ジャパン医療リスクマネジメント事業部）、仁科保司、櫻田朋樹、船木裕一（株式会社日経映像）、水垣信威千（株式会社ドーモ）、山下青史、植松明子（株式会社ウエルビ）、山内憲幸、鹿野幹雄、吉木眞由美（株式会社仙台三川）、東山高志（IDEAEAST）その他多数の方々にご協力、ご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。（敬称略）

2009 年 5 月 30 日に行われた医療安全全国共同行動連絡会議より（東京、日本教育会館）

2010 年 11 月 26 日、全国フォーラムにて、技術支援チームへ感謝状が贈られました（千葉、幕張メッセ）

共同行動のパートナーズ

［地域推進拠点］

（2010 年 12 月 31 日時点）

富山県公的病院長協議会
社団法人静岡県病院協会
神奈川県医療安全対策事業実行委員会
社団法人福岡県病院協会
社団法人石川県医師会
鹿児島大学病院
社団法人滋賀県病院協会

［フォーラム開催団体］

（2010 年 12 月 31 日時点）

琉球大学医学部附属病院
宮城県医師会
独立行政法人国立国際医療研究センター病院
社団法人岩手県医師会
自治医科大学附属病院
社団法人山形県医師会

［東北地域推進委員会］

（2010 年 5 月 22 日時点）

東北厚生局

青森県

社団法人　青森県医師会
社団法人　青森県看護協会
社団法人　青森県薬剤師会
社団法人　青森県臨床工学技士会
弘前大学医学部附属病院
社団法人 青森県臨床衛生検査技師会

秋田県

社団法人　秋田県医師会
社団法人　秋田県病院協会
社団法人　秋田県歯科医師会
社団法人　秋田県看護協会
社団法人　秋田県薬剤師会
秋田県病院薬剤師会
社団法人　秋田県臨床工学技士会

岩手県

社団法人　岩手県医師会
社団法人　岩手県歯科医師会
社団法人　岩手県看護協会
岩手県病院薬剤師会
岩手県臨床工学技士会
岩手医科大学附属病院

宮城県

社団法人　宮城県医師会
社団法人　仙台市医師会
宮城県病院協会
社団法人　宮城県歯科医師会
社団法人　宮城県看護協会
社団法人　宮城県薬剤師会
宮城県病院薬剤師会
宮城県臨床工学技士会
東北大学病院
国立病院機構　仙台医療センター
社団法人 宮城県臨床検査技師会

山形県

社団法人　山形県医師会
社団法人　山形県歯科医師会
社団法人　山形県看護協会
社団法人　山形県薬剤師会
一般社団法人　山形県臨床工学技士会
山形大学医学部附属病院

福島県

社団法人　福島県医師会
社団法人　福島県病院協会
社団法人　福島県歯科医師会
社団法人　福島県看護協会
社団法人　福島県薬剤師会
一般社団法人　福島県病院薬剤師会
福島県臨床工学技士会
公立大学法人　福島県立医科大学附属病院
社団法人　福島県臨床衛生検査技師会

［参加団体・協力団体］

（2010 年 12 月 31 日時点　順不同）

医療の質・安全学会
日本病院団体協議会
　国立大学附属病院長会議
　独立行政法人国立病院機構
　全国公私病院連盟
　社団法人全国自治体病院協議会
　社団法人全日本病院協会
　社団法人日本医療法人協会
　社団法人日本私立医科大学協会
　社団法人日本精神科病院協会
　社団法人日本病院会
　一般社団法人日本慢性期医療協会
　独立行政法人労働者健康福祉機構
日本医師会
日本歯科医師会
日本看護協会
日本薬剤師会
日本病院薬剤師会
日本臨床工学技士会
全国医学部長病院長会議
日本放射線技師会
全国国立病院療養所放射線技師会
日本臨床衛生検査技師会
日本赤十字社
社会福祉法人恩賜財団済生会
国家公務員共済組合連合会
全国社会保険協会連合会
日本診療情報管理学会
日本医療マネジメント学会
医療の TQM 推進協議会

日本医療教授システム学会
日本品質管理学会
日本専門医制評価・認定機構
卒後臨床研修評価機構
医薬品医療機器総合機構
総合安全工学研究所
日本看護系学会協議会
日本看護系大学協議会
日本医学会
日本内科学会
日本外科学会
日本小児科学会
日本救急医学会
日本麻酔科学会
日本集中治療医学会
日本感染症学会
日本環境感染学会
日本化学療法学会
日本血栓止血学会
日本静脈経腸栄養学会
日本消化器外科学会
日本大腸肛門病学会
日本胸部外科学会
日本泌尿器科学会
日本癌治療学会
日本放射線腫瘍学会
日本医学放射線学会
日本形成外科学会
日本脳神経外科学会
日本神経学会
日本口腔科学会
日本超音波医学会
日本小児神経学会
日本インターベンショナル・ラジオロジー学会
日本高血圧学会
日本自律神経学会
日本脳神経血管内治療学会
日本人工臓器学会
日本臨床検査医学会
日本透析医学会
日本ハンセン病学会
日本呼吸療法医学会
日本周産期・新生児医学会
肺塞栓症研究会
日本血管外科学会
日本小児外科学会
日本臨床薬理学会
日本臨床救急医学会
日本整形外科学会
日本消化器病学会
日本産科婦人科学会

[参加登録病院]

（2010 年 11 月 12 日時点）

北海道

・JA 北海道厚生連　倶知安厚生病院
・独立行政法人国立病院機構北海道医療センター
・北見赤十字病院
・独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター
・旭川赤十字病院
・王子総合病院
・JA 北海道厚生連網走厚生病院
・医療法人　禎心会病院
・JA 北海道厚生連遠軽厚生病院
・総合病院　伊達赤十字病院
・札幌南一条病院
・勤医協中央病院
・今金町国保病院
・釧路赤十字病院
・NTT 東日本札幌病院
・医療法人　母恋　日鋼記念病院
・北海道社会保険病院
・医療法人　新さっぽろ脳神経外科病院
・医療法人社団博愛会開西病院
・独立行政法人国立病院機構八戸病院
・弘前大学医学部附属病院

青森県

・医療法人整友会　弘前記念病院
・むつ総合病院
・国民健康保険五所川原市立西北中央病院
・独立行政法人国立病院機構弘前病院
・黒石市国民健康保険黒石病院
・八戸市立市民病院

岩手県

・盛岡繋温泉病院
・岩手医科大学附属病院
・岩手県立中央病院
・岩手県立大船渡病院
・盛岡赤十字病院
・社団医療法人　啓愛会　宝陽病院
・川久保病院

宮城県

・みやぎ県南中核病院
・東北厚生年金病院
・東北公済病院
・NTT 東日本東北病院
・栗原市立栗原中央病院
・独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
・仙台社会保険病院
・仙台赤十字病院
・東北大学病院
・財団法人宮城厚生協会長町病院
・仙台市立病院
・独立行政法人国立病院機構宮城病院
・東北公済病院宮城野分院
・宮城県立がんセンター
・石巻市立病院
・石巻赤十字病院
・女川町立病院
・中嶋病院
・(財) 宮城厚生協会　坂総合病院
・永仁会病院
・公立刈田綜合病院
・東北労災病院

秋田県

・市立大森病院
・秋田赤十字病院
・山本組合総合病院
・平鹿総合病院
・ＪＡ秋田厚生連　仙北組合総合病院
・秋田大学医学部附属病院
・秋田組合総合病院
・秋田県厚生連由利組合総合病院
・医療法人和成会　今井病院
・市立秋田総合病院
・独立行政法人国立病院機構あきた病院
・中通総合病院
・医療法人久盛会　秋田緑ヶ丘病院

山形県

・山形市立病院済生館
・独立行政法人国立病院機構山形病院
・鶴岡市立荘内病院

・独立行政法人国立病院機構米沢病院
・山形県立新庄病院
・財団法人三友堂病院
・医療法人社団山形愛心会庄内余目病院
・社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院
・医療法人風心堂小原病院
・公立置賜総合病院

福島県

・医療生協　わたり病院
・いわき市立総合磐城共立病院
・財団法人　竹田綜合病院
・福島県立医科大学附属病院
・福島赤十字病院
・財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院
・財団法人仁泉会医学研究所　北福島医療センター
・白河厚生総合病院
・福島県立会津総合病院
・社団医療法人養生会　かしま病院

茨城県

・筑波大学附属病院
・茨城西南医療センター病院
・東京医科大学茨城医療センター
・特定医療法人 つくばセントラル病院
・総合病院土浦協同病院
・筑波メディカルセンター病院
・水戸済生会総合病院
・総合病院　取手協同病院
・茨城県立中央病院
・水戸赤十字病院
・社会福祉法人恩賜財団常陸大宮済生会病院
・茨城県厚生連 なめがた地域総合病院

栃木県

・自治医科大学附属病院
・足利赤十字病院
・JA 上都賀厚生連上都賀総合病院
・大田原赤十字病院
・宇都宮社会保険病院
・芳賀赤十字病院
・小山市民病院
・下都賀総合病院
・佐野市民病院
・獨協医科大学病院
・栃木県立がんセンター
・済生会宇都宮病院

群馬県

・医療法人大誠会　内田病院
・群馬県済生会前橋病院
・前橋赤十字病院
・医療法人社団田口会新橋病院

埼玉県

・医療生協さいたま　埼玉協同病院
・伊奈病院
・北里大学北里研究所メディカルセンター病院
・自治医科大学附属さいたま医療センター
・岩槻南病院
・さいたま市立病院
・康正会病院
・川口市立医療センター
・春日部市立病院
・上尾中央総合病院
・埼玉県総合リハビリテーションセンター
・医療法人社団富家会　富家病院
・東川口病院

千葉県

・独立行政法人労働者健康福祉機構千葉労災病院
・医療法人公明会塩田病院
・千葉市立青葉病院
・川鉄千葉病院
・東邦大学医療センター佐倉病院
・千葉市立海浜病院
・医療法人沖縄徳洲会 千葉徳洲会病院
・我孫子つくし野病院
・成田赤十字病院
・茂原中央病院
・医療法人沖縄徳洲会 四街道徳洲会病院
・総合病院国保旭中央病院
・医療法人社団明敬会重城病院
・日本医科大学千葉北総病院
・東京歯科大学市川総合病院

東京都

・医療法人社団東光会　西東京中央総合病院
・独立行政法人国立病院機構災害医療センター
・地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
・国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
・青梅市立総合病院
・武蔵野赤十字病院
・ＮＴＴ東日本関東病院
・立川相互病院
・日本赤十字社医療センター
・愛育病院
・労働者健康福祉機構　東京労災病院
・独立行政法人国立病院機構東京医療センター
・東京逓信病院
・中野総合病院
・東京北社会保険病院
・財団法人　井之頭病院
・東京医科大学病院
・国家公務員共済組合連合会　東京共済病院
・東京衛生病院
・長谷川病院
・東京大学医学部附属病院
・東京都済生会中央病院
・医療法人社団永生会　永生病院
・北里大学　北里研究所病院
・医療法人　明芳会　新葛飾病院
・社会福祉法人　康和会　久我山病院
・水口病院
・財団法人　聖路加国際病院
・武蔵村山病院
・独立行政法人国立国際医療研究センター
・東邦大学医療センター大森病院
・社会医療法人財団大和会東大和病院
・医療法人社団　育生會　山口病院
・東京医科大学八王子医療センター
・公立学校共済組合関東中央病院
・独立行政法人国立病院機構村山医療センター
・社会福祉法人恩賜財団済生会支部東京都済生会向島病院
・日野市立病院
・医療法人社団京浜会 新京浜病院
・医療法人社団京浜会 京浜病院
・三軒茶屋第二病院
・回心堂第二病院
・博慈会記念総合病院

神奈川県

・鶴巻温泉病院
・藤沢市民病院
・医療法人社団相和会 渕野辺総合病院
・横須賀市立市民病院
・神奈川県立循環器呼吸器病センター
・神奈川県厚生連伊勢原協同病院
・神奈川県立精神医療センター 芹香病院

・七沢リハビリテーション病院脳血管センター
・神奈川リハビリテーション病院
・神奈川県立こども医療センター
・地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立足柄上病院
・医療法人社団善仁会　横浜第一病院
・神奈川県立がんセンター
・北里大学病院
・医療法人　新光会　生田病院
・医療法人五星会　新横浜リハビリテーション病院
・恩賜財団済生会横浜市南部病院
・国家公務員共済組合連合会平塚共済病院
・湘南第一病院
・医療法人社団愛心会 湘南鎌倉総合病院
・相模原協同病院
・横浜市立市民病院
・恩賜財団　済生会横浜市東部病院
・厚木市立病院
・川崎医療生活協同組合 川崎協同病院
・昭和大学横浜市北部病院
・社会保険　相模野病院
・汐田総合病院
・茅ヶ崎徳洲会総合病院
・聖マリアンナ医科大学病院
・社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院
・医療法人　横浜宮崎脳神経外科病院
・日本鋼管病院
・独立行政法人労働者健康福祉機構関東労災病院
・社会福祉法人日本医療伝道会総合病院衣笠病院
・茅ヶ崎市立病院
・聖マリアンナ医科大学東横病院
・日本医科大学武蔵小杉病院
・社会福祉法人　聖テレジア会　聖テレジア病院

新潟県

・新潟県立六日町病院
・新潟県立津川病院
・長岡赤十字病院
・済生会新潟第二病院

山梨県

・医療法人桃花会　一宮温泉病院

長野県

・諏訪赤十字病院
・ＪＡ長野厚生連佐久総合病院
・信州大学医学部附属病院
・鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院
・川西赤十字病院
・長野赤十字病院
・長野市民病院
・昭和伊南総合病院
・組合立　諏訪中央病院
・佐久市立国保浅間総合病院
・飯田市立病院
・JA 長野厚生連小諸厚生総合病院
・東御市民病院
・波田総合病院

富山県

・黒部市民病院
・富山市立富山市民病院
・医療法人社団藤聖会　八尾総合病院
・富山県立中央病院
・労働者健康福祉機構　富山労災病院
・かみいち総合病院
・富山赤十字病院
・高岡市民病院
・高岡みなみ病院
・金沢医科大学氷見市民病院
・済生会富山病院
・医療法人社団栗山病院

石川県

・社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院
・金沢赤十字病院
・国民健康保険　小松市民病院
・医療法人社団和楽仁芳珠記念病院
・浅ノ川総合病院
・独立行政法人国立病院機構医王病院
・金沢医科大学病院

岐阜県

・松波総合病院
・大垣市民病院
・羽島市民病院
・高山赤十字病院
・岐阜赤十字病院
・社会医療法人厚生会木沢記念病院
・岐阜大学医学部附属病院
・公立学校共済組合東海中央病院
・美濃市立美濃病院

静岡県

・掛川市立総合病院
・医療法人社団盛翔会　浜松北病院
・県西部浜松医療センター
・浜松赤十字病院
・社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷浜松病院
・静岡赤十字病院
・医療法人社団　静岡健生会　三島共立病院
・静岡市立清水病院
・労働者健康福祉機構　浜松労災病院
・市立島田市民病院
・JA 静岡厚生連静岡厚生病院
・富士宮市立病院
・社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院
・焼津市立総合病院
・三島社会保険病院
・コミュニティーホスピタル甲賀病院
・静岡県立総合病院
・地方独立行政法人　静岡県立病院　静岡県立こころの医療センター
・榛原総合病院
・静岡市立静岡病院
・藤枝市立総合病院
・社団法人地域医療振興協会　市立伊東市民病院
・菊川市立総合病院
・ＮＴＴ東日本伊豆病院
・磐田市立総合病院

愛知県

・厚生連海南病院
・名古屋共立病院
・名古屋第二赤十字病院
・旭労災病院
・愛知県がんセンター中央病院
・常滑市民病院
・半田市立半田病院
・社会保険中京病院
・JA 愛知厚生連　安城更生病院
・知多市民病院
・西尾市民病院
・国家公務員共済組合連合会　名城病院
・一宮市立木曽川市民病院
・公立陶生病院
・社会福祉法人聖霊会　　聖霊病院
・愛知医科大学病院
・名古屋大学医学部附属病院
・藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院
・トヨタ記念病院

・医療法人大雄会　総合大雄会病院
・医療法人豊田会　刈谷豊田総合病院
・総合病院　南生協病院
・名古屋記念病院
・社会医療法人 財団新和会 八千代病院
・小牧市民病院
・藤田保健衛生大学病院
・名古屋セントラル病院
・愛知県がんセンター愛知病院
・医療法人清慈会鈴木病院
・星ヶ丘マタニティ病院

三重県

・済生会松阪病院
・桑名市民病院
・三重大学医学部附属病院
・藤田保健衛生大学七栗サナトリウム

福井県

・福井県済生会病院
・福井赤十字病院

滋賀県

・社会保険滋賀病院
・近江八幡市立総合医療センター
・草津総合病院
・公立高島総合病院
・彦根市立病院
・大津赤十字病院
・独立行政法人国立病院機構紫香楽病院
・医療法人友仁会　友仁山崎病院
・滋賀県立成人病センター
・長浜赤十字病院
・大津赤十字志賀病院
・市立長浜病院
・滋賀医科大学医学部附属病院
・医療法人 徳洲会 近江草津徳洲会病院
・大津市民病院
・社会福祉法人恩賜財団済生会滋賀県病院
・守山市民病院
・公立甲賀病院
・財団法人豊郷病院

京都府

・社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院
・京都保健会　京都民医連中央病院
・京都大学医学部附属病院
・医仁会武田総合病院
・社会保険京都病院
・公立大学法人　京都府立医科大学附属病院
・舞鶴赤十字病院
・国家公務員共済組合連合会舞鶴共済病院
・京都第二赤十字病院
・京都市立病院
・医療法人社団洛和会　洛和会丸太町病院
・京都第一赤十字病院
・独立行政法人国立病院機構京都医療センター
・独立行政法人国立病院機構南京都病院
・公立山城病院
・医療法人社団　洛和会　洛和会音羽病院
・社団法人信和会　京都民医連第二中央病院
・済生会京都府病院
・財団法人綾部市医療公社綾部市立病院
・市立福知山市民病院
・社会医療法人岡本病院（財団）第二岡本総合病院

大阪府

・医療法人　景岳会　南大阪病院
・医療法人藤井会　大東中央病院
・りんくう総合医療センター市立泉佐野病院
・関西医科大学附属枚方病院
・医療法人美杉会佐藤病院
・大阪市立住吉市民病院
・松下記念病院
・国立循環器病研究センター
・医療法人若弘会　若草第一病院
・淀川勤労者厚生協会附属　西淀病院
・医療法人　清恵会病院
・社会医療法人阪南医療福祉センター阪南中央病院
・大阪府立成人病センター
・箕面市立病院
・医療法人蒼龍会井上病院
・近畿大学医学部附属病院
・特別・特定医療法人愛仁会千船病院
・森之宮病院
・医療法人宝生会ＰＬ病院
・医療法人 藤井会　石切生喜病院
・宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院
・社会医療法人愛仁会高槻病院
・大阪赤十字病院
・医療法人弘道会　萱島生野病院
・守口生野記念病院
・財団法人大阪脳神経外科病院
・医療法人杏和会阪南病院
・寿楽会　大野記念病院
・医療法人良秀会　高石藤井病院
・大阪府済生会中津病院
・田原病院
・大阪市立総合医療センター
・医療法人協仁会小松病院
・大阪大学医学部附属病院
・社会医療法人愛仁会　愛仁会リハビリテーション病院
・八尾市立病院
・関西医科大学附属滝井病院
・大阪府立急性期・総合医療センター
・医療法人ガラシア会ガラシア病院
・市立枚方市民病院
・大阪府済生会富田林病院
・社会福祉法人　済生会吹田病院
・関西電力病院
・高槻赤十字病院
・医療法人康生会泉佐野優人会病院
・医療法人京昭会　ツヂ病院
・市立池田病院
・星ヶ丘厚生年金病院
・医療法人みどり会中村病院
・大阪厚生年金病院
・医療法人毅峰会　吉田病院
・医療法人方佑会　植木病院
・医療法人津樹会　城東病院
・市立岸和田市民病院

兵庫県

・神戸赤十字病院
・医療法人芳恵会三好病院
・神戸市立医療センター西市民病院
・市立小野市民病院
・社団法人明石市医師会立明石医療センター
・尼崎医療生協病院
・名谷病院
・三木市立三木市民病院
・医療法人　伯鳳会　赤穂中央病院
・姫路赤十字病院
・兵庫医科大学病院
・宝塚市立病院
・市立伊丹病院
・医療法人社団　新日鐵広畑病院
・神戸大学医学部附属病院
・医療法人社団　甲友会　西宮協立脳神経外科病院

・医療法人社団まほし会　真星病院
・財団済美会　昭和病院
・財団法人神戸市地域医療振興財団　西神戸医療センター
・市立川西病院
・医療法人神戸健康共和会東神戸病院
・財団法人甲南病院六甲アイランド病院
・医療法人晋真会　ベリタス病院
・神戸市立医療センター中央市民病院
・西宮市立中央病院
・笹生病院
・市立加西病院
・医療法人栄昌会吉田病院
・医療法人　明倫会　宮地病院
・公立学校共済組合近畿中央病院
・神戸労災病院
・舞子台病院
・財団法人　甲南病院
・三田市民病院

奈良県

・奈良県立医科大学附属病院
・財団法人　天理よろづ相談所病院
・西奈良中央病院
・大和高田市立病院

和歌山県

・国保日高総合病院
・医療法人千徳会桜ヶ丘病院
・医療法人恵友会恵友病院
・和歌山県立医科大学附属病院
・日本赤十字社和歌山医療センター
・医療法人共栄会名手病院
・医療法人誠佑記念病院
・医療法人 愛晋会　中江病院
・（医）裕紫会　中谷病院
・独立行政法人国立病院機構　南和歌山医療センター
・社会保険紀南病院
・独立行政法人労働者健康福祉機構　和歌山労災病院
・医療法人　曙会　和歌浦中央病院
・進正会　寺下病院

鳥取県

・労働者健康福祉機構山陰労災病院
・鳥取生協病院

島根県

・益田地域医療センター医師会病院
・益田赤十字病院
・島根県立中央病院
・松江赤十字病院
・独立行政法人国立病院機構松江病院
・松江生協病院

岡山県

・岡山中央病院
・岡山済生会総合病院
・労働者健康福祉機構　岡山労災病院
・笠岡第一病院
・岡山旭東病院
・岡山協立病院
・倉敷成人病センター
・川崎医科大学附属川崎病院
・済生会吉備病院
・岡山赤十字病院

広島県

・広島赤十字・原爆病院
・寺岡記念病院
・総合病院　三原赤十字病院
・医療法人あかね会土谷総合病院
・庄原赤十字病院
・国家公務員共済組合連合会　吉島病院
・済生会広島病院
・国家公務員共済組合連合会広島記念病院
・山本病院
・中国電力株式会社　中電病院

山口県

・阿知須同仁病院
・山口赤十字病院
・独立行政法人国立病院機構関門医療センター
・岩国市医療センター医師会病院
・山口県済生会下関総合病院
・下関市立中央病院
・独立行政法人労働者健康福祉機構山口労災病院

徳島県

・徳島大学病院
・独立行政法人国立病院機構東徳島病院
・博愛記念病院
・医療法人川島会川島病院
・徳島市民病院

香川県

・大樹会総合病院回生病院
・医療法人社団研宣会広瀬病院
・香川県立中央病院
・高松赤十字病院
・高松平和病院

愛媛県

・内科・消化器科 羽鳥病院
・愛媛生協病院
・松山赤十字病院
・愛媛大学医学部附属病院
・労働者健康福祉機構愛媛労災病院
・宇和島社会保険病院
・社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治病院

高知県

・高知県・高知市病院企業団立高知医療センター
・医療法人近森会近森病院
・医療法人川村会　くぼかわ病院

福岡県

・飯塚病院
・九州厚生年金病院
・医療法人天神会　新古賀病院
・古賀病院２１
・独立行政法人国立病院機構　九州医療センター
・医療法人徳洲会　福岡徳洲会病院
・特定医療法人青洲会福岡青洲会病院
・国家公務員共済組合連合会浜の町病院
・医療法人社団　新日鐵八幡記念病院
・公立学校共済組合九州中央病院
・千鳥橋病院
・聖マリア病院
・福岡市医師会成人病センター
・医療法人親仁会　米の山病院
・健和会　大手町病院
・日本海員掖済会門司病院
・独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院門司メディカルセンター
・公立八女総合病院
・社会医療法人共愛会　戸畑共立病院
・医療法人　西福岡病院
・社会保険大牟田天領病院
・筑後市立病院

佐賀県

・独立行政法人国立病院機構　嬉野医療センター
・唐津赤十字病院
・特定医療法人　祐愛会　織田病院
・医療法人社団敬愛会　佐賀記念病院
・佐賀県立病院好生館
・佐賀大学医学部附属病院
・社会福祉法人恩賜財団済生会唐津病院
・医療法人光仁会西田病院
・医療法人　松籟会　河畔病院

長崎県

・千住病院
・長崎県　五島中央病院
・独立行政法人国立病院機構長崎川棚医療センター
・医療法人　光晴会病院
・健康保険諫早総合病院
・医療法人医理会　柿添病院
・医療法人光善会長崎百合野病院
・日本赤十字社長崎原爆病院
・上戸町病院

熊本県

・熊本赤十字病院
・江南病院
・済生会熊本病院
・独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院
・特定医療法人　くわみず病院
・球磨郡公立多良木病院
・国家公務員共済組合連合会熊本中央病院

大分県

・大分市医師会立アルメイダ病院
・大分赤十字病院
・明徳会　佐藤第一病院
・医療法人　関愛会　佐賀関病院
・湯布院厚生年金病院

宮崎県

・県立宮崎病院
・医療法人真愛会髙宮病院
・医療法人同心会古賀総合病院
・宮崎生協病院
・宮崎県立日南病院
・宮崎県立延岡病院

鹿児島県

・出水郡医師会立阿久根市民病院
・川内市医師会立市民病院
・鹿児島大学医学部歯学部附属病院
・総合病院鹿児島生協病院
・独立行政法人国立病院機構南九州病院
・社団法人鹿児島共済会南風病院
・独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター
・曽於郡医師会立病院
・医療法人育生会　坂口病院

沖縄県

・医療法人友愛会豊見城中央病院
・独立行政法人国立病院機構沖縄病院
・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
・社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院
・アドベンチスト　メディカルセンター
・沖縄医療生協　沖縄協同病院
・琉球大学医学部附属病院
・社会医療法人仁愛会浦添総合病院
・沖縄県立中部病院
・社会医療法人　敬愛会　中頭病院

2010 年 11 月 26 日、医療安全全国フォーラムにて「ポスターによる活動報告と討議」が行われ、全国の病院から 84 の取り組み発表が寄せられました（千葉、幕張メッセ）

2009 年 11 月 23 日、医療安全全国フォーラムにて行われた行動目標別ワークショップよ、「目標 3a：危険手技の安全な実施－経鼻栄養チューブ」（東京ビッグサイト会議棟）

2009 年 5 月 31 日、共同行動支援セミナーにて行われた 6 つのセミナーより「周術期肺塞栓症の予防」（東京、国立国際医療センター）

共同行動年表（2008 ～ 2010 年）

年	月	全国フォーラム / 地域フォーラム / 共同行動支援セミナー	関連イベント	共同行動推進会議 / 共同行動連絡会議	支援チーム会議	その他（DVD 等の制作）
2008	5	・17 日：“医療が変わる！ 医療安全全国共同行動キックオフ・フォーラム”（東京都）				
	7	・26 日：医療が変わる！医療安全全国共同行動キックオフ・フォーラム in 関西（西宮市）				
	8	・24 日：医療安全全国共同行動 キックオフ・フォーラム in 九州（福岡市）				
	9	・6 日：医療安全全国共同行動 キックオフ・フォーラム in 東北（仙台市）			・7 日：企画委員会・技術支援部会会議	
	11	・24 日：医療安全全国共同行動 全国フォーラム（東京都）		・5 日：共同行動推進会議		
	12				・29 日：支援チーム打合せ会議	
2009	2	・10 日 -11 日：医療安全全国共同行動支援セミナー「事例分析から改善へ－危険薬誤投与防止を例として」（京都市）		・9 日：共同行動推進会議		
	3				・1 日：支援チーム会議（電話会議） ・7 日：共同行動広報会議 ・8 日：企画委員会・技術支援部会会議	
	4			・1 日：共同行動推進会議	・4 日：院内救急チーム会議 ・5 日：企画管理タスク・目標別チーム代表者合同会議	
	5	・30 日：医療安全全国フォーラム（東京都） ・31 日：医療安全全国共同行動支援セミナー（東京都）		・7 日：共同行動推進会議	・17 日：企画管理・目標別支援チーム会議	
	6	・21 日：医療安全全国共同行動支援セミナー in 福岡（福岡市）				
	7	・12 日：医療安全全国共同行動静岡フォーラム（静岡市） ・24-25 日：医療安全全国共同行動東北地域セミナー、平成 21 年度東北ブロック医療安全に関するワークショップ／厚生労働省東北厚生局（仙台市） ・26 日：医療安全全国共同行動推進シンポジウム in 栃木（栃木県）		・30 日：共同行動推進会議	・5 日：企画委員会・技術支援部会会議 ・26 日：企画管理チーム・目標別支援チーム代表者会議	
	8		・16 日：市民参加シンポジウム「医療の安全は患者市民と共に――いのちをまもるパートナーズ」／日本麻酔科学会主催（神戸市）	・24 日：共同行動推進会議	・2 日：企画委員会会議	

2009	9		・17 日：共同行動応援コンサート in 京都民医連中央病院／京都民医連中央病院主催（京都市） ・26 日：共同行動応援コンサート in 諏訪中央病院／諏訪中央病院主催（茅野市）		・6 日：企画委員会・技術支援部会会議	・16 日ウェブマガジン配信開始
	10	・28 日・31 日：神奈川県医療安全推進セミナー（横浜市）			・4 日：支援チーム会議	・13 日：ショート映像「私たちがんばっています」制作 ・20 日：ＤＶＤ教材「転倒転落防止患者説明用ビデオ」制作 ・20 日：キャンペーングッズ制作
	11	・23 日：医療安全全国フォーラム（東京都） ・28 日：医療安全いわて公開フォーラム（盛岡市）		・5 日：共同行動推進会議 ・23 日：共同行動連絡会議	・1 日：企画委員会・技術支援部会会議 ・22 日：企画委員会・技術部支援部会合同会議	・3 日：キャンペーンポスター制作 ・27 日：フルネーム確認キャンペーンキャラクター（キッコとユウゾウ）制作
	12		・12 日：医療安全に関するワークショップ～今みつめなおす医療人としての姿勢～／東海北陸厚生局主催（金沢市）		・29 日：企画管理・支援チーム会議	
2010	1	・16 日：医療安全全国共同行動支援セミナー in 大隅（鹿児島県）			・31 日：指標管理チーム会議	・8 日：参加登録病院用バナー制作
	2	・20 日：医療安全全国共同行動支援セミナーｉｎ沖縄（沖縄県）		・15 日：共同行動推進会議	・7 日：企画・支援チーム会議 ・11 日：目標６チーム会議	・12 日：NDP 医療安全教材シリーズ第８巻「医療機器の安全管理」制作 ・12 日：教材ＤＶＤ「経鼻栄養チューブの挿入と管理」制作 ・26 日：「肺塞栓予防」患者向けパンフレット制作
	3	・2 日：周術期肺塞栓症予防出張セミナー（前橋市） ・18 日：周術期肺塞栓症予防出張セミナー（守口市） ・22 日：医療安全全国共同行動 東京シンポジウム～有害事象から患者さんを守ろう（東京都） ・27 日：医療安全全国共同行動支援セミナー in 宮城（仙台市）			・7 日：支援チーム代表者会議 ・20 日 -21 日：支援チームセミナー（湯河原）	
	4	・3 日：周術期肺塞栓症予防出張セミナー（鹿児島市） ・7 日：周術期肺塞栓症予防出張セミナー（旭川市） ・24 日：医療安全全国共同行動鹿児島フォーラム（鹿児島市）			・4 日：企画委員会全体会議	
	5	・15 日：医療安全全国共同行動 ２周年記念フォーラム（東京都） ・15 日：実技講習会「経鼻栄養チューブの挿入留置手技～安全な経鼻栄養チューブの挿入を目指して――人・物・技術」（東京都） ・22 日：“いのちをまもるパートナーズ”宮城フォーラム（仙台市）		・13 日：共同行動評価委員会 ・15 日：共同行動連絡会議		

2010	6	・3 日：周術期肺塞栓症予防出張セミナー（西宮市）			・6 日：支援チーム会議	
	7				・4 日：全国フォーラム準備会議	
	8					
	9					
	10	・3 日：医療安全全国共同行動石川フォーラム（金沢市） ・13 日：平成 22 年度医療安全管理シンポジウム - 西部地区（浜松市）	・23 日：共同行動応援コンサート in 諏訪中央病院／諏訪中央病院主催（茅野市）			
	11	・8 日：平成 22 年度医療安全管理シンポジウム - 中部地区（静岡市） ・11 日：第 1 回医療安全やまがたフォーラム ・16 日：平成 22 年度医療安全管理シンポジウム - 東部地区（沼津市） ・26-27 日：医療安全全国フォーラム（東京都） ・27 日：第 2 回医療安全いわて公開フォーラム		・17 日：共同行動推進会議 ・27 日：共同行動連絡会議		
	12			・8 日：共同行動推進会議		

フォーラムとセミナー

[全国フォーラムの概要]

開催年月日		会合名	開催場所	主催団体（含共催）
2008	5 月 17 日	医療が変わる！ 医療安全全国共同行動 キックオフ・フォーラム	経団連ホール （経団連会館 14 階）	主催：医療安全全国共同行動推進会議／ 医療の質・安全学会／日本病院団体協議会／ 日本医師会／日本看護協会日本臨床工学技士会／他
	11 月 24 日	医療安全全国フォーラム	東京ビッグサイト会議棟	主催：医療安全全国共同行動推進会議／ 医療の質・安全学会 3 回学術集会
2009	5 月 30 日	医療安全全国フォーラム	東京都 （日本教育会館）	主催：医療安全全国共同行動推進会議
	11 月 23 日	医療安全全国フォーラム	東京都 (東京ビッグサイト会議棟）	主催：医療安全全国共同行動
2010	5 月 15 日	医療安全全国共同行動 ２周年記念フォーラム	東京都 （ベルサール九段）	主催：医療安全全国共同行動推進会議／ 医療の質・安全学会／日本病院団体協議会／ 日本医師会／日本歯科医師会／日本看護協会／ 日本臨床工学技士会／日本病院薬剤師会
	11月26日・27 日	医療安全全国フォーラム	千葉市 (幕張メッセ国際会議場）	主催：医療安全全国共同行動 後援：厚生労働省／全国知事会

[地域フォーラム／共同行動支援セミナーの概要]

開催年月日		会合名	開催場所	主催団体（含共催）
2008	7 月 26 日	医療が変わる！ 医療安全全国共同行動 キックオフ・フォーラム in 関西	兵庫県西宮市 （兵庫医科大学平成記念会館）	主催：医療安全全国共同行動推進会議 “ キックオフ・フォーラム in 関西 ” 実行委員会
	8 月 24 日	医療安全全国共同行動 キックオフ・フォーラム in 九州	福岡市 (九州大学医学部百年講堂）	主催：医療安全全国共同行動推進会議 “ キックオフ・フォーラム in 九州 ” 実行委員会
	9 月 6 日	医療安全全国共同行動 キックオフ・フォーラム in 東北	仙台市 （仙台国際センター 2 階「橘」）	主催：医療安全全国共同行動推進会議 “ キックオフ・フォーラム in 東北 ” 実行委員会 東北厚生局／宮城県医師会／仙台市医師会／ 城県病院協会／宮城県看護協会／ 宮城県歯科医師会／宮城県薬剤師会／ 宮城県病院薬剤師会／宮城県臨床工学技士会／他 後援：東北厚生局／宮城県／仙台市／青森県／岩手県／ 秋田県／山形県／福島県／ 福島県病院協会／ 秋田県病院協会／河北新報／東北経済連合会

2009	2 月 10 日・11 日	医療安全全国共同行動支援セミナー 「事例分析から改善へ－危険薬誤投与防止を例として」	京都市 (関西セミナーハウス)	主催：医療安全全国共同行動 技術支援部会
	5 月 30 日	医療安全全国共同行動支援セミナー	東京都 (国立国際医療センター)	主催：医療安全全国共同行動 技術支援部会
	6 月 1 日	医療安全全国共同行動支援セミナー in 福岡		主催：“ 医療安全全国共同行動支援セミナー in 福岡 ” 実行委員会 共催：医療安全全国共同行動企画委員会／福岡県看護協会／テルモ（株）／日本光電九州（株）
	7 月 12 日	医療安全全国共同行動 静岡フォーラム	静岡市 （静岡県コンベンションアーツセンター）	主催：医療安全全国共同行動推進拠点／社団法人静岡県病院協会 共催：社団法人静岡県医師会／社団法人静岡県歯科医師会／社団法人静岡県看護協会／社団法人静岡県薬剤師会／静岡県病院薬剤師会／社団法人静岡県放射線技師会／社団法人静岡県臨床衛生検査技師会／静岡県臨床工学技士会／全国自治体病院協議会静岡県支部
	7 月 24 日・25 日	医療安全共同行動東北フォーラム（東北地域セミナー）	仙台市 （仙台国際センター）	主催：東北地域推進委員会 （委員長 伊東淳造先生 ; 宮城県医師会会長）／厚生労働省東北厚生局
	7 月 26 日	医療安全全国共同行動 推進シンポジウム in 栃木	栃木県下野市 (自治医科大学地域医療情報研修センター中講堂）	主催：自治医科大学附属病院 医療安全対策部 協賛（50 音順）：アステラス製薬 (株) ／グラクソ・スミスクライン (株) ／小林製薬 (株) 小林メディカルカンパニー／サノフィ・アベンティス (株) ／(株) ジェイ・エム・エス／ (株) テプコシス／テムズ／テルモ (株) ／日本シャーウッド (株) ／パラマウントベッド (株) ／ (株) メディコン／レールダルメディカルジャパン (株)
	10 月 28 日・31 日	神奈川県医療安全 推進セミナー	横浜市 (神奈川県総合医療会館）	主催：神奈川県医療安全対策事業実行委員会
	11 月 28 日	医療安全いわて公開フォーラム	盛岡市（岩手教育会館）	主催：岩手県医師会／岩手県歯科医師会／岩手県看護協会／岩手県薬剤師会／岩手県病院薬剤師会／岩手県臨床工学技士会
2010	1 月 16 日	医療安全全国共同行動 in 大隅	鹿児島県鹿屋市 （鹿児島県鹿屋市「リナシティかのや」）	主催：医療安全全国共同行動支援セミナー in 大隅　実行委員会 共催：医療安全全国共同行動企画委員会／医療安全全国共同行動フォーラム鹿児島／テルモ (株)
	2 月 20 日	医療安全全国共同行動支援セミナー ｉ n 沖縄	沖縄県南風原町 （沖縄県医師会館）	主催：“ 医療安全全国共同行動支援セミナー in 沖縄 ” 実行委員会 共催：テルモ (株) ／日本光電九州 (株)
	3 月 22 日	医療安全全国共同行動 東京シンポジウム	東京都 （国立国際医療センター 国際協力研修棟 5 階大会議室）	主催：医療安全全国共同行動 東京シンポジウム実行委員会 協賛：東京都医師会／東京都看護協会／東京都臨床検査技師会／東京都臨床工学技士会／東京都放射線技師会
	3 月 27 日	支援セミナー in 宮城	仙台市 (仙台国際センター白橿（しらかし）)	東北大学病院医療安全推進室とテルモ社の共催
	4 月 24 日	医療安全全国共同行動鹿児島フォーラム	鹿児島市 （鹿児島大学 鶴陵会館）	主催：医療安全共同行動　鹿児島フォーラム実行委員会 共催：医療安全全国共同企画委員会／鹿児島県／鹿児島県医師会／鹿児島県歯科医師会／鹿児島県薬剤師会／鹿児島県病院薬剤師会／鹿児島県看護協会／鹿児島県放射線技師会／鹿児島県臨床検査技師会／鹿児島県臨床工学士会／鹿児島県歯科衛生士会／日本シャーウッド (株) ／テルモ (株) ／日本光電 (株)
	5 月 15 日	実技講習会　“ 経鼻栄養チューブの挿入留置手技～安全な経鼻栄養チューブの挿入を目指して――人・物・技術	東京都 (ベルサール九段、会議室)	主催：医療安全全国共同行動 共催：石川県医師会／石
	5 月 22 日	“ いのちをまもるパートナーズ ” 宮城フォーラム	仙台市 （仙台市医師会館）	主催：‘ いのちをまもるパートナーズ ’ 宮城フォーラム企画委員会 後援：東北厚生局／宮城県／仙台市

	10月3日	医療安全全国共同行動石川フォーラム	金沢市 （石川県医師会館４階研修室）	共催：石川県医師会／石川県医療安全推進協議会／ 医療安全全国共同行動
	10月13日	静岡県「医療安全管理シンポジウム」（西部地区）	浜松市 （浜松市地域情報センター１階ホール）	主催：社団法人静岡県病院協会
	11月8日	静岡県「医療安全管理シンポジウム」（中部地区）	静岡市 （男女共同参画センター「あざれあ」６階　大ホール）	主催：社団法人静岡県病院協会
	11月11日	第１回医療安全やまがたフォーラム	山形市 （山形県土地改良会館）	主催：（社）山形県医師会、（社）山形県歯科医師会、（社）山形県薬剤師会、（社）山形県看護協会、（社）山形県臨床工学技士会
	11月16日	静岡県「医療安全管理シンポジウム」（東部地区）	沼津市 （サンフロント　９階　ミーティングホール）	主催：社団法人静岡県病院協会
	11月27日	第２回医療安全いわて公開フォーラム	盛岡市（岩手教育会館）	主催：（社）岩手県医師会、（社）岩手県歯科医師会、（社）岩手看護協会、（社）岩手県薬剤師会、岩手県病院薬剤師会、岩手県臨床工学技士会

［関連イベント］

開催年月日		会合名	開催場所	主催団体（含共催）
2009	8月16日	日本麻酔科学会市民シンポシウム 「医療の安全は患者市民と共に―いのちをまもるパートナーズ―」	神戸市 （神戸国際会議場）	主催：日本麻酔科学会
	9月17日	応援コンサート　ＩＮ 京都民医連中央病院	京都市 （近畿高等看護学校）	主催：京都民医連中央病院
	9月26日	応援コンサート　ＩＮ 諏訪中央病院	長野県茅野市 （組合立諏訪中央病院）	主催：組合立諏訪中央病院
	12月12日	医療安全に関するワークショップ ～今みつめなおす医療人としての姿勢～	金沢市 (石川県地場産業振興センター)	主催：厚生労働省 東海北陸厚生局
2010	10月23日	応援コンサート　ＩＮ 諏訪中央病院	長野県茅野市 （組合立諏訪中央病院）	主催：組合立諏訪中央病院

各地の地域フォーラムより

2010年3月22日、医療安全全国共同行動東京シンポジウム（国立国際医療研究センター）

2010年5月22日、“いのちをまもるパートナーズ”宮城フォーラム（仙台市医師会館）

共同行動応援コンサートより

2009年9月17日、京都民医連中央病院主催、出演はギターとバイオリンのデュオ、ジュスカ・グランペール

2009年9月26日、諏訪中央病院主催、出演はシンガーソングライターの川江美奈子さん

病院の活動

（ホームページからご覧いただける病院の活動・事例報告）

［フォーラム発表事例（2010.11.26 全国フォーラムにおけるポスター発表より）］

http://partners.kyodokodo.jp/info/report/2010/z101126forum1.html

行動目標１：危険薬の誤投与防止

演題番号	施設	発表者	演題名
Ck1-01	京都市立病院　医療の質推進委員会	平田敦宏	PDF 行動目標１．危険薬の誤投与防止　－当院における取組みの経緯と活動状況について－
Ck1-02	埼玉県総合リハビリテーションセンター　薬剤科	鈴木清志	PDF 当センターにおける危険薬リストを用いた危険薬誤投与防止対策の取り組み
Ck1-03	東京理科大学　薬学部	森田　茜	調剤過誤による死亡ゼロに向けた取組み３―取り間違い発見ツールの普及と取り間違い経験調査報告―
F1-01	JA 長野厚生連　佐久総合病院　薬剤部	三浦篤史	PDF 危険薬の誤投与防止の実施と成果
F1-02	関西医科大学附属枚方病院　医療安全管理部	川瀬泰裕	PDF アレルギー情報の共有化への取組み
F1-03	磐田市立総合病院　薬剤部	正木銀三	PDF 5S を活用した医薬品安全管理
F1-04	旭川赤十字病院　副院長	牧野憲一	PDF 危険薬の誤投与による重大事故防止に向けてのシステム要因の排除
F1-05	社会医療法人　阪南医療福祉センター　阪南中央病院　薬剤科	中林保博	PDF「危険薬誤投与防止」への取り組みの現状と課題
F1-06	名古屋第二赤十字病院　薬剤部	今高多佳子	PDF 薬剤師によるハイリスク薬教育
F1-07	神奈川県立足柄上病院　薬剤師	重松修司	県立足柄上病院での危険薬の誤投与防止への取組みと成果
F1-08	社会保険京都病院　医療安全管理者	芝山　宏	当院における W チェック薬管理について
F1-09	筑波大学附属病院　臨床医療管理部薬剤主任	堀内　学	適切な処方の為の改善事例の紹介

行動目標２：周術期肺塞栓症の予防

演題番号	施設	発表者	演題名
Ck2-01	福井県済生会病院	岩佐佳恵	PDF 当院における周術期肺塞栓症予防プロジェクトチームの取り組み
F2-01	JA 長野厚生連　佐久総合病院　外科病棟副師長	沖浦和江	PDF 周術期肺塞栓症の予防に対する取り組みの実際
F2-02	東邦大学医療センター佐倉病院　麻酔科	菅野敬之	PDF 周術期静脈血栓塞栓症予防への取り組み
F2-03	西宮市立中央病院　医療安全対策室	坂本とも子	周術期肺塞栓症予防の取り組み
F2-04	総合病院国保旭中央病院　5-2B 外科病棟	福森明美	深部静脈血栓予防に向けた取り組み
F2-05	函館中央病院　医療安全管理室	鈴木祥子	PDF 肺血栓塞栓症予防法選択における閉塞性動脈硬化症患者様へのリスクレベル判定指針を作成して

行動目標３：危険手技の安全な実施

演題番号	施設	発表者	演題名
Ck3-01	財団法人　竹田綜合病院	須田喜代美	PDF 経鼻栄養チューブ挿入中に栄養剤誤注入を行った医療機関における挿入時の位置確認－全国調査－
Ck3-02	医療安全全国共同行動 行動目標 3a 支援チーム	杉本こずえ	PDF 経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認についての調査報告
Ck3-03	東京ベイ・浦安市川医療センター　安全管理者	風間敏子	「経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認についての全国調査報告 -2 か年の質問事項の集計から」
Ck3-04	医療安全全国共同行動 行動目標３　危険手技の安全な実施 3a 経鼻栄養チューブ班	山元恵子	PDF 目標 3a「経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認」推奨対策の取り組み状況
F3-01	京都民医連中央病院 医療安全管理室ＧＲＭ	清水路佐	PDF 経鼻栄養チューブの挿入時の位置確認および栄養剤注入前の手順
F3-02	春日部市立病院　看護部栄養サポートチーム専門療法士	落合博枝	PDF A 病院の経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認と注入前のマニュアル作成までのプロセス

（ホームページにて一般公開をご承諾いただいたものについて掲載しています）

F3-03	公立陶生病院　医療安全管理者	二村ひとみ	PDF 経鼻栄養チューブ誤挿入防止のマニュアル見直しへの取り組み
Ck3-05	JA 長野厚生連　佐久総合病院 救命救急センター	渡部修	PDF リアルタイム超音波ガイド下中心静脈カテーテル穿刺挿入法：needle leading method による腋窩静脈穿刺
Ck3-06	大阪赤十字病院　CVC 小委員会	井上博之	PDF 安全な CVC 挿入確立のための取り組み
Ck3-07	聖路加国際病院　呼吸器内科	山雄さやか	研修医の行う中心静脈カテーテル挿入術の安全性確保に対する聖路加国際病院の新たな試み
F3-04	諏訪中央病院　外科部長	小林義典	PDF “ 病院力 ” で、より安全な CVC 挿入を目指す
F3-05	長野市民病院　医療安全管理室	五十嵐君与	PDF 院内のＣＶＣ挿入の標準化目指したＣＶチームの取り組み

行動目標４：医療関連感染症の防止

演題番号	施設	発表者	演題名
F4-01	NTT 東日本伊豆病院　感染制御室副室長	河野幸恵	PDF 全職員を対象とした手指衛生を徹底するための取り組みの実際
F4-02	NTT 東日本伊豆病院　感染制御室副室長	塩田美佐代	PDF 清掃職員に対する適正な清掃手順で作業するための教育
F4-03	名古屋第二赤十字病院　感染リスクマネージャー	田村秀代	PDF ＮＩＣＵにおけるＭＲＳＡ対策
F4-04	ＪＦＥ健康保険組合　川鉄千葉病院 ＩＣＮ感染管理室師長	小川直子	ノロウイルス胃腸炎に対する感染対策
F4-05	仙台社会保険病院　感染管理室	西島睦子	急性期病院としての取り組み

行動目標５A：輸液ポンプ・シリンジポンプの安全管理

演題番号	施設	発表者	演題名
Ck5-01	獨協医科大学病院　薬剤部	岩瀬利康	PDF 輸液チューブの連結部分からの薬液漏れ検出紙の開発とその臨床使用
F5-01	公立八女総合病院　病棟看護主任	小川聡志	PDF 輸液ポンプ・シリンジポンプの安全管理の取り組みと今後の課題
F5-02	中国電力㈱中電病院 医療機器安全管理責任者	元山明子	PDF シリンジポンプ・輸液ポンプの安全な操作と管理への取り組み ～リーダー看護師育成にむけて
F5-03	前橋赤十字病院　内視鏡外科部長	安東立正	PDF 輸液・シリンジポンプ使用認定看護師制度の導入
F5-04	武蔵野赤十字病院　看護部	稲吉礼子	PDF 輸液ポンプ・シリンジポンプの実技研修の実施と運用
F5-05	松波総合病院　医療安全管理者	中村冨美	PDF 当院における輸液ポンプ・シリンジポンプの安全管理の取り組み
F5-06	名古屋共立病院　臨床工学課技士	吉田昌生	PDF 輸液ポンプ・シリンジポンプの安全管理に対する臨床工学技士の取り組み
F5-07	広島赤十字原爆病院 臨床工学技士	山田秀樹	PDF 当院における輸液・シリンジポンプの安全管理について
F5-08	東京歯科大学市川総合病院 臨床工学技士	渡邊慎一朗	PDF 当院における輸液・シリンジポンプ安全使用への取り組み
F5-09	島根県立中央病院 主任臨床工学技士	山中英樹	「輸液装置適正使用ガイドライン作成による輸液装置の運用指標」～自動滴下装置と Hi セットの導入から～

行動目標５B：人工呼吸器の安全管理

演題番号	施設	発表者	演題名
Ck5-02	公立学校法人　福島県立医科大学麻酔科学講座	飯田裕司	PDF 当院における人工呼吸教育の実施状況（病棟にて安全に人工呼吸管理を行うために）
Ck5-03	福井大学医学部附属病院 ＭＥ機器管理部	笠川哲也	PDF バーコードを使った独自システムによる内視鏡洗浄履歴管理の取り組み
F5-10	総合病院鹿児島生協病院 医療機器安全管理責任者	神野義晴	当院における人工呼吸器のラウンド点検の現状と不具合低減の取組みについて
F5-11	県西部浜松医療センター 臨床工学技士	中村光宏	PDF 呼吸サポートチームの安全管理への取り組み
F5-12	大田原赤十字病院　臨床工学技士	十河匡光	PDF 当院における人工呼吸器安全の実際
F5-13	社会保険中京病院　SIM センター	神倉和見	PDF 医療機器の安全な操作と管理 - 当院における人工呼吸器の安全管理
F5-14	岩手県立大船渡病院 主任臨床工学技士	菊地雄一	PDF 人工呼吸療法サポートチームの活動
F5-15	鹿児島大学病院　前ＧＲＭ	田畑千穂子	人工呼吸器に関連する事故防止策の実際
F5-16	島根県立中央病院 主任臨床工学技士	谷村知明	PDF 当院の人工呼吸器に関する安全管理

行動目標６：急変時の迅速対応

演題番号	施設	発表者	演題名
Ck6-01	北里大学病院　RST	小池朋孝	PDF 呼吸療法サポートチーム（respiratory support　team：RST）のラウンド活動の実際と RRT（Rapid Response Team ）への発展
F6-01	JA 長野厚生連　佐久総合病院	岩崎弘子	PDF 救急対応講習会の現状と課題
F6-02	前橋赤十字病院 救急認定看護師・看護係長	小池伸亨	PDF 看護師の気づき能力を高める「患者急変対応コース for Nurses」を導入して
F6-03	福井県済生会病院 画像センター看護師	下前めぐみ	PDF " 急変時迅速対応 " 検討チームによる取組み事例
F6-04	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院	濱田正彰	当院における AED 集中監視システムの構築
F6-05	半田市立半田病院	佐藤チエ子	PDF 院内全職員の急変時対応力向上の取り組み
F6-06	社会福祉法人康和会　久我山病院外来師長	西田志津子	PDF ＢＬＳ全職員研修の取り組み
F6-07	大垣市民病院　救命救急センター	山口均	PDF 当院における院内急変時対応への試み
F6-08	社会医療法人仁愛会浦添総合病院急性・重症患者看護専門看護師	伊藤智美	当院における急変時の迅速対応の取り組み
F6-09	岩国市医療センター医師会病院　看護部	香西順恵	PDF 当院の急変時対応に対する取り組み

行動目標７：事例要因分析から改善へ

演題番号	施設	発表者	演題名
Ck7-01	自治医科大学附属さいたま医療センター　医療安全管理室	亀森康子	PDF インシデントレポートから見る職種別レポート数からの考察 ーリハビリテーション部からの報告ー
Ck7-02	磐田市立総合病院　リハビリテーション技術科	田中正宏	PDF 車椅子の移乗時の切り傷・擦り傷を防止する　ためのフットレスト防護カバー使用の取り組み
Ck7-03	Ai 情報センター	山本正二	PDF Ai 情報センターを核とした地域医療安全への取り組み
F7-01	前橋赤十字病院　医療安全推進室	川井ひで子	PDF 事例要因分析から改善へのシステム構築 - ファシリテーターの育成とＭ＆Ｍカンファレンスのプログラム化 -
F7-02	国保　日高総合病院　医療安全管理室	上道雅和	PDF インスリンに関するインシデントの集積型ＲＣＡの結果について
F7-03	国立病院機構　八戸病院	伊藤悦子	医療事故の根絶を目指して ～リスク解決プロセスミーティングから学んだこと～
C-01	国立病院機構　仙台医療センタ	大川禎子	横断的チーム活動による医療安全の取り組み

行動目標８Ａ：患者・市民の医療参加

演題番号	施設	発表者	演題名
Ck8-01	東北大学病院　総合診療部	金村政輝	PDF 外来診療での患者誤認防止に向けた東北大学病院の取り組み
Ck8-02	京都市立病院　医療安全推進室	寸田靖	PDF 京都市立病院における患者誤認対策について
Ck8-03	京都市立病院　看護科　手術室	鈴木真美	A 病院看護科におけるフルネーム確認の取り組みについて ～患者誤認ゼロをめざして～
Ck8-04	宝塚市立病院　医療安全対策室	小林　睦	PDF 患者誤認防止活動の再徹底～患者アンケートのＣＳ分析とインシデントレポートからの評価～
Ck8-05	焼津市立総合病院 医療安全管理室	竹原誠也	「お名前をお願いしますキャンペーン」を実施して - 患者の安全意識の高さ -
F8-01	JA 長野厚生連　佐久総合病院 診療放射線科技師長	井出達治郎	PDF 患者と医療者の協同によるフルネーム確認
F8-02	岩手医科大学附属病院 医療安全推進室	菅原敦子	PDF 患者と医療者の協同によるフルネーム確認
F8-03	六甲アイランド病院 医療安全対策室	大西アイ子	PDF 院内統一の患者確認方法の作成とその評価
F8-04	栗原市立栗原中央病院 総看護師長	渡邊和子	PDF 患者・市民の医療参加　- 患者と医療者の共同によるフルネーム確認の取組みー

行動目標８Ｂ：患者・市民の医療参加

演題番号	施設	発表者	演題名
Ck8-06	春日部市立病院　相談支援室	小野まゆみ	PDF「心ある医療の実践」を目指した患者図書室開設のプロセス ―患者・家族と医療者のパートナーシップ―

Ck8-07	自治医科大学附属病院　看護部	井上佐代子	PDF 患者・家族への転倒・転落防止のための取り組み ―患者・家族への啓蒙活動の実践とその中間報告―
Ck8-08	市立豊中病院　医療安全管理室	水摩明美	PDF 患者参加を求める医療安全推進週間の取り組み
F8-05	聖マリアンナ医科大学東横病院　医療安全対策室	小山照幸	PDF 地域に密着した医療を目指した当院の取り組み
F8-06	栗原市立栗原中央病院　医療安全管理室	佐藤工子	PDF 患者市民の医療参加 ―患者と医療者による服薬チェックシートを共同使用―

＊演題名に PDF の印がついているものは http://partners.kyodokodo.jp/info/report/2010/z101126forum1.html　からスライド資料がご覧になれます

＊各発表の抄録は http://forum2010.ppsqsh.net/happyou.html　からご覧になれます

[寄稿および地域フォーラム等で発表された病院の活動事例]

http://partners.kyodokodo.jp/info/action/#anchor2

- 有隣厚生会富士小山病院「当病院における患者確認の現状と課題」(2010-11-16　静岡東部シンポジウムにて)
- 富士宮市立病院「『まずあなたのお名前を名乗ってください』―その実態調査」(2010-11-16　静岡東部シンポジウムにて)
- 沼津市立病院「ACL 再建術オールインワンパスを利用した転倒転落防止への取り組み」(2010-11-16　静岡東部シンポジウムにて)
- ＪＡ静岡厚生連静岡厚生病院「当院におけるリハビリテーション自主トレーニング指導の現状と課題」(2010-11-8　静岡中部シンポジウムにて)
- 市立島田市民病院「診療放射線室における患者確認の現状と問題点」(2010-11-8　静岡中部シンポジウムにて)
- 焼津市立総合病院「“お名前をお願いしますキャンペーン”に取り組んで」(2010-11-8　静岡中部シンポジウムにて)
- 浜松赤十字病院「『できるところから』の地域住民の力－病院ボランティア」(2010-10-13　静岡西部シンポジウムにて)
- 浜松赤十字病院「浜松医赤十字病院の患者図書室活動」(2010-10-13　静岡西部シンポジウムにて)
- 遠州病院「ひまわり会 (人工肛門、人工膀胱の会) の患者さんと共に」(2010-10-13　静岡西部シンポジウムにて)
- 恵寿総合病院「患者・市民の医療参加を目指して」(2010-10-3　石川フォーラムにて)
- 芳珠記念病院「事例紹介」(2010-10-3　石川フォーラムにて)
- 玉置病院「『確認方法９か条』のポスターを制作しました」(2010-12-10)
- 国立循環器病研究センター「院内は安全ですか？－急変事例の全例報告の取り組み」(2010-11-20)
- 福井県済生会病院「〝急変時の迅速対応、検討チームによる取り組み事例」(2010-11-20)
- 中頭病院、ちばなクリニック「ちばな地域医療フォーラムについて」(2010-11-20)
- 仙台医療センター「当院における輸液ポンプ・人工呼吸器の安全管理活動について－臨床工学技士の関わり方を中心に」(2010-5-22　宮城フォーラムにて)
- 亀田総合病院「医療機器の安全な操作と管理へ組織的・体系的に取り組む」(2010-7-14)
- 飯塚病院「失神 CP 適応基準シート、失神 CP、失神入院治療計画書の紹介」(2010-7-14)
- 沖縄県立中部病院「Ｍ＆Ｍカンファレンスについて」(2010-4-03)
- 球大学医学部附属病院「輸液ポンプとシリンジポンプの取り組みと成果」(2010-4-3)
- (財) 倉敷中央病院「医師を対象にした医療安全研修会の紹介」(2010-1-28)
- 栗原市立栗原中央病院「当院における医療安全の取り組みと今後の課題」(2010-5-22　宮城フォーラム)
- 東北大学病院「行動目標３ｂ:大学病院における穿刺合併症低減を目的とした中心静脈穿刺専用室設置」(『医療の質･安全学会誌』Vol. ４、No. １、pp128-134　転載)
- 岩国市医療センター医師会病院「中小規模病院の医療安全対策　＜改善活動による医療機器安全管理の取組み＞」(2010-5-15　２周年記念フォーラムにて)
- 鹿児生協病院「危険薬誤投与防止・救急カート整備」(2010-4-24　鹿児島フォーラムにて)
- 鹿児島医療センター「輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作と管理」(2010-4-24　鹿児島フォーラムにて)
- 南九州病院「医療機器の安全な操作と管理について」(2010-4-24　鹿児島フォーラムにて)
- 阿久根市民病院「患者誤認・誤投薬防止」(2010-4-24　鹿児島フォーラムにて)
- 東京逓信病院「危険薬の誤投与防止－ハイリスク薬品 200 品目も大丈夫－」(2010-3-22　東京シンポジウムにて)
- 東京北社会保険病院「周術期肺塞栓症の予防－術後患者さんの症例」(2010-3-22　東京シンポジウムにて)

・ 新横浜リハビリテーション病院「危険手技の安全な実施　経鼻栄養チューブ－安全な知識と技術の普及－」（2010-3-22　東京シンポジウムにて）
・ 虎の門病院「危険手技の安全な実施　中心静脈カテーテル－安全な手技の習得－」（2010-3-22　東京シンポジウムにて）
・ 東京大学付属病院「医療機器の安全な操作と管理　人工呼吸器－事例から学ぶ安全対策－」（2010-3-22　東京シンポジウムにて）
・ 武蔵野赤十字病院「急変時の」迅速対応－３次救急を行なっている病院での RRS」（2010-3-22　東京シンポジウムにて）
・ 琉球大学医学部附属病院「当院におけるインシデント報告の推移」（2010-2-20　沖縄セミナーにて）
・ 敬愛会中頭病院「転倒転落予防活動時の効果的な情報共有」（2010-2-20　沖縄セミナーにて）
・ 済生会宇都宮病院「要注意医薬品管理体制－看護師に対する要注意医薬品知識確認テストの評価」（2009-7-26　栃木シンポジウムにて）
・ ＪＡ上都賀総合病院「当院における安全な経鼻栄養実施への取り組み」（2009-7-26　栃木シンポジウムにて）
・ 栃木県立がんセンター「当センターにおける中心静脈カテーテル挿入に関する体制について」（2009-7-26　栃木シンポジウムにて）
・ 芳賀赤十字病院「輸液ポンプの安全操作の為の【草の根】研修会の実施」（2009-7-26　栃木シンポジウムにて）
・ 大田原赤十字病院「医療安全全国共同行動から取り組んだ人工呼吸器の安全管理」（2009-7-26　栃木シンポジウムにて）
・ 静岡赤十字病院「入院時持参薬管理」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）、「一次救命処置普及活動」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）
・ 県西部浜松医療センター「ＶＴＥの取り組み」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）
・ 静岡県立総合病院「危険手技の安全な実施のために」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）
・ 三島社会保険病院「人工呼吸器の安全管理」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）
・ JA 静岡厚生連遠州病院「急変時の対応」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）
・ 総合病院聖隷浜松病院「ＲＣＡ分析の導入と現状」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）
・ 栗原市立中央病院、飯塚病院等「患者・市民の医療参加－取り組みを組織でどう進めるか、まずは自施設に合う取り組みを選んで」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）
・ 浜松赤十字病院「患者図書室活動」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）
・ JA 静岡厚生連遠州病院「当院におけるインシデントレポート状況と解析」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）
・ 総合病院聖隷浜松病院「放射線治療の品質管理」（2009-7-12　静岡フォーラムにて）

（2010 年 12 月 31 日時点）

［取り組み事例の報告など］

http://kyodokodo.jp/seika/seikahoukoku.php

目標１	・前橋赤十字病院	・医療法人友仁会　友仁山崎病院	・医療法人宝生会ＰＬ病院	
	・静岡市立静岡病院	・社会医療法人財団大和会東大和病院	・金沢医科大学氷見市民病院	
	・高槻赤十字病院			
目標２	・前橋赤十字病院	・大田原赤十字病院	・大和高田市立病院	
	・厚木市立病院	・静岡市立静岡病院		
目標３ａ	・前橋赤十字病院	・長崎県五島中央病院	・筑波メディカルセンター病院	
	・医療法人宝生会ＰＬ病院	・静岡市立静岡病院		
目標３ｂ	・前橋赤十字病院	・医療法人宝生会ＰＬ病院	・長野赤十字病院	
	・大和高田市立病院	・静岡県立総合病院	・静岡市立静岡病院	
	・金沢医科大学氷見市民病院			
目標４	・前橋赤十字病院	・筑波メディカルセンター病院	・医療法人友仁会　友仁山崎病院	
	・社会医療法人財団大和会東大和病院	・金沢医科大学氷見市民病院		
目標５ａ	・前橋赤十字病院	・広島赤十字	・原爆病院	・大田原赤十字病院
	・山口県済生会下関総合病院	・大和高田市立病院	・公立山城病院	・静岡市立静岡病院
	・金沢医科大学氷見市民病院			
目標５ｂ	・前橋赤十字病院	・長崎県五島中央病院	・大田原赤十字病院	
	・公立山城病院	・静岡市立静岡病院	・金沢医科大学氷見市民病院	
目標６	・前橋赤十字病院	・静岡市立静岡病院		
目標７	・前橋赤十字病院	・長野赤十字病院	・大和高田市立病院	・静岡市立静岡病院
目標８	・前橋赤十字病院	・長崎県　五島中央病院	・静岡市立静岡病院	・菊川市立総合病院

（2010 年 12 月 31 日時点）

［受賞病院の活動（2010.11.26　医療安全全国フォーラムにて表彰］

http://forum2010.ppsqsh.net/

京都市立病院／医療安全全国共同行動 優秀活動賞

演題：行動目標１．危険薬の誤投与防止
ー当院における取組みの経緯と活動状況についてー

京都市立病院 医療の質推進委員会

○平田敦宏、寸田 靖、小林 美智子、大迫 努、新谷 弘幸、森本 泰介、内藤 和世

当院では薬剤科を中心に医薬品関連の事故防止に努めてきた。2008 年 11 月に「医療安全全国共同行動」に参加したことを契機に、病院全体で、チャレンジ項目を含む「推奨する対策」の実施状況の確認を行った。その後、不十分あるいは未実施の項目について新たに取組みを実施した。今回、活動状況および医療事故等報告の分析結果について報告する。

共同行動ホームページより
http://forum2010.ppsqsh.net/docs/slide-kyoto.pdf

◆　**対策１「危険薬の啓発と危険薬リストの作成・周知」**

1. 危険薬の選定　NDP の推奨している危険薬リストを参考にして、危険薬 444 薬品を選定した。

2. 危険薬の表示　電子カルテ画面や処方箋、薬袋に危険薬の薬品名の前に【危】を表示した。

3. 危険薬管理マニュアル作成　危険薬管理マニュアルを策定し、看護科に配布すると共に「診療マニュアル」に掲載した。

4. 危険薬投与時の確認基準の作成　投与に際して何に注意する必要があるのかという観点で、薬剤師と集中ケア認定看護師が共同して「危険薬投与時の確認基準」を作成した。その際に、危険薬の絞込みを実施し 131 薬品を選定した。

5. 抗がん剤投与時の注意喚起シールの作成　「危険薬投与時の確認基準」の 4、5 の抗がん剤関連については、2008 年 4 月から全ての注射抗がん剤を薬剤科で無菌混合調製し、調製後の輸液ラベルに注意喚起シールを貼布して交付している。さらに「抗がん剤アナフィラキシー対策マニュアル」と「抗がん剤血管外漏出マニュアル」を策定した。注意喚起シールは患者との協働による事故対策にもつながっている。

6. 研修会の開催　医療現場では職員、特に医師や看護師の入れ替わりが多く、周知するために反復して研修会を開催している。

◆　**対策２「高濃度カリウム塩注射剤、高張塩化ナトリウム注射剤の病棟保管の廃止」**

1. 病院内の常備状況の調査　やむを得ない理由の部署のみ常備を承認し、それ以外の部署は廃止した。その旨を「常備薬管理マニュアル」に明記した。また、複数の製品を見直して、一品目に統一した。

2. 薬剤科での一元管理とリマインダー添付の徹底　薬剤科での一元管理とし交付時のリマインダー添付を徹底した。

◆　**対策３「類似薬の警告と区分保管」**

1. 類似名称医薬品の整理　厚生労働省通知「医薬品の販売名の類似性等による医療事故防止対策の強化・徹底について（注意喚起）」を基に薬事委員会で整理した。

2. 危険薬マークの作成・貼付の実施　危険薬シールを独自に考案・作成し、危険薬の配置箇所に貼付した。

◆　**対策４「注射指示の標準化」**

電子カルテを導入し標準化を図っている。

◆　**当院の医療事故等報告の分析・比較**

平成 21 年度（4 月～ 3 月）・22 年度上半期（4 ～ 9 月）の当院の医療安全レポートの分析を行った。全レポートの内、医薬品に関連する報告は、平成 21 年度 39.3%（356/906）、平成 22 年度 39.4%（196/497）とほぼ同じ割合であった。医薬品に関連する報告の内、危険薬に関連する報告は、平成 21 年度 27.2%（97/356）、平成 22 年度 24.0%（47/196）と減少傾向にある。医薬品関連事故報告、危険薬関連事故報告に絞っても、行為別では与薬、注射投与が多く、危険薬の分類別ではインスリンが多かった。

医療安全レポートの分析は、対策の効果の検証や対策の必要な行為や分類の検出に有用な手段であり、半期ごとに定期的に実施する予定である。

◆　インスリン関連事故防止対策

当院では、医療チーム（糖尿病代謝内科医師、糖尿病療養指導士の資格を有する薬剤師・看護師、医療安全マネージャー等）でインスリン関連事故防止対策に取組んでいる。インスリン施用票の導入やスタッフへの教育・研修を行い（成果を報告済 岩崎祐子ら：インスリン事故防止への取り組み 糖尿病 第51巻第3号：257 － 260、2008）、一定の成果をあげることができた。その後もスライディングスケールの標準化、スライディングスケール施用票の導入、低血糖時の対処法の統一と様々な取組みを実施してきたが、最近残念なことに事故報告が再び増えている。事例分析を行い、継続して対策を講じ実施する所存である。

◆　まとめ

推奨する対策を実施することで、医療事故等報告の内、危険薬に関する事故報告の減少を図ることができた。当院では、Best Practice 16【NDP】のうち、9「払出しと与薬のユニットドース化」が未だ実施できていない。これについては、来年度導入に向けて薬剤科と看護科で協議を開始している。また、与薬の事故対策として、来春には薬袋･投薬ラベル等に患者IDをバーコード印字し、与薬時に患者リストバンドとの２点照合を行うことにより患者誤認防止を図る予定である。将来的には、注射投与時に行っている３点照合による確認・実施入力を目指している。注射投与の対策についても、薬剤師の病棟常駐化を進める中で看護師と協働することにより実施していく所存である。

当院は、医療安全全国共同行動に参加するにあたり、医療の質推進委員会を設立し、８つの行動目標全てに登録している。今後も、病院全体で活動し医療安全の推進を図っていきたい。

●優秀活動賞受賞にあたって

京都市立病院 院長　内藤　和世

このたびは医療安全全国共同行動優秀活動賞に選出いただき、大変名誉に思い、また、当院職員の２年間の取り組みが評価されたことをうれしく思います。

京都市立病院は、平成16年５月に気管切開チューブにかかる重大事故を経験しました。それをきっかけに、医療安全の組織的取り組みを、職員一丸となって進めてきました。医療安全管理委員会、医療安全推進委員会を軸に、医療評価小委員会、問題症例検討小委員会、事例検討小委員会を機能させてきました。さらに、医療安全にとどまらず、医療の質向上の取り組みとして様々な臨床指標を設定し、医療の質推進委員会で評価を進めてきました。

第１期全国共同行動では、８つの行動目標に加えて、当院独自の取り組みとして、患者個人情報保護対策を加えました。全部署の協働による実践、毎月の評価により、常にＰＤＣＡサイクルが働くように心がけてきました。

今回の受賞におごることなく、今後も医療安全・医療の質の向上に努力していきたいと考えています。

市立豊中病院／医療安全全国フォーラム　特別賞

演題：患者参加を求める医療安全推進週間の取り組み

市立豊中病院 医療安全管理室

○水摩　明美　　東山　美鈴

【背景と目的】

安全な医療を目指すには、チーム医療による職員の努力と患者の協力が必要なことはいうまでもない。しかし、患者の医療参加についてはまだまだ理解が乏しく、医療者は自らの安全意識を高めると同時に、患者も医療のパートナーであることについてアピールしていく必要がある。

【取り組みと結果】

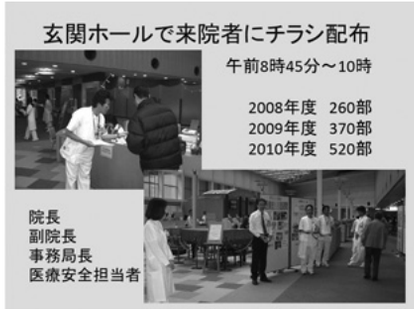
2006年度より毎年、医療安全推進週間に合わせた11月の半日間に、医療安全管理委員を中心に、以下の取り組みを行なってきた。実際に行動したのは、院長、副院長、事務局長、医療安全管理担当者11名の合計約15名である。

１．玄関ホールにおける来院者への医療安全の取り組み紹介と安全への協力依頼

1）ポスター掲示：指差し呼称、タイムアウト、5S活動などの取り組みを紹介すると共に、患者も一緒に指差し呼称による確認をすること、自分の名前を名乗ることの必要性を知らせた。

2）チラシ配布：2008年度は、入院患者に配布してきた「安全で安心な医療について共に考えましょう」のチラシを来院者に260部配布することによって、医療の不確実性やパートナーシップ、かかりつけ医をもつことの必要性について説明した。2009年度は「病院だより」を370部、2010年度は「血管穿刺を受けられる方へ」を520部配布した。

3）病院だより配布：医療トラブルを解決する手段としての医療メディエーションやインシデントレポートの収集、職員研修など、具体的な医療安全管理室の活動について紹介することを目的として、豊中市全域に5000部配布した。



共同行動ホームページより
http://forum2010.ppsqsh.net/docs/slide-toyonaka.pdf

2．全職場の巡視による職員への安全啓発活動

各職場の整理・整頓と患者情報の管理などについて点検し、職員とともに指差し唱和を行なった。

3．メディアによる市民への広報

2008年には、以上の活動について、ケーブルテレビ、インターネット、新聞によって市民に広報した。

4．取り組みに対する市民の意見聴取

2010年、病院の取り組みに関して、来院者150名に聞き取り調査を行なった。93%の方から「安心できる病院だと思う」「とても大事なことだと思う」「一緒に考えていけたらと思う」「この雰囲気がよい」などの意見を得た。

【効果】

医療者のチームワークと安全に対する意識を高めると同時に、来院者のみならず、広く市民に医療安全の取り組みを紹介し、安全への協力を依頼することができた。

今後も継続していくことが重要である。

●特別賞受賞にあたって

市立豊中病院 病院長　島野　高志

この度は、当院の活動報告に対して、特別賞を頂きましたこと、私をはじめ職員一同喜びを噛みしめております。

当院は、地域の中核病院として、市民の皆様とともに「安全で安心な医療」を考えていきたいと決意し、2005年より医療安全管理担当者、通称チームSMAP（safety management active practitioner）を中心に取り組んでまいりました。特に、医療安全推進週間の行動においては「医療者と患者さんは大切な命を守るパートナー」をテーマに、「わかるまで、聞こう、話そう、伝えよう」とアピールしながら、患者さんから名前を言ってもらうこと、一緒に指さし確認することをお願いすると同時に、職員が一斉に「ゼロ災でいこう ヨシ！」と唱和する日といたしました。

今回の受賞は、今後の活動に英気をもたらしました。さらに、職員一丸となって市民の皆様とともに安全な医療を追求してまいりたいと思っております。ありがとうございました。

2010年11月27日、医療安全全国フォーラムにて、ポスターによる活動報告の表彰式が行われました

優秀活動賞を受賞した京都市立病院

特別賞を受賞した市立豊中病院

医療安全全国共同行動「静岡県推進拠点」として

社団法人 静岡県病院協会 会長（浜松赤十字病院 院長） 安藤　幸史

まず、「医療安全全国共同行動」を議長として纏めてこられた高久先生、企画委員会の上原先生をはじめ関係各位のこれまでのご尽力に敬意を表します。

さて、当（社）静岡県病院協会は、運動の始まった 2008 年に上原先生の講演会を開催したのを機に秋には推進拠点としての歩みを始めました。

2009 年７月には、「静岡フォーラム」を県内医療関係団体の協力の下に静岡市のグランシップで開催し、８００人以上の参加者を得ることが出来ました。

また、同年秋には、県内の東、中、西３箇所で「医療安全管理シンポジウム」を８つの行動目標の中から各地域毎に選定したテーマで開催いたしました。

2010 年秋の「医療安全管理シンポジウム」では、３地域共通のテーマとして「患者・市民の医療参加」を選定し開催したところです。

「共同行動キャンペーン」が延長されたことを受け、推進拠点として県内病院の参加登録をさらに呼びかけて「医療安全共同行動」を皆様とともに取り組んでまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

共同行動の意義と今後への期待

神奈川県医療安全対策事業実行委員会 実行委員長 吉田　勝明

日本は豊かになっても、日本人の心はどんどん貧しくなっていく……倉本 聰監督・脚本によるドラマ「歸國」の台詞である。高度精密医療機械の導入など医学研究は発達していくが、果たして我々医師はその進歩についていけているのであろうか、相手の目線を無視して医事紛争は減らない。医療安全もその進歩について行くことが要求されている時代である。

平成 22 年 12 月９日、神奈川県医療安全推進セミナーにおいて児玉安司先生の講演で以下のことを学んだ。

注意しなさい、確認しなさいを何度言っても疲れるだけで、安全性は高まらない。たくさんの仕事をしているからではなく、多種類の仕事を同時にしている方が、むしろミスが起こりやすい。インフォームドコンセントパーセンテージと訴訟とは必ずしも相関しない。つまりインフォームドコンセントの数字を正確にしたとしても紛争は減らないという。医療現場において「危ない」を口に出せない⇒危ない文化、「危ない」を口に出せる⇒医療安全の文化というのである。私も全く同感である。今後、医療人個々の注意喚起だけに医療安全を求めるのではなく、システムの構築として患者の安全が守られるような啓発活動に努力したい。

福岡県病院協会における医療安全行動

社団法人 福岡県病院協会 会長 八木　博司
専務理事 上野　道雄

福岡県病院協会は医療安全全国共同行動に参加させていただき、その一環として、初めて、病院から看護職へのメッセージ“医師と看護師の情報共有で医療安全を築く”を発しました。全県下の看護職 600 名を集めた研修会で、病院長、看護部長、リスクマネージャー各々の立場で、医師と看護師の情報共有の破綻で発生した事故の成因分析、看護記録が窮地の医師を救った事例、医師の真摯な検証が看護行為の無辜を明らかにした事例をもとに、医師と看護師のチーム医療の危うさと、その価値を明らかにしました。さらに、事例に裏付けられた安全体制の構築、挫折、検証を繰り返して、少しずつ確立していく過程を、演者と聴衆が一体になって、熱い討議を繰り返し、病院・医師と看護師が直接向き合う５時間の研修会を終えました。

医療安全全国共同行動への期待

鹿児島大学病院 病院長　**髙松　英夫**

医療安全全国共同行動の存在を知ったのは、恥ずかしながら本院のGRMからの情報でした。それから2009年3月の鹿児島大学キックオフミーティング、地域推進拠点への登録、そして2010年4月の鹿児島フォーラムへの大きなうねりとなっていきました。医療安全について国立大学附属病院病院長会議では常置委員会で問題提起・解決策の検討を行っていきますが、なかなか同じ県内の医療施設に自分たちの取り組みを紹介することもありません。今回の全国共同行動はそのような医療安全について共通のテーマで取り組み、各地のフォーラムで発表することで情報の共有、意識の共有が図れたと考えています。ただ、全国の参加施設の数が期待をかなり下回ったことは残念です。医療安全・感染制御はゴールのないマラソンのようなものだと思います。全国共同行動のような取り組みは継続してこそ力が発揮できると信じています。

岩手県における医療安全共同行動の取り組み

岩手県医師会 会長　**石川　育成**

医療安全全国共同行動が開始されてから、間もなく２年が経過します。岩手県医師会では日本医師会の奨めにより当初から本事業に賛同し、平成21年11月28日に「第１回医療安全いわて公開フォーラム～いのちをまもるパートナーズ～」を開催いたしました。このフォーラムは岩手県医師会、岩手県歯科医師会、岩手県薬剤師会、岩手県看護協会、岩手県病院薬剤師会、岩手県臨床工学技士会が費用を負担し合い、岩手方式として開催いたしました。その模様は昨年５月１５日に開催された「医療安全全国共同行動 ２周年記念フォーラム」で報告いたしました。

平成22年11月27日には第２回のフォーラムを開催し、参加各団体からの代表がそれぞれの取り組みについて発表いたしました。第２回も多くの医療機関から医師、看護師、臨床工学士などが参加し、また一般の方々も数多く参加し、「医療安全は医療側だけではなく、患者側も共に医療に対する理解を深めていくこと」との共通認識を持つことが出来ました。

平成23年３月５日には自治医科大学の河野龍太郎先生をお迎えして「ヒューマンエラーはなぜ起こる？」と題しての特別講演と、「みんなで守ろう地域医療」をテーマにシンポジウムを催し、多くの県民の参加をいただきました。

岩手県医師会では、今後も医療提供側と患者側がともに考える機会を作っていく予定です。

石川県医師会のこれまでの主な取り組み

石川県医師会長　**小森　貴**

安全・安心の医療は、全国民の望みであり、その実現はわれわれ医療者の責務です。石川県医師会のこれまでの主な取り組みの一部を紹介します。

・いのちのリボン

2004年、混合診療導入が国民的議論であった折、「いのちはみんなが授かったかけがえのないもの。みんなの大切ないのちだから、受ける医療に格差があってはなりません。いのちのリボンをつけて私たちは約束します。みんなのいのちを生涯かけて守ることを」との趣旨のもと、その証として「いのちのリボン」を制作し、石川県医師会役員・会員を中心に、県内医療関係団体、日本医師会、全国都道府県医師会のご理解を得て、診察時や種々の行動の際に胸に付けています。

・死因究明システム

2006年、医療に関連した死亡例の原因を究明し、患者さんと医療機関との信頼関係を築くことを目的に、県内の医療機関で亡くなった患者さんのご遺族から希望があった場合、365日、24時間体制でご遺体を解剖し、その原因を究明するシステムを構築しました。また、2008年からは、よりご遺族に配慮することとし、剖検に加えＡｉも導入しました。

・医療安全全国共同行動石川フォーラム

2010年、安全な医療の実現のため、医療に携わる全ての職種、患者、県民が立場を超えて医療安全に取り組んでいる実際を共有、学習するために医療安全全国共同石川フォーラムを開催しました。

開催にあたっては、県内の医療、介護等に従事する各種団体、患者団体、婦人団体、住民団体等で構成している「石川県医

療推進協議会」を母体とし、多くの参加者を得ました。

・「いのちをまもるパートナーズ」全国フォーラム

2010 年 11 月 27 日、パネル討論「共同行動の新たな展開への提案」にパネラーとして講演。地域推進拠点としての石川県医師会の取り組みを紹介するとともに、新しい展開のポイントとして「点から面へ」「病院・診療所から地域へ」「超急性期から慢性期、終末期まで」「全ての医療関係職種が」「患者・地域住民・国民とともに」を指摘しました。

共同行動への参加の意義
勢いで参加したが、それほど大変ではない

琉球大学医学部附属病院 安全管理対策室・手術部　**久田　友治**

はじめは、共同行動に参加することが億劫であった。私は外科医であるが、この 10 年は手術部の管理と教育に携わってきた。6 年前から医療安全を横断的に行う仕事が加わり、「大切な仕事だけど、大変だね」と理解と同情の言葉をかけられるが、より忙しくなったことに変わりはない。

共同行動に参加することになったきっかけは、一緒に仕事をしている看護師長と、ふと気が合ったことである。忙しさがさらに増すとは思われたが、“ 勢い ” で参加することになった。ところが、それほど大変ではない。毎月の入力作業は私自身がやっているが、時間はたいしてかからない。それどころか、参加することにより、他施設が作った役に立つ動画等の資料が手に入る。それによって当院における医療安全の推進が加速できたかもしれない。

滋賀県病院協会における医療安全対策の取り組みについて

社団法人 滋賀県病院協会 会長　**冨永　芳徳**

平成 11 年 1 月 11 日大学病院における患者取り違え手術事例を機に、日本においても医療安全に対する対策の必要性が強調されるようになり、当時の厚生省において検討会が設置され、医療安全のガイドライン、マニュアル作成指針や医療安全ガイドブックが作成されました。医療関係団体や各病院もそれに従って医療安全マニュアルを作成して医療安全に取り組んできました。

平成 12 年からは毎年、各医療団体の参加を得て厚生労働省で医療安全対策連絡会議が開催されてきました。医療の高度化と国民の権利意識の高揚により、医療の質と安全の確保が必須の今日、滋賀県病院協会では平成 12 年から県の協力を得、毎年医療安全対策研修会を開催しています。さらに平成 17 年からは、各病院の医療安全対策担当者研修会も併せ年 2 回の研修会を行い、県内病院の医療安全文化を高めています。平成 20 年 5 月に発足されました医療安全全国共同行動 “ いのちを守るパートナーズ ” に共感し、滋賀県病院協会が地域推進拠点に認定され、県内の 19 病院が参加登録して活動しています。今後も、キャンペーン活動目標の 8 項目について県内病院で推進してまいる所存でありますので宜しくお願い致します。

共同行動の意義と今後への期待

前日本看護協会常任理事・医療安全共同行動推進会議委員
永池　京子（社会医療法人愛仁会本部 理事）

概ね 2 年の間、47 都道府県看護協会と共に、「医療安全全国共同行動」に関わりました。参加登録病院や本キャンペーンの活動を支えて下さいました関係者の自発的な活動に感謝致します。

医療事故が社会問題化して以来、私たちは誠実に医療安全対策に取り組んできました。今回は、共同行動という形式により、引き続き活動を展開することに本キャンペーンの意義がありました。つまり、これまでの取り組み成果を 1 つでも多くの組織と共有し、効果・効率的に医療安全対策を加速させることにあります。これにより有害事象を可能な限り低減させ、加えて、国民に私たちの活動と成果を視える形に示す必要がありました。

もはや医療安全は他者から与えられるものではなく、利用者とも共同した私たちの活動に委ねられているのです。共同行動には一つの組織努力では得られない利用者や医療者への利益があるはずです。次期キャンペーンにおいても経験知の共有と協働で、

安全な医療を確保致しましょう。

第一期医療安全全国共同行動を振り返って

日本病院団体協議会 医療安全全国共同行動検討委員会 初代世話役
大井　利夫（上都賀総合病院 名誉院長）

平成１９年９月に医療の質・安全学会から、米国で成功した「１０万人の命を救えキャンペーン（１００K Lives Campaign）の日本版を行いたいので病院団体に協力してほしいとの依頼があった。取り組みの成果を可視化するというアイデアに賛同し、参加病院数の増大を願い関係者の協力を得て、日本病院会だけではなく１１の病院団体で構成する日本病院団体協議会として参加することになった。キャンペーン開始当初より、病院の組織参加と成果の可視化が重要と訴え続けてきたが参加病院数が伸び悩み、最も可視化したかったキャンペーン達成目標「有害事象件数の低減３０万件以上」についても具体的な数値を示すことができず、病院が取り組んだ成果が見えないまま第一期が終わってしまった。１１病院団体で検討の結果、日本病院団体協議会としては第一期で医療安全全国共同行動から撤退することなったが、優れた構想の下に発足したキャンペーンがこのような展開となってしまったことは非常に残念であり、真摯な反省と検討に基づく再出発を期待している。

組織的な取り組みで肺塞栓症死亡ゼロを目指す

浜松医療センター 院長　**小林　隆夫**

肺塞栓症は予防が極めて重要である。私は平成 20 年 4 月に院長に赴任したが、それ以前は毎年数例の周術期肺塞栓症が発症し、死亡率は 40％と高かった。すぐに各診療科の医師や看護師ら多くの医療スタッフでプロジェクトチームを作り、啓発に努めるとともに院内で統一した対応マニュアルの策定に取り組んだ。その結果、現在までの約３年間に周術期発症の肺塞栓症事例は１例もなく、非周術期肺塞栓症事例を含めても死亡例はない。患者のもつ肺塞栓症リスクを把握し、医療従事者と患者 / 家族がそのリスクを共有することで、予防のみならず、早期発見・早期治療につながる。組織的な取り組みがあるかないかで、安全性に大きな差が出ることを実証できた。病院全体における肺塞栓症の取り組みは、各診療科任せにするのではなく、ある意味トップダウンで行うべきであり、病院全体のリスクマネジメントおよび patient safety として極めて有用かつ必須なものと確信する。こうした取り組みをぜひ共同行動に参加する施設と共有していきたい。

医療安全全国共同行動に参加して

長野県・組合立諏訪中央病院 院長　**濵口　實**

当院が共同行動に参加したきっかけは、院内での医療安全文化の醸成が十分でないと感じていたからです。医療安全に病院全体として全国の病院と情報交換しながら取り組んでいきたいと思っていました。行動目標の中で、とにかくひとつでも取り組むことで患者さんを守りたい、さらに職員も守りたい気持ちがありました。

今回は危険手技の安全な実施から、①経鼻胃管栄養チューブ、②中心静脈カテーテルの挿入手技について取り組みました。これらの内容はすでに全国フォーラム等で発表しております。他にも登録はしていませんが、名前を名乗っていただくポスターは院内で活用し、ハイリスク薬や持参薬は薬剤部を中心に取り組みが行われています。来年度は周術期肺塞栓症の予防にも参加登録するように準備しているところです。

また共同行動の応援コンサートで、病院祭では川江美奈子さんとジュスカ・グランペールさんに出演していただき、患者さんはもちろん、地域の方々、それから病院職員も音楽を通じてたいへん癒されました。

このように多岐にわたる共同行動に、全国の多くの病院が取り組まれることで、安全な医療を提供する体制ができると確信しています。

共同行動に参加して

社会保険滋賀病院 院長　**長尾　昌壽**

私は医療に従事して40年近くになりますが、この間医療事故・医療有害事象を直接的あるいは間接的に経験することを通して、被害を受けられた患者さんやご家族はもとより、医療提供当事者も共に、計り知れない悲嘆・苦痛に苛まれる傷ましい状況に陥ることは承知していました。このような事態を何とか減らしていくことができないかと思いながら現実には個人的な取り組みでしかありませんでしたが、医療安全全国共同行動のキャンペーンを知り、そのキックオフフォーラムにも参加することを契機として、当院でも病院全体で６つの行動目標に取り組むことを提案致しました。幸いにもコアメンバーがしっかりとその趣旨を理解して院内にその輪を拡げるよう尽力していますが、その効用としては行動目標のみに限らずさまざまなマニュアルやガイドラインを定めていく際に医療安全・患者安全の視点が取り入れられてきたことが挙げられます。また、行動目標ごとの中間報告会を院内で催しましたが、このことで取り組みをしていることの周知が拡がったとのアンケート調査結果が得られ、今後さらに医療安全・患者安全の文化が根付いていくことを大いに期待しています。

共同地域推進拠点を中心に各地で開かれている地域フォーラムより

2009 年 7 月 12 日、医療安全全国共同行動静岡フォーラム（静岡県コンベンションアーツセンター）

2009 年 11 月 28 日、医療安全いわて公開フォーラム（岩手教育会館）

2010 年 2 月 20 日、医療安全全国共同行動支援セミナー in 沖縄（沖縄県医師会館）

2010年4月24日、医療安全全国共同行動鹿児島フォーラム（鹿児島大学鶴陵会館）

2010 年 10 月 3 日、医療安全全国共同行動石川フォーラム（石川県医師会館）

共同行動ホームページとウェブマガジン

［ホームページ内容一覧］

ホームページアドレス〈http://kyodokodo.jp/〉

（2010 年 12 月 31 日時点）

HOME　http://kyodokodo.jp/index.html

◇トピックス　◇新着情報　◇ウェブマガジン「What's on, Kyodokodo」

◇応援メッセージ　＊本誌 8 ～ 10 ページをご参照ください

◇私たちがんばっています－患者／市民の皆様へ　→　安全確保のためにがんばっている医療現場の様子伝えるビデオ教材

ご挨拶　http://kyodokodo.jp/aisatsu.html

◇医療の質・安全学会理事長　高久史麿

◇日本病院団体協議会議長（2008 年度）　山本修三

◇日本医師会会長（2008・2009 年度）　唐澤祥人

◇日本看護協会会長　久常節子

◇日本病院団体協議会議長（2009 年度）　小山信彌

◇日本医師会会長（2010・2011 年度）　原中勝征

◇日本歯科医師会会長　大久保満男

◇日本臨床工学技士会会長　川崎忠行

◇ "10 万人の命を救え " キャンペーンからのビデオメッセージ　D. バーウイック（米国医療の質改善研究所ＣＥＯ）

共同行動の概要　http://kyodokodo.jp/teinan.html

［共同行動の提案］

［共同行動への参加を呼びかけます］

PDF　病院の方へ／ PDF　共同行動の事業の概要説明／ PDF・PPT　共同行動の概要を説明するパワーポイントスライド

［参加登録病院の登録方法と報告事項］

［共同行動の推進体制］

［HSMR 登録病院・HSMR モニター病院募集のご案内］

広報資料・参考資料　http://kyodokodo.jp/shiryou.html

［広報用資料］　→共同行動の紹介やキャンペーン用にダウロードしてご利用ください

PDF　キャンペーンポスター／ PDF　チラシ／ PDF　リーフレット

［キャンペーンビデオ］

［海外からの応援メッセージ（ビデオ）］

（ホームページの画像は 2011 年 5 月 31 日時点のものです）

［キャンペーングッズ］

［応援コンサート］　◇応援コンサート報告（京都民医連中央病院、諏訪中央病院）

［参考資料］　→医療安全活動実践の際の参考に、ダウンロードしてご利用ください

◇医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”とは？

PDF　医療安全全国共同行動の提案／ PDF・PPT　共同行動の概要を説明するパワーポイントスライド

PDF　共同行動の事業の概要説明

◇共同行動にご参加下さい

PDF　実行可能なエラー対策～有害事象から患者さんを守ろう～ ／ PDF　病院の方へ

PDF　８つの行動目標と推奨する対策

PDF　成果を上げていこう！　そして成果を示していこう！（医療の質・安全学会誌　Vol.3 no.1 より）

◇その他の資料

PDF　医療安全対策の基本的な考え方

PDF　米国 100K/5M キャンペーンの Node と Mentor 病院の役割（医療の質・安全学会誌　Vol.3　No.1 2008)

PDF　巡回キャンペーンから学んだ教訓－米国「医療の質改善研究所」患者安全キャンペーンの概要－ (医療の質・安全学会誌　Vol.2　No.3 2007)

PDF 全米患者安全推進運動が看護領域にもたらした利点 (EB NURSING Vol.8 No.3 2008）

◇共同行動が紹介された新聞・マガジン

Japan Medicine (株式会社じほう）／共同行動フォーラム・セミナーの紹介記事／連載企画・減らそう！有害事象　多様な主体の参画で／日本シャーウッド CATCH「医療安全全国共同行動」応援マガジン／京都新聞 2009 年 5 月 15 日朝刊（滋賀医科大学医学部附属病院　坂口美佐）

◇関連リンク

今後の医療安全対策について－医療安全対策検討会議（平成１７年６月８日）

８つの行動目標と推奨対策　http://kyodokodo.jp/index_b.html

→行動目標ごとに活動に役立つツールを提供しています。ぜひダウンロードしてご活用ください

◇各目標の支援ツール内容一覧　＊本誌 58 ～ 59 ページをご参照ください

◇８目標共通の支援ツール　TOOL BOX

◇目標別の推奨する対策とダウンロード用支援ツール

PDF・PPT　スライド資料／ PDF ハウツーガイド／ TOOL BOX

フォーラム / セミナーの報告　http://partners.kyodokodo.jp/info/report/

◇全国フォーラム／キックオフフォーラム、地域フォーラム／地域セミナー／地域シンポジウム、共同行動支援セミナー、共同行動応援イベント、共同行動応援コンサート

フォーラム / セミナーの案内　http://kyodokodo.jp/event_list.html

◇全国フォーラム、地域フォーラム、８目標に関連するセミナー、シンポジウム、講習会

◇終了したフォーラム／セミナーの情報

「広報用資料・参考資料」内、「広報資料」のページ

「広報用資料・参考資料」内、「参考資料」のページ

「９つの行動目標と推奨する対策」のページ

世界は今　http://kyodokodo.jp/100618_info.html

→医療の質と安全に関わる海外の最新情報をお知らせします

［海外からのお知らせ］

［患者安全世界共同行動］

・ＷＨＯ「安全な手術のためのガイドライン」について

［海外からの応援メッセージビデオ］

［コラム～海外からのたより］

・第１回　世界は今　・第２回　第 20 回医療の質改善全国フォーラムの報告（2009.3.9）

共同行動へのご支援のお願い　http://kyodokodo.jp/shien.html

PDF 募金趣意書　　Word 寄付申込書

◇個人応援募金について

◇協賛団体の登録のお願い（協賛団体登録依頼と登録申請書）

PDF 協賛団体登録依頼と登録申請書

参加登録　http://kyodokodo.jp/signup.html

◇病院の参加登録の手順

◇病院の参加登録フォーム

［参加登録に関するＱ＆Ａ］

相談室　http://partners.kyodokodo.jp/info/guidance/

［目標別Ｑ＆Ａ］

→行動目標に関して医療現場スタッフの方々から寄せられた質問に支援チームが回答します

［ＨＳＭＲに関するＱ＆Ａ］　→ＨＳＭＲ（標準化病院死亡比）に関する質問に回答します

［ひとことアドバイス］　→行動目標達成や医療安全への取り組みに向けて支援チームの先生方がアドバイスします

・目標８の取り組みをさらに進めるために

・人工呼吸器回路の各接続部の確認には両手を添えて（目標５ｂ）

・ＶＡＰは減らすことができます（目標４）

・行動目標１に取り組むにあたって

・高カリウム塩注射剤について（目標１）

・どう考えても一番安全なＣＶＣ挿入方法はＰＩＣＣです（目標３ｂ）

・周術期肺塞栓症の予防～ガイドラインの改訂へ～（目標２）

・経験知をシェアし、知恵を出し合おう（ＥＢＭ）

・救急カートの施錠は必要か？（目標１）

・からだと病気を知るために　－患者図書館のすすめ－（目標８）

・経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認のポイント（目標３ａ）

・プロジェクトＸ―安全な医療の第一歩への挑戦　CV ラインセンター事始物語（目標３ｂ）

・感染予防策はエビデンス論議偏重から実践（遵守）率向上の時代へ（目標４）

・患者さんを意識し、取り組みをもっと積極的に PR しよう（目標８）

・安全な医療機器を提供するために確実な日常点検の実施（目標５）

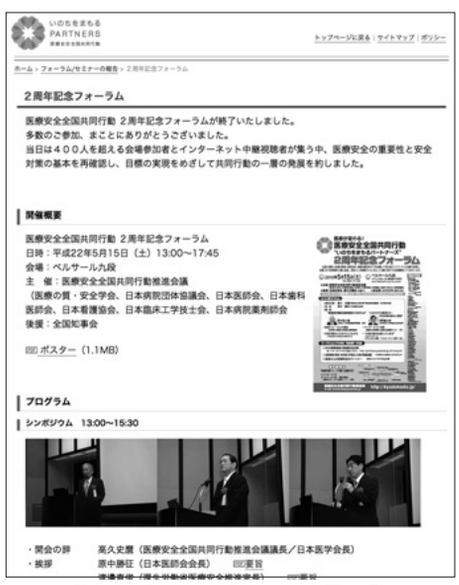
・簡単そうで実は危険な手技―経鼻栄養チューブ挿入（目標３ａ）

・医療安全はビジネスである（目標３ｂ）

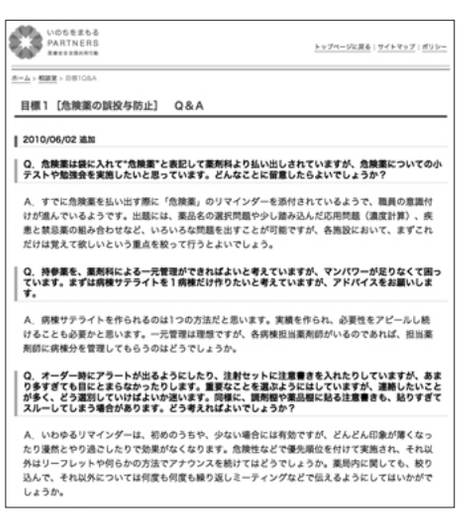
・共同行動による「合理的手抜き」のすすめ

・医療関連感染の 35％以上は感染予防策の徹底により軽減できる（目標４）

「フォーラム / セミナーの案内」のページ



「フォーラム / セミナーの報告」内、「２周年記念フォーラム」のページ



・CVC（中心静脈穿刺）合併症はもっと減らせます（目標３ｂ）

医療安全のための提案／寄稿　http://kyodokodo.jp/teian_kikou.html

PDF 血液培養検査に関する保険点数措置の改善を提案

パートナーズ　http://kyodokodo.jp/partners.html

［参加登録病院マップ］ ＊本誌 16 ～ 21 ページをご参照ください

［参加団体・協力団体］

［東北地域推進拠点］

［後援団体］

［共同行動の講演・共催名義の使用について］

パートナーズの活動紹介　http://partners.kyodokodo.jp/info/action/

［参加・協力団体の活動紹介］　→参加・協力団体の医療安全への取り組みのご紹介を掲載します

［2010 年］

・石川県医師会の活動
・日本医師会の活動
・日本麻酔科学会の活動
・日本脳神経血管内治療学会の活動
・医療の質・安全学会の活動
・日本臨床工学技士会の活動
・日本小児科学会の活動
・日本周産期・新生児学会の活動
・宮城県歯科医師会の活動
・日本臨床衛生検査技師会

［2009 年］

・日本看護協会の活動
・日本慢性期医療協会の活動

［参加登録病院の取り組みとこれまでの成果］

＊本誌 31 ページをご参照ください

→参加登録病院から寄せられた、登録した行動目標に関する取り組み内容とこれまでの成果を順次掲載していきます

［病院の活動紹介］ ＊本誌 27 ～ 34 ページをご参照ください

→全国の病院の医療安全への取り組みのご紹介や、フォーラムでの事例発表資料を掲載します

［アンケート調査］

［2010 年］

・経鼻栄養チューブに関する全国調査

［2009 年］

・中心静脈穿刺（目標 3b）に関するアンケート調査報告

医療安全関連情報へのリンク　http://kyodokodo.jp/link.html

→医療の質と安全に関する情報を公開・提供している機関のページへアクセスできます

・医療情報サービス Minds(マインズ)
・財団法人日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
・独立行政法人医療品医療機器総合機構
・厚生労働省医政局総務課医療安全推進室

いのちをまもる PARTNERS

トップページに戻る | サイトマップ | ポリシー

ホーム > 相談室 > ひとことアドバイス

高濃度カリウム塩注射剤について（目標１）

武蔵野赤十字病院　矢野　真

高濃度カリウム塩注射剤の取り扱いは、病院としての医療安全の取り組みの試金石になると考えています。すでに多くの団体から提言や具体的な対策が提案されており、自院で深刻な事例が発生していないからといって、何の取り組みもされていないといったことは、少なくとも医療安全全国共同行動に参加している病院ではないと思います。しかし、すでに対策済みということで、PDCAサイクルを回していないこともあるかもしれませんので、見直しをお願いいたします。現状維持は後退であるという見方もあるそうです。

いくつかの点検ポイントを列挙します。

■塩化カリウムだけでなく、アスパラギン酸カリウムやリン酸２カリウムなども対象にしていますか。すべて高濃度カリウム塩注射剤です。

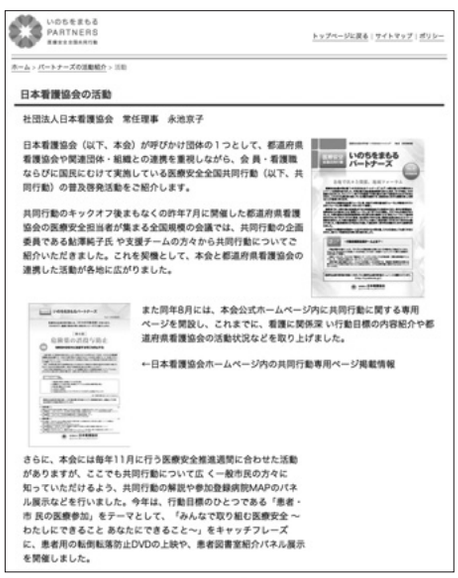
■病棟配置はしていなくとも、アンプル型の高濃度カリウム塩注射剤をそのまま病棟に上げていませんか。急速静注事故が起きる可能性があります。その場合、注意喚起をするリマインダーを付けていますか。ただし、注意喚起にも限界があります。ナースステーションでシリンジに吸う時には理解していてもベッドサイドで忘れてしまうこともあります。エラープルーフが考慮されたプレフィルド型シリンジ製剤の採用も有用です。

■職員教育は新人ナースだけということはありませんか。ベテランナースや研修医は対象にしていますか。残量の少ない点滴ボトルにＫＣＬを混注することは危険だと誰もが認識していますか。結果的に急速静注と同じようなことになります。

■特定の診療科や部署に特例を設けていませんか。その場合、特別の安全対策を講じていますか。また、特例の見直しは行っていますか。

医療安全管理者の常識は、まだ、医療者全体の常識とはなっていません。思わぬ落とし穴がないかどうか、もう一度点検をしてください。

「相談室」内、「ひとことアドバイス」のページ


いのちをまもる PARTNERS

トップページに戻る | サイトマップ | ポリシー

ホーム > パートナーズの活動紹介 > 活動

日本看護協会の活動

社団法人日本看護協会　常任理事　永池京子

日本看護協会（以下、本会）が呼びかけ団体の１つとして、都道府県看護協会や関連団体・組織との連携を重視しながら、会員・看護職ならびに国民にむけて実施している医療安全全国共同行動（以下、共同行動）の普及啓発活動をご紹介します。

共同行動のキックオフ後まもなくの昨年7月に開催した都道府県看護協会の医療安全担当者が集まる全国規模の会議では、共同行動の企画委員である鮎澤純子氏 や支援チームの方々から共同行動についてご紹介いただきました。これを契機として、本会と都道府県看護協会の連携した活動が各地に広がりました。

また同年8月には、本会公式ホームページ内に共同行動に関する専用ページを開設し、これまでに、看護に関係深 い行動目標の内容紹介や都道府県看護協会の活動状況などを取り上げました。

←日本看護協会ホームページ内の共同行動専用ページ掲載情報

さらに、本会には毎年11月に行う医療安全推進週間に合わせた活動がありますが、ここでも共同行動について広 く一般市民の方々に知っていただけるよう、共同行動の解説や参加登録病院MAPのパネル展示などを行いました。今年は、行動目標のひとつである「患者・市 民の医療参加」をテーマとして、『みんなで取り組む医療安全 ～わたしにできること あなたにできること～』をキャッチフレーズに、患者用の転倒転落防止DVDの上映や、患者図書室紹介パネル展示を開催しました。

「パートナーズの活動」内、「参加・協力団体の活動」のページ

いのちをまもる PARTNERS

トップページに戻る | サイトマップ | ポリシー

ホーム > パートナーズの活動紹介 > 活動

M&Mカンファレンスについて

沖縄県立中部病院　院長　平安山英盛

1967年、当時の琉球政府立中部病院にハワイ大学と提携した医師の臨床研修制度が開始された。当時沖縄のどの大学にも医学部はなく、ましてや研修制度たるものの経験はまったくなかった。当初はハワイ大学から派遣された顧問団の指導のもと研修制度が進められた。1965年から1971年までに総勢33名が派遣されている。医師の他事務官、看護顧問、検査技師、病院管理、病歴係、物療科、理学療法士、秘書が含まれている。医師では外科、産婦人科、病理、小児科、麻酔、内科、放射線科、整形外科が含まれている。

その中で、外科ではM＆Mカンファレンスは当然のごとく行われており、沖縄県立中部病院のM＆Mカンファレンスは研修開始時代にさかのぼることになる。M＆Mカンファレンスとは、mortality and morbidity についてのカンファレンスということで、死亡した症例や術後に合併症が発生した症例について、詳細に検討し、次の症例にその経験を生かしていこうというものである。決して症例担当医個人の責任を追及するものではない。

（グラム陰性桿菌による下肢の壊死性筋膜炎で死亡した症例の、M＆Mカンファレンスを内科、外科、麻酔科、手術場ナースの合同で行っているところ）

死亡例では、症例を初診時から詳しく検討し、手術の適応そのものがあったのかどうか、診断や治療の遅れはなかったのか、施行された治療法は正しかったのか、他に治療法はなかったのかなどを検討し、診断と治療によっては避けられる死亡だったのかについてまで話を進めていく。そこから次回への改善点を見つけ出していく。

術後合併症は、創感染症、尿路感染症、無気肺、肺炎、静脈血栓症、肺塞栓症、腹腔内膿瘍、縫合不全等、手術が原因・誘因になって発生し、死亡には至らないまでも症例の回復に影響を与える病態である。当院では、ささいなものまで含めて検討している。これも、症例ごと詳細に分析し、原因を明らかにして、次回からの改善点につなげていく。

当院外科では月最低2回のM＆Mカンファレンスを施行している。何かの都合でできない場合は、

「パートナーズの活動」内、「病院の活動」のページ

［ウェブマガジン“What's on, Kyodokodo”］

（2010.12.31 時点）

仕　　様：A4 判 5~8 ページ

発行方法：共同行動ホームページ　http://kyodokodo.jp/whats_on.html　に掲載

発行実績：第 1 ～ 13 号　2009 年 9 月 16 日～ 12 月 25 日　毎週金曜日発行

第 14 ～ 38 号　2010 年 1 月 8 日～ 12 月 24 日　毎月第 1・3 金曜日発行

内容（コンテンツ）：共同行動からのお知らせ／支援ツールのお知らせ／Q＆Aアップのお知らせ／参加・協力団体の活動紹介／病院の活動紹介／ひとことアドバイス／フォーラム・セミナー等のご案内、ご報告

ウェブマガジン第 37 号（見本）

What's on, Kyodokodo 2010.12.10 No.37

CONTENTS

共同行動からのお知らせ
共同行動参加登録病院で、改善の効果が見えてきました

共同行動2011で、未達成の目標、新しい目標にチャレンジしよう！

議長報告のスライドをご活用ください

参加登録病院へ～基礎データの現状評価と成果報告の入力をお願いいたします

参加・協力団体の活動紹介
第４回「新しい医療のかたち」賞が決まりました

病院の活動紹介
「確認方法9か条」のポスターを制作しました

確認方法9か条

フォーラム・セミナー等のご案内

医療安全全国フォーラムが開催されました

セミナーセッションA～Eのご報告

支援ツールほか

［ハウツーガイド・支援ツール一覧］

http://kyodokodo.jp/index_b.html

（2010 年 11 月時点）

目標	スライド資料	ハウツーガイド	ツール		
			内　容	ファイル形式	アップデート
８目標共通	—	—	「ＮＤＰ医療安全教材シリーズ“医療が安全であるために”」　一覧表	PDF（P １）	
行動目標１：危険薬の誤投与防止	PDF(P7)	PDF（P19)	危険薬の啓発と危険薬リストの作成・周知 ・危険薬の定義（NDP）	PDF（8）	2008/12/26
	PPT(P7)		高濃度カリウム塩注射剤、高張塩化ナトリウム注射剤の病棟保管の廃止 ・リマインダーの例（カリウム注用）１００K 版 ・リマインダーの例（高張 NaCl 注用）１００K 版	PDF（P7） PDF（P4）	2008/12/26 2008/12/26
			注射指示の標準化 ・DP 注射指示の記載に関する標準指針案	PDF（P13）	2008/12/26
			（チャレンジ）「危険薬の誤投与防止ベストプラクティス１６」の実施 ・危険薬の誤投与防止ベストプラクティスについて ・NDP 持込薬管理指針 ・NDP 入院時持込薬確認表	PDF(P15) PDF（P3） PDF（P1）	2008/12/26 2008/12/26 2008/12/26
行動目標２：周術期肺塞栓症の予防	PDF(P8)	PDF（P15)	資料１：日本版ガイドラインのリスク分類と推奨予防法)	PDF(P1)	2008/12/26
	PPT(P8)		資料２：ACCP ガイドライン 2004 年	PDF（P １）	2008/12/26
			資料３：ACCP ガイドライン 2008 年	PDF（P1）	2008/12/26
			資料４：日本版ガイドラインの付加的危険因子	PDF（P1）	2008/12/26
			資料５：日本版ガイドライン手術部位別標準分類化	PDF（P1）	2008/12/26
			資料６：評価表	PDF（P1）	2008/12/26
			資料７：実施表	PDF（P1）	2008/12/26
			資料８：ベッド上運動および歩行療法マニュアル	PDF（P21)	2008/12/26
			資料９：弾性ストッキング着用マニュアル ①マニュアル ②別表	PDF（P2） PDF（P1）	2008/12/26
			資料 10：間欠的空気圧迫法装着マニュアル	PDF（P2）	2008/12/26
			資料 11：薬物療法実施マニュアル ①マニュアル ②別表	PDF（P5） PDF(P4)	2008/12/26
			資料 12：ポスター	PDF（P1）	2008/12/26
			資料 13：患者説明用パンフレット	PDF（P16)	2008/12/26
			資料 14：肺塞栓症診断・治療アルゴリズム	PDF（P2）	2008/12/26
			資料 15:パンフレット「手術を受けられる患者さまへ:肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症を予防するために」		2010/2/26
			①【完成版】　肺塞栓パンフレット ①外側（PDF） 肺塞栓パンフレット ①内側（PDF）	PDF（P1） PDF（P1）	
			②【記入版】　肺塞栓パンフレット ②外側（PPT） 肺塞栓パンフレット ②内側（PDF）	PPT（P1） PDF（P1）	
行動目標３：危険手技の安全な実施					
(a) 経鼻栄養チューブ	PDF(P6)	PDF（P6)	諏訪中央病院のマニュアル ()	PDF(P6)	2009/12/4
	PPT(P6)		・経鼻胃管栄養チューブ調査票 (2009/12/4)	PDF（P1）	2009/12/4
			竹田綜合病院のマニュアル (2009/12/4)	PDF(P4)	2009/12/4
			・H21/5/30 フォーラム資料（2009/12/4)	PDF（P36)	2009/12/4
			胃内容液 pH 測定に使用できる試験紙について (2009/2/24)	PDF（P1）	2009/2/24
			経鼻栄養チューブ調査票 (2008/12/26)	PDF（P1）	2008/12/26
			pH チェッカー使用方法 (2008/12/26)	PDF（P1）	2008/12/26
			経鼻栄養チューブ調査票における Q&A 集 (2008/12/26)	PDF(P2)	2008/12/26
			ハイリスク患者の場合に推奨する経鼻栄養チューブ位置確認方法 (2008/12/26)	PDF（P1）	2008/12/26
			教材ＤＶＤ「経鼻栄養チューブの挿入と管理」	WMV 形式	

(b) 中心静脈カテーテル	PDF(P5)	PDF（P11）	文献要約 (2008/12/26)	PDF（P6）	2008/12/26
	PPT(P5)		１ＣＶＣ挿入につき１枚記入し、統計に用いる調査票（例）	Word（P1）	2010/2/26
行動目標４： 医療関連感染症の防止	PDF(P6)	PDF（P18）	人工呼吸器関連肺炎の予防策	PDF（P7）	2010/4/9
	PPT(P6)				
行動目標５： 医療機器の安全な操作と管理					
(a) 輸液ポンプ・シリンジポンプ	PDF(P7)	PDF（P10）	輸液ポンプの日常点検・定期点検実施マニュアル／シリンジポンプの日常点検・定期点検実施マニュアル	PDF（P12）	2008/08
	PPT(P7)		・「輸液ポンプの基礎知識テスト」　設問 解答	PDF（P2） PDF（P2）	2010/2/12
			・「輸液ポンプの応用力テスト」　設問 解答	PDF（P2） PDF（P2）	2010/2/12
			・「シリンジポンプの基礎知識テスト」設問 解答	PDF（P2） PDF（P2）	2010/2/12
			・「シリンジポンプの応用力テスト」　設問 解答	PDF（P2） PDF（P2）	2010/2/12
(b) 人工呼吸器	PDF(P7)	PDF（P6）	輸液ポンプ・人口呼吸器の日常点検・定期点検実施マニュアル	PDF（P14）	2008/08
	PPT(P7)				
行動目標６： 急変時の迅速対応	PDF(P7)	PDF（P17）	[推奨対策１] 緊急処置マニュアル		
	PPT(P7)		・アナフィラキシーショック	PDF（P7）	2010/5/25
			・術後肺塞栓症	PDF（P8）	2010/5/25
			・空気塞栓	PDF（P6）	2010/5/25
			・採血時の神経損傷	PDF（P7）	2010/5/25
			・採血時の失神	PDF（P5）	2010/5/25
			・低血糖性昏睡	PDF（P3）	2010/9/17
			・尿閉	PDF（P6）	2010/9/17
			・急性上気道閉塞	PDF（P7）	2010/9/17
			・空気塞栓の事例	PDF（P2）	2010/9/17
			[推奨対策４]		
			早期発見・早期対応を可能にする RRS の態勢作りのガイド （米国１００Ｋ　のＲＲＳスターターキット）	PDF（P36）	2010/5/25
			「ＮＤＰリスク因子予知分析（ＰＲＡ）の参考例」		
			鎖骨下静脈穿刺 動脈穿刺 静脈穿刺 持続点滴 骨髄穿刺 胸腔穿刺	PDF（P2） PDF（P3） PDF（P2） PDF（P2） PDF（P2） PDF（P2）	2010/4/9
行動目標７： 事例要因分析から改善へ	PDF(P7)	PDF（P16）	・ヒューマンファクター工学に基づくエラー分析手法 （医療のリスクマネジメント 2008 年度）	PDF （P227）	2010/2/26
	PPT(P7)		・RCA (Root Cause Analysis) Tools　Medical SAFER	Word （P15）	2010/2/26
行動目標８： 患者・市民の医療参加	PPT(P8)	PDF（P15）	(a)　「安全は名まえから」 （患者と医療者の協同によるフルネーム確認）		2010/4/9
	PPT(P8)		［キャンペーンキャラクター、キッコとユウゾウ］		
			１．キッコ　※ JPG 資料 (1)	JPG(1)	
			２．ユウゾウ　※ JPG 資料 (1)	JPG(1)	
			３．キッコとユウゾウ　※ JPG 資料 (1)	JPG(1)	
			[ポスター]		
			患者向け パターン１、パターン２ Ｗｏｒｄファイル	JPG Word	
			医療者向け パターン１、パターン２ Ｗｏｒｄファイル	JPG Word	
			◇プロモーション用パワーポイント	PPT(P13)	
			(b)　「からだと病気を知るために」 （院内患者図書室の設立）		2010.4.9
			患者図書室の設立と運営指針	PDF（P9）	
			(c)「転ばぬ先に － 転倒転落の防止」		2010.4.9
			ビデオの視聴		
			転倒転落防止患者説明用ビデオの入手方法について	PDF（P1）	
			パートナーシッププログラム（提供：医療の質・安全学会）をご紹介します		
			パンフレット「手術を受けられる患者さまへ：肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症を予防するために」		
			①【完成版】　肺塞栓パンフレット 外側　　内側	PDF （各 P1）	
			②【記入版】　肺塞栓パンフレット 外側　　内側	PDF （各 P1）	

［キャンペーンポスター］

■目標別ポスター　http://kyodokodo.jp/shiryou_koho.html

■「安全は名まえから」（患者と医療者の協同によるフルネーム確認）ポスター

・キャンペーンキャラクター、キッコとユウゾウ

・ポスター（患者向け、医療者向け）

http://kyodokodo.jp/index_b.html　目標８／ TOOL BOX

■「一冊にまとめて安心お薬手帳！」　ポスター

http://kyodokodo.jp/index_b.html　目標８／ TOOL BOX

［映像資料（教材ビデオ、キャンペーンビデオ、ビデオメッセージ）］

■教材ビデオ

「経鼻栄養チューブの挿入と管理」http://kyodokodo.jp/index_b.html　目標３／ TOOL BOX

「転ばぬ先に ー 転倒転落の防止」http://kyodokodo.jp/index_b.html　目標８／ TOOL BOX

「私たちがんばっています――患者・市民の皆様へ」http://kyodokodo.jp/watashitachi_v1.html

◇患者さんの薬を間違えないために・・・　◇危険を察知するためのトレーニング

◇患者さんへの薬の取り間違いを防ぐために・・・　◇患者さんを間違えないために・・・

■キャンペーンビデオ　http://kyodokodo.jp/

HP 掲載先　「広報資料・参考資料」内、「キャンペーンビデオ」

■ビデオ・メッセージ　http://kyodokodo.jp/080517forum_video.html

・Ｄ．バーウイック（米国医療の質改善研究所ＣＥＯ）

「“10 万人の命を救え ” キャンペーンからのビデオ・メッセージ」

＊メッセージ内容は本誌４ページをご参照ください

・海外からのメッセージ　http://kyodokodo.jp/shiryou_kaigai.htmll

イギリス（イングランド）／ドイツ／デンマーク／スウェーデン／イギリス（スコットランド）／アメリカ／イギリス（北アイルランド）／ブラジル

＊メッセージ内容は本誌 11 ～ 12 ページをご参照ください

［特別講演の記録］

■ウィリアム・コンウェイ（ヘンリーフォード・ヘルスシステム副総長・質管理最高責任者）「米国 “10 万人の命を救え ” キャンペーンが実現したこと」（2008.11.24 全国フォーラム）　**ビデオ**　http://kyodokodo.jp/081124forumvideo.html

■ブライアン・ジャーマン（ロンドン大学名誉教授・前英国医師会長）「英国における改善の指標－標準化病院死亡比の活用ほか」

スライド資料　http://partners.kyodokodo.jp/info/report/2009/z090530_Japan30May09FINAL.pdf

■ギュンター・ヨーニッツ（ベルリン医師自治機構会長／ドイツ連邦医師会質保証委員長）「欧州における Paitent Safety(患者安全）の取組み」　**講演資料**　http://kyodokodo.jp/doc/JAP_PatS-2009-final-1.pdf

■李啓充（コラムニスト・元ハーバード大学医学部助教授）「患者安全の昨日・今日・明日－非難から改善へ」

スライド資料　http://forum2010.ppsqsh.net/docs/kouen.pdf

［キャンペーングッズ］

http://kyodokodo.jp/doc/091224camp_goods.pdf

［参考文献］

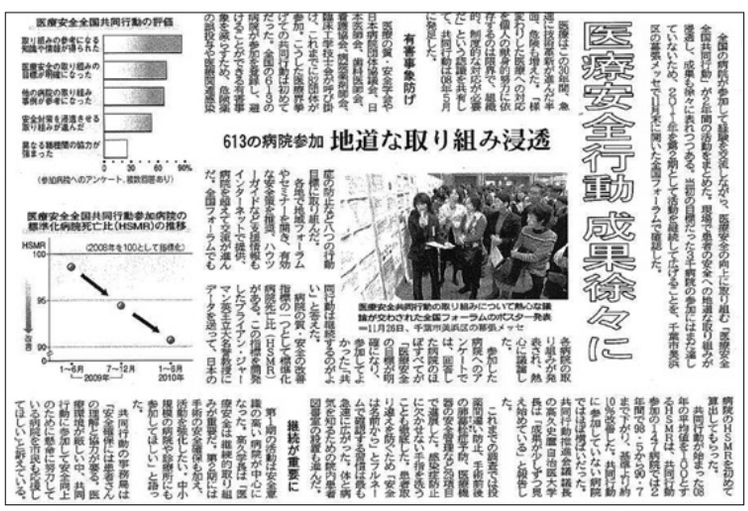
■共同行動８目標関連文献リスト（支援チーム）

No.	氏名	目標	テーマ	雑誌 or 書籍	文献	PDF	備考
1	宮田剛	3b	―	雑誌	宮田　剛 , 衣袋静子：”『危険手技の安全な実施』のための取り組みと期待（ｂ）中心静脈カテーテル穿刺挿入手技に関する安全指針の遵守 ”, EB Nursing 9(1) 中山書店　pp102-108, 2008		
2			―	雑誌	宮田　剛 , 佐藤　成 , 藤盛啓成、衣袋静子 , 梁川　功 , 里見　進 , ” 行動目標３ｂ：大学病院における穿刺合併症低減を目的とした中心静脈穿刺専用室設置 ”, 医療の質・安全学会誌 4(1) 128-134, 2009	○	共同行動 HP 内「病院の活動紹介」PDF にて閲覧可
3			―	雑誌	宮田　剛：” 安全に中心静脈カテーテルを挿入するための活動－医療安全全国共同行動の概要と中心静脈穿刺専用室の有用性－ ”, 栄養 ‐ 評価と治療 2(4) 1-4, 2009		
4			―	雑誌	宮田　剛:” 医療安全全国共同行動 “ いのちをまもるパートナーズ ” 医療安全全国フォーラムワークショップの報告　行動目標３ｂ：危険手技の安全な実施（中心静脈カテーテル）”, 医療の質・安全学会誌　4(3) 391-393, 2009		
5	寺見雅子	3a	―	雑誌	寺見雅子：” 経鼻栄養チューブ挿入時のケア ”, 月刊ナーシング 5 月号 第 30 巻 6 号 92-96, 2010		
6	徳嶺譲芳	3b	中心静脈穿刺における医療安全	雑誌	徳嶺譲芳：“ なぜ起こる , どう防ぐ中心静脈穿刺の医療事故 ”, 医療安全 No.19 108-113, 2009		日臨麻会誌は、日本臨床麻酔学会 HP にて PDF 閲覧可
7			教育方法と教育システム	雑誌	徳嶺譲芳：" 超音波ガイド下中心静脈穿刺 : 教育システムの構築 ", 日臨麻会誌 No.30 785-91, 2010	○	
8				雑誌	徳嶺譲芳：" 中心静脈穿刺の安全管理体制 ", 日集中医誌 No.17 476-478, 2010		
9				雑誌	徳嶺譲芳 , 宮田裕史 , 加藤 孝澄 , ほか：" 初期臨床研修医に対する超音波ガイド下中心静脈穿刺トレーニング ",　日臨麻会誌 No.28 956-960, 2008	○	

10				雑誌	徳嶺譲芳 , 武田吉正 , 河野安宣 , ほか：" 初期臨床研修医に対する超音波ガイド下中心静脈穿刺トレーニング：効果的な教育法への改良 ", 日臨麻会誌　No. 30 460-464, 2010	○	http://jsca.umin.jp/magazine/list.html　→　学会誌をクリック　→　J-STAGE をクリック　→　徳嶺譲芳 or 中心静脈穿刺で検索
11	徳嶺譲芳	3b	超音波ガイド下中心静脈穿刺の手技	雑誌	徳嶺譲芳：" 超音波ガイド下鎖骨下静脈穿刺の実践 ", 蘇生 No.28 19-25, 2009		
12				雑誌	徳嶺譲芳：" エコーガイド下穿刺法 ", Cardiac Practice No.20 234-240, 2009		
13				雑誌	徳嶺譲芳 , 依光たみ枝 , 安谷正：" 超音波ガイド下鎖骨下静脈穿刺 . 呼吸と循環 " No.58:199-204, 2010		
14				書籍	徳嶺譲芳 , 久田正昭 , 金城僚：" 中心静脈カテーテル挿入法 . 小児科診療ピクシス 26. プライマリケアに必要な外科的処置（里見 昭 編）", 中山書店 , 東京 , p122-125, 2010		
15			中心静脈穿刺の合併症とその対策	雑誌	徳嶺譲芳：" 大腿静脈穿刺での外陰部動脈誤穿刺の原因とその対策 ", 日集中医誌 No.16 317-319, 2009		
16				書籍	徳嶺譲芳 , 深田智子：" 内頚静脈穿刺が困難である . 麻酔科トラブルシューティング A to Z", 文光堂 , 東京 , p400-1, 2010		
17				書籍	徳嶺譲芳 , 頴原 徹：" 内頚静脈穿刺の際に動脈を誤穿刺した . 麻酔科トラブルシューティング A to Z", 文光堂 , 東京 , p404-405, 2010		
18	児玉貴光	6	－	雑誌	児玉貴光 , 藤谷茂樹：" コードブルーか？ RRS か？ 医療安全対策としての院内急変時対応システム　日本での取り組み事例～１～　聖マリアンナ医科大学医療事故対策としての RRT の有用性と導入に向けた取り組み ", 医療安全　No.19 20-23, 2009		
19			－	雑誌	児玉貴光 , 中川雅史 , 藤谷茂樹：" 第２章 救急医療全般　15. 院内急変 . ビジュアル救急必須手技ポケットマニュアル ", 箕輪良行 , 児玉貴光 編 , 羊土社 , 134-139, 2009		
20			－	雑誌	児玉貴光 , 藤谷茂樹 , 川本英嗣 , 中川雅史 , 讃井將満 , 安宅一晃：" 集中治療と MET (Medical Emergency Team) / RRT (Rapid Response Team)　MET / RRT のメンバー構成とトレーニングの実際 ", ICU と CCU. No.6 Vol.34 439-446, 2010		
21			－	雑誌	児玉貴光 , 藤谷茂樹：" 院内急変対応システム Rapid Response System（RRS）とは何か？　連載に向けての序:RRS とは何か？ ", LiSA No.10 Vol. 17 980-981, 2010		
22			－	雑誌	児玉貴光 , 川本英嗣 , 藤谷茂樹 , 中沢恒太：" 米国式院内急変対応 ～ Medical Emergency Team について～ その知識が命を救う 薬剤師のための救命救急時のスキル & 薬ハンドブック ", 佐藤博 編 , 医薬ジャーナル社 , 2010		
23			－	雑誌	田中拓 , 児玉貴光：" 救急医療と医療安全　救急部門が推進する医療安全教育 ", 救急医学 No.6 Vol.33 639-643, 2009		
24			－	雑誌	安宅一晃 , 児玉貴光 , 中川雅史 , 藤谷茂樹 訳：開始キット : Rapid response team How-to Guide.　http://www.jseptic.com/contents/pdf/RRS_20100824.pdf	○	
25			－	雑誌	入江仁 , 児玉貴光：“ エラーや有害事象が起きても必ず生還させよう ”「院内救急対応マニュアル - 有害事象発生時の緊急処置」 血管迷走神経反射性失神 ", 医療の質・安全学会誌 No.4 Vol.5, 344-346, 2010		
26			－	雑誌	清水操 , 児玉貴光："“ エラーや有害事象が起きても必ず生還させよう ”「院内救急対応マニュアル - 有害事象発生時の緊急処置」 採血時の末梢神経損傷 ", 医療の質・安全学会誌 No.4 Vol.5, 347-351, 2010		
27	山口直比古	8	－	雑誌	山口直比古：” 患者図書室における情報提供－医師患者間における情報の非対称性緩和のために ”, 医療安全　No.22 42-45, 2009		
28			－	雑誌	山口直比古:” 体と病気を知るために－患者図書室設置の勧め ”, 医療の質・安全学会誌　Vol.4 No.1176-1180, 2009		

29	野々木宏	6	－	雑誌	横山広行 , 髙田幸千子 , 野々木宏：“ 循環器診療におけるリスクマネージメントとしての院内心停止への対策 ” 循環器専門医 vol.17 No.2 290-294, 2009	○	
30			－	雑誌	髙田幸千子 , 内藤博昭 , 野々木宏：" 大腿動脈穿刺シミュレーションモデルの開発と試作人体ファントムの心臓カテーテル検査トレーニングへの応用 ", 医療の質・安全学会誌　第 4 巻 第 1 号 67-74, 2009	○	
31			－	雑誌	野々木宏：" 院内急変時対応システムの確立は必須の医療安全対策 ", 医療安全　vol.19 10-13, 2009	○	
32			－	雑誌	横山広行 , 野々木宏：" 院内心停止登録の意義 ", 医療安全 vol.19 26-28, 2009	○	
33			－	雑誌	横山広行："「院内心停止と病院内救急蘇生チーム」", CARDIAC PRACTICE No.21 279-284, 2010	○	
35	井上文江	8	－	雑誌	井上文江 , 黒木洋美 , 福村文雄：“ 行動目標８：患者・市民の医療参加「転ばぬ先に」” 医療の質・安全学会誌 Vol.4 No.1 181-188, 2009		
36	渡邊和子	8	－	雑誌	渡邊和子：" 特集：医療安全全国共同行動の参考になる取り組み事例の報告「行動目標８：患者・市民の医療参加」", 医療の質・安全学会誌　Vol.4 No.1, 168-175, 2009		
37			－	雑誌	渡邊和子：" 特集：患者参加の進め方「患者と医療者の共同によるフルネーム確認」", 医療安全　NO.22,　15-19,　2009		
38			－	雑誌	渡邊和子：" 医療安全全国共同行動から：2 周年フォーラム「中小規模病院の医療安全対策」", 医療の質・安全学会誌　Vol.5 No.3, 240-242,　2010		
39	渡部　修	3b	－	書籍	森脇龍太郎 , 中田一之編 渡部　修：" 必ず上手くなる！中心静脈穿刺 ", 羊土社 , 東京 , 17-21, 2007		
40			－	書籍	井上善文編 渡部　修：" エコーガイド下鎖骨下穿刺法 . 臨床栄養別冊 .　JCN セレクト 4　ワンステップアップ静脈栄養 ", 医歯薬出版株式会社 , 東京 , 154-159, 2010		
41			－	雑誌	渡部　修、木村哲郎、岡田邦彦他：" リアルタイム超音波と X 線透視を使用した腋窩静脈穿刺中心静脈カテーテル挿入法の安全性と確実性の検討 ", 日集中医誌 16 163-167, 2009		
42			－	雑誌	渡部　修、木村哲郎、岡田邦彦他：" リアルタイム超音波ガイド下中心静脈カテーテル挿入法の技術 ", ICU と CCU. 33 715-720, 2009		
43			－	雑誌	渡部　修：DOCTOR'S MAGASINE メディカル・プリンシプル社　No.122 January 18-21, 2010.		

■共同行動の紹介記事



医療安全行動 成果徐々に

613の病院参加 地道な取り組み浸透

全国の病院が参加して継続を今流となって、医療安全の向上に取り組む「医療安全全国共同行動」が2年間の活動をまとめた。現場で患者の安全への地道な取り組みが進展し、成果も徐々に表れつつある。当初の目標だった3年病院の参加には至っていないため、2011年以降も継続して活動を続けていくことを、千葉市美浜区の基幹メッセで11月26日に開いた全国フォーラムで確認した。

医療ほうの30年間、急速に技術革新が進んだが、一方で、危険も増えた。「様変わりした医療への対応を命令人の使身的な努力に依存するのは限界で、職員一人一人の意識改革が必要だ」という意識を共有して、共同行動は08年5月に発足した。

有害事象防げ

医療の質・安全学会、日本病院協会、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、看護協会、医師会、臨床工学技士会が呼びかけ、これまでに医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士ら約2万人が参加。こうした医療専門職による共同行動は初めてだった。全国の6～3の病院が参加を登録し、避けることができる有害事象を減らすため、危険薬の最適な使用法などを

[共同行動関連の紹介記事]

2008 年

6 月 25 日　日本医師会ニュース

12 月25 日　JAPAN MEDICAL SOCIETY Jan,2009　第 3 回医療の質・安全学会

10 月15 日　日本看護協会ニュース　共同行動紹介

EB NURSING Vol.8 No.2　Try & Challenge ①

EB NURSING Vol.8 No.3　Try & Challenge ② *

EB NURSING Vol.8 No.4　Try & Challenge ③

2009 年

EB NURSING Vol.9 No.1　Try & Challenge ④

EB NURSING Vol.9 No.2　Try & Challenge ⑤

EB NURSING Vol.9 No.3　Try & Challenge ⑥

1 月　26 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年①

1 月　27 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年②

1 月　28 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年③

1 月　29 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年④

1 月　30 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年⑤

1 月　31 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年⑥

2 月　3 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年⑦

2 月　4 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年⑧

2 月　5 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年⑨

2 月　6 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年⑩

2 月　7 日　朝日新聞　医療の安全の 10 年⑪

1 月　7 日　「じほう」 Japan Medicine　医療安全全国共同行動について

1 月　9 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 1

1 月　14 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 2

1 月　16 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 3a

1 月　19 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 3b

1 月　21 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 4

1 月　23 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 5a

1 月　26 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 5b

1 月　28 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 6

2 月　2 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 7

2 月　4 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 8

2 月　6 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 2　事例　仙台医療センター

2 月　9 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 2　事例　近畿大学病院①

2 月　13 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 4　岩手医科大学

2 月　18 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 5a　武蔵野赤十字病院

2 月 20 日「じほう」 Japan Medicine　行動目標 5b　新橋病院

2 月　23 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 3b　佐久総合病院

2 月　25 日　「じほう」 Japan Medicine　行動目標 3a　東京北社会保険病院（最終回）

2 月　「クレリィエール」3 月号　共同行動紹介

5 月　15 日　京都新聞　安全な医療へ患者と協働 *

6 月　3 日　「じほう」Japan Medicine　医療安全全国フォーラム（5/30）

6 月　4 日　読売新聞　採血前、患者の氏名確認

6 月　5 日　読売新聞　医師が出演　転倒予防 TV

6 月　8 日　読売新聞　「肺塞栓症」兆候見逃さず

6 月　9 日　読売新聞　院内感染区域分けで予防

6 月　10 日　読売新聞　キャンペーンで対策徹底

7 月　13 日　静岡新聞　静岡フォーラム案内

7 月　13 日　中日新聞　静岡フォーラム案内

7 月　14 日　毎日新聞　急変への備え

7 月　17 日　「じほう」Japan Medicine　医療安全全国共同行動静岡フォーラム（7/12）

7 月　29 日　「じほう」Japan Medicine　東北ブロック医療安全に関するワークショップ（7/25）

7 月　静岡病院協会会報　静岡フォーラム報告

8 月　3 日　「じほう」Japan Medicine　医療安全推進シンポジウム in 栃木（7/26）

9 月　17 日　京都新聞（web）医療事故防止への願い込め、中京でコンサート

9 月　18 日　京都新聞　医療事故防止への願い込め、中京でコンサート

2010 年

6 月　24 日　朝日新聞　朝刊　共同行動の参加 2 割止まり

7 月号　JMS(JAPAN MEDICAL SOCIETY) 草の根から医療安全を継続へ　5 月フォーラム

8 月　24 日　時事通信社　厚生福祉　医療安全の「困った」を解決

9 月　7 日　時事通信社　厚生福祉　中央管理機種統一、手順の標準化

9 月　14 日　時事通信社　厚生福祉　フルネーム確認継続すれば患者も理解

12 月21 日　京都新聞　医療安全行動　成果徐々に

12 月24 日　宮崎日日新聞　全国 613 病院が共同行動　医療安全向上に成果

12 月25 日　JMS　2011 年 1 月号　医療安全全国共同行動の総括を報告、継続へ

12 月30 日　福井新聞　「共同行動」に 613 病院参加　医療安全へ成果着々

（掲載通知をいただいたもののみご紹介しています）

* 印および「じほう」Japan Medicine の記事は共同行動 HP　http://kyodokodo.jp/shiryou.html　からご覧になれます

医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”に
ご支援を賜りありがとうございます

（2010年10月1日時点　敬称略）

後援団体

全国知事会

協賛団体

日本シャーウッド株式会社
株式会社メディコン
日本光電工業株式会社
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
エーザイ株式会社
テルモ株式会社

寄付

団体

日本製薬団体連合会
日本医師会
一般社団法人日本放射線腫瘍学会
社団法人日本整形外科学会
医療の質・安全学会
社団法人日本超音波医学会
特定非営利活動法人日本口腔科学会
一般社団法人日本臨床検査医学会
日本看護協会
肺塞栓症研究会
社団法人日本臨床工学技士会
社団法人秋田県臨床工学技士会会

企業

株式会社ホギメディカル
白十字株式会社
株式会社ソニスタ
グラクソ・スミスクライン株式会社
日本メディカルプロダクツ株式会社
味の素ファルマ株式会社
株式会社ムトウ

病院

医療法人整友会弘前記念病院
医療法人真愛会髙宮病院
医療法人千徳会桜ヶ丘病院
医療法人社団永生会永生病院
秋田組合総合病院
社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院
北里大学病院
国家公務員共済組合連合会東北公済病院
益田赤十字病院
武蔵野赤十字病院
医療法人社団田口会新橋病院
社会保険滋賀病院
上都賀厚生農業協同組合連合会上都賀総合病院
社団法人出水郡医師会立阿久根市民病院
栃木県厚生農業協同組合連合会下都賀総合病院
芳賀赤十字病院
黒石市国民健康保険黒石病院
総合病院国保旭中央病院
石巻赤十字病院
社団法人全国社会保険協会連合会社会保険相模野病院
福島県厚生農業協同組合連合会白河厚生総合病院
医療法人医理会柿添病院
金沢医科大学病院
名古屋記念病院
山口県済生会下関総合病院
医療法人一心会伊奈病院
独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院
医療生協わたり病院
医療法人徳洲会福岡徳洲会病院
医療法人明徳会佐藤第一病院
神奈川県厚生農業協同組合連合会相模原協同病院
広島赤十字・原爆病院
医療法人つくばセントラル病院
福井赤十字病院
京都第二赤十字病院
公立学校共済組合東海中央病院
宇都宮社会保険病院
淀川キリスト教病院
医療法人社団向陽会阿知須同仁病院
社会医療法人愛仁会
総合病院鹿児島生協病院
石巻市立病院
済生会新潟第二病院
鶴岡市立荘内病院
医療法人裕紫会中谷病院
財団法人仁泉会医学研究所　北福島医療センター
社会保険紀南病院
川内市医師会立市民病院

社会保険中京病院
福岡市医師会成人病センター
秋田赤十字病院
宇和島社会保険病院
健康保険諫早総合病院
広島赤十字・原爆病院
独立行政法人労働者健康福祉機構　岡山労災病院
姫路赤十字病院
福島県厚生農業協同組合連合会白河厚生総合病院
新古賀病院
医療法人明和会 中通総合病院
総合病院　土浦病院
飯塚病院
地方独立行政法人 静岡県立病院機構　静岡県立病院
社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院
前橋赤十字病院
山口県済生会下関総合病院
群馬県済生会前橋病院
医療法人　社団康陽会　中嶋病院
医療法人社団永生会　永生病院
社会医療法人厚生会木沢記念病院
医療法人　永仁会　永仁会病院
医療法人　新さっぽろ脳神経外科病院
社会医療法人阪南医療福祉センター阪南中央病院
筑波メディカルセンター病院
寺岡記念病院
医療法人仁明会　内科・消化器科 羽鳥病院
医療法人恵友会恵友病院
大田原赤十字病院
社会医療法人共愛会　戸畑共立病院
済生会京都府病院
成田赤十字病院
福井県済生会病院
医療法人　景岳会　南大阪病院
医療法人整友会　弘前記念病院
ＪＡ長野厚生連佐久総合病院
東北公済病院
日本医科大学武蔵小杉病院
自治医科大学附属さいたま医療センター

（受付順、掲載許可をいただいた病院のみ掲載しています）

このほか、地域フォーラム、セミナーの開催に多くの団体・企業・病院・個人からご支援をいただきました。厚くお礼申し上げます。

発行日　2012 年 1 月 1 日
発行者　医療安全全国共同行動
〒 980-8575　宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1 東北大学医学部 5 号館 10 階東
http://kyodokodo.jp　secretariatpartners@kyodokodo.jp